SONY

3-205-055-**44**(1)

コンパクト
コンファレンス
パッケージ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

PCS-1600

MEMORY STICK ™

© 2000 Sony Corporation

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

7～11ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたりキャビネットを破損したときは

➡ ❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続コードを抜く。
❸ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

目次

⚠警告 7
⚠注意 8
電池についての安全上のご注意 11
本機の性能を保持するために 12

1章
設置と準備

本機の特長 13
システムの構成 15
基本システムを構成する機器 15
別売り機器の一覧 16
基本システムの接続 18
システムの準備 19
リモートコマンダーに乾電池を入れる 19
モニター用テレビの準備をする 20
モニターの音量を調節する 21
コンパクトプロセッサーを設置する 22
電源を入れる/切る 23
電源を入れる 23
設置後、最初に電源を入れたときは 24
システム（コンパクトコンファレンスパッケージ）を
スタンバイ状態にする 28
ヘルプメニューについて 29
コンパクトプロセッサーのバージョン表示とオプション
表示について 30
電源を切る 30
メニューの基本操作 31
通信中でないときにメニューを切り換える 31
通信中にメニューを切り換える 36
メニューを操作する 39
画面に表示されているインジケーターを消す 40
文字や数字を入力する 41

2章
ミーティング中の操作

こちらからミーティングを始める 43
登録していない相手を呼び出す 44

登録している相手を呼び出す 49
相手から呼び出されたとき 52
着信方法を設定する 52
自動着信のときは 53
手動着信のときは 53
現在の通信状態を確認する 55
音声を調節する 57
音量を調節する 57
音声の送信を一時的にカットする—マイクミュート機能 57
映像と音声の時間差を調整する—リップシンク機能 58
エコーキャンセラー 58
カメラを調節する 59
アングルとズームを調節する 60
フォーカスと画像の明るさを手動調整する 61
アングルとズームの設定をプリセットする 62
自動追尾する—オートトラッキング機能 65
映像と音声を切り換える 67
こちら側の映像を子画面に表示する 68
静止画を表示する 69
“メモリースティック”の静止画を表示する 69
“メモリースティック”について 71
静止画表示を解除する 72
静止画を保存する 72
静止画を送信する 73
動画を静止画にして1枚だけ送信する 73
動画を静止画にして連続で送信する 74
オブジェクトカメラの映像を送信する 74
“メモリースティック”の静止画を送信する 75
静止画表示を解除する 75
静止画を“メモリースティック”に保存する 76
“メモリースティック”メニューで保存する 77
DTMFを送信する 78
ミーティングを終了する 79

3章
いろいろなミーティング

外部MCUと接続する 80
音声のみのミーティングをする 83

4章 登録と設定

ミーティングの相手を登録する 84
新しい相手を登録する 85
アドレス帳を修正する 89
登録した相手を削除する 90
アドレス帳の設定をコピーする 90
登録するときのご注意 91
システムを設定する 92
ISDN設定メニューを設定する 92
設定メニューの項目 95
発信設定メニュー 95
着信設定メニュー 100
マルチポイント設定メニュー 102
音声設定メニュー 103
一般設定メニュー 105
管理者メニュー 107
ISDN設定メニュー 108
LAN設定メニュー 108
インフォメーションメニュー 112

5章 別売りの機器を使ったミーティング

別売りのボードを取り付ける 114
ISDN回線を3回線使用する 115
V.35インターフェースを使用する 115
ソフトウェアをアップグレードする 116
LANでミーティングするときの接続 117
デュアルモニターでミーティングをする 118
複数のマイクロホンを使用する 119
ミーティングの音声を録音する 120
外部機器を使用する 121
入力用の外部映像機器を接続する 121
出力用の外部映像機器を接続する 122
T.120データ会議をする 123
パーソナルコンピューターを接続する 123

コンパクトプロセッサーの設定をする 124
NetMeetingで接続する 125
外部から本機にアクセスする 126
Webブラウザを使用する 126
Telnetを使用する 126
AUX CONTROL端子による外部コントロールを使用する 126

6章
本機をマルチポイントとして使用するミーティング

概要 127
多地点会議を始める 128
多地点会議をマルチポイント接続リストとして登録する 128
登録している相手を呼び出す 131
相手から呼び出しを受ける 136
多地点会議をするときのご注意 136
議長制御を行う 137
放送モードを切り換える 137
放送する端末を手動で選ぶ 138
こちら側の映像を確認する 139
子端末から送信要求を受ける 139
多地点会議を終了する 140
二次端末の取り扱い 142
マルチポイントの属性表 144

付録

各部の名称と働き 146
メッセージ一覧 154
故障かな？ 157
仕様 159
ミーティングスペースのレイアウト 166
保証書とアフターサービス 168
用語解説 169

⚠警告

火災

感電

下記の注意を守らないと、火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。

禁止

直射日光に当たる場所、熱器具の近くには置かない

変形したり、故障したりするだけでなく、レンズの特性により火災の原因となります。特に窓際に置くときなどはご注意ください。

禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

禁止

レンズを太陽に向けて放置しない

太陽光がレンズを通して内部に焦点を結び、火災の原因となることがあります。

⚠注意

**下記の注意を守らないと、
けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。**

指示

モニター用テレビ、プロセッサーを確実に設置する

上記の製品を設置するときは、指定の方法で確実に固定してください。確実に固定しないと、移動や地震の際などに製品が転倒したり、落下してけがの原因となることがあります。

禁止

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

禁止

せまい場所に設置しない

せまい場所に設置すると、本機内部に熱がこもり、発煙、発火などが起こり、やけどの原因になることがあります。

注意

接続の際は電源を切る

電源を入れたままで電源コードや接続ケーブルを接続すると、感電や故障の原因になることがあります。

指示

指定されたACアダプター、電源コードを使う

取扱説明書に記されているACアダプター、電源コードを使わないと、感電や故障の原因になることがあります。

注意

電源コード、接続コードを接続する場合は、足にひっかけないように注意する

電源コードや接続コードに足をひっかけて、本機が落下、転倒すると、カメラのレンズが割れて、けがをすることがあります。

⚠注意　下記の注意を守らないと、
けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

転倒、移動防止の処置をする

この製品をラックに取り付け・取りはずしするときは、転倒・移動防止の処置をしないと、倒れたり、動いたりして、けがの原因となることがあります。
安定した姿勢で注意深く作業してください。
また、ラックの設置状況、強度を充分にお確かめください。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

ぬれた手でACアダプターにさわらない

ぬれた手でACアダプターの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

移動させるときは電源コード、接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

長時間使用しない場合は、テレビから本体をはずして保管する

本機が落下、転倒すると、カメラのレンズが割れて、けがをすることがあります。

カメラの固定ネジをしっかり締める

プロセッサーをモニターに固定するとき、カメラの取付ネジ2ヶ所を締めないとカメラが落下してけがの原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

⚠警告

- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 充電しない。
- 指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

- ＋と－の向きを正しく入れる。
- 電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

本機を廃棄する場合は、内蔵の電池を小型化学廃棄物として処理する必要がありますので、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

本機の性能を保持するために

取り扱い上のご注意

使用・保管場所

次のような場所での使用および保管は避けてください。

- 極端に寒いところや暑いところ。
- 湿気、ほこりの多いところ。
- 激しく振動するところ。
- 強い磁気を発生するものの近く。
- 強力な電波を発生する機器やラジオの送信所の近く。
- 雑音が多いところ。

お手入れ

キャビネットやパネルの汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふきとってください。汚れがひどいときは、中性洗剤溶液を少し含ませた布で汚れをふきとり、乾いた布で仕上げてください。アルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤など、揮発性のものをかけると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

1章

設置と準備

本機の特長

コンパクトコンファレンスパッケージPCS-1600は、離れたところにあるグループをISDN（デジタル公衆通信網）で結び、映像と音声を送受信することにより、相手側と同席しているかのようにミーティングをすることを可能にするシステムです。
コンパクトコンファレンスパッケージPCS-1600は、1ミーティングスペースに3人程度の参加者を想定していますが、マイクロホンPCS-A300（別売り）を追加して、多人数でのミーティングも可能です。

- 別売りのアップグレードキットPCS-UC160とBRIボードPCS-I160を使ってアップグレードすると、コンパクトコンファレンスパッケージPCS-1600を4地点間までの接続が可能なマルチポイント（多地点会議装置）として使用することもできます。
- 別売りのインターフェースボードを取り付ければ、V.35インターフェースによる接続や6Bチャネルでのミーティングが可能になります。
- 別売りのアップグレードキットPCS-UC161で、本機のソフトウェアをアップグレードすると、LANを使ったミーティングも可能になります。

世界標準方式を採用

WTSC（世界電気通信標準化会議）（旧CCITT：国際電信電話諮問委員会）が定めたITU-T勧告（旧CCITT勧告）に準拠、日本国内だけでなく、海外とも簡単に接続することができます。

コンパクトサイズ・軽量

B5サイズ、重さ約2.5 kgの小型化を実現。
コンパクトサイズなので、モニター用テレビの上に手軽に設置することができます。

簡単な設置

コンパクトコンファレンスパッケージは、本体とカメラ、マイクがひとつにまとまっているので、複雑な接続は必要ありません。モニター用のテレビと接続し、ISDNモジュラーケーブルを接続するだけで設置が終わります。

操作を案内するヘルプメニュー

モニター画面に操作案内用のヘルプメニューが表示されます。
設置後最初に電源を入れたときには、設定用のウィザードが表示されます。

モニター用のテレビはリモートコマンダーで操作可能

ソニー製のモニターを使用しているときには、モニターの操作をコンパクトコンファレンスパッケージのリモートコマンダーから操作することができます。

オートトラッキング（自動追尾）機能

パン・チルト機能に加えて、オートトラッキング（自動追尾）機能を使うと、カメラがある特定の色や明るさの被写体を記憶し、自動的に被写体を追うことができます。

発言を明瞭に伝えるエコーキャンセラー内蔵

音声がミーティングルームの壁に反響して生じるエコーを効果的に減衰するエコーキャンセラー回路を内蔵。参加者の発言を明瞭に伝えます。

メモリースティックスロットを装備

メモリースティックスロットを装備しているので、デジタルスチルカメラなどで撮影した静止画をミーティングに使用することができます。

デュアルモニターシステム

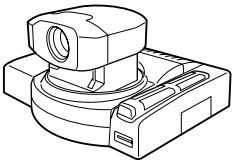
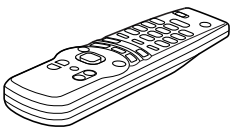
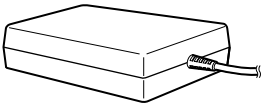
モニターを2台使用すると、1台を動画専用、もう1台を静止画専用のモニターとして使用することができます。

システムの構成

PCS-1600は、ミーティングをするために必要な基本システムと、より充実したミーティングを行うための別売り機器で構成されます。

基本システムを構成する機器

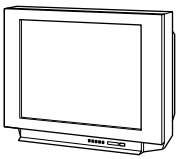
コンパクトコンファレンスパッケージPCS-1600は、PCS-1600シリーズの中心をなす基本システムです。
コンパクトコンファレンスパッケージPCS-1600は以下の機器で構成されています。

機器	説明
コンパクトプロセッサー PCS-P160 カメラ PCS-C160 	映像、音声信号を処理して送受信するコーデック部、音声のエコーをカットするエコーキャンセラーおよび通信回線とのインターフェース部、システム制御部からなります。 カメラとマイク一体型です。
リモートコマンダー PCS-R160 	コンパクトプロセッサーを操作します。 また、ソニー製のモニター用テレビを操作することもできます。
ACアダプター PCS-AC15 	コンパクトプロセッサーに電源を供給します。

別売り機器の一覧

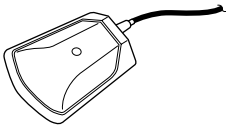
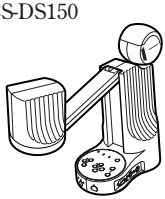
テレビ

ミーティングを行うには、映像モニター用のテレビが必要です。

機器	説明
映像モニター用テレビ 	映像モニター、スピーカーとして使用します。また、相手の映像以外の画像やメニューなども表示します。 ソニー製のモニターを使用すると、コンパクトコンファレンスパッケージのリモートコマンダーから操作することができます。 デュアルモニターシステムで使用するときは、モニターが2台必要です。

専用別売り機器

ミーティングを充実させるために、以下の別売り機器が用意されています。

機器	説明
マイクロホン PCS-A300 	参加者が2、3人増えたときに、追加して使用することができます。 マイクロホンは2台まで接続可能です。ただし、マイクロホンと内部マイクは同時には使用できません。
ドキュメントスタンド PCS-DS150 	書画用カメラです。赤外線映像伝送機能を使って、映像をワイヤレスで送信することができます。ドキュメントスタンドにコンピューターを接続し、その映像を送信することも可能です。

機器	説明
BRIボード PCS-I160	ISDN端子を増設します。6Bチャネルでの接続が可能になります。
V.35ボード PCS-I161	V.35インターフェースによる接続を可能にします。
V.35ケーブル PCS-K32	V.35ボードPCS-I161のV.35端子とターミナルアダプターを接続するためのケーブルです。(1m)
S映像接続コード PCS-K60	S映像端子を持っている外部機器を接続するためのコードです。
アップグレードキット PCS-UC160	コンパクトプロセッサーをMCU(多地点会議装置)として使用するためのアップグレードキットです。
アップグレードキット PCS-UC161	H.323に対応したLAN上でのミーティングをするためのアップグレードキットです。

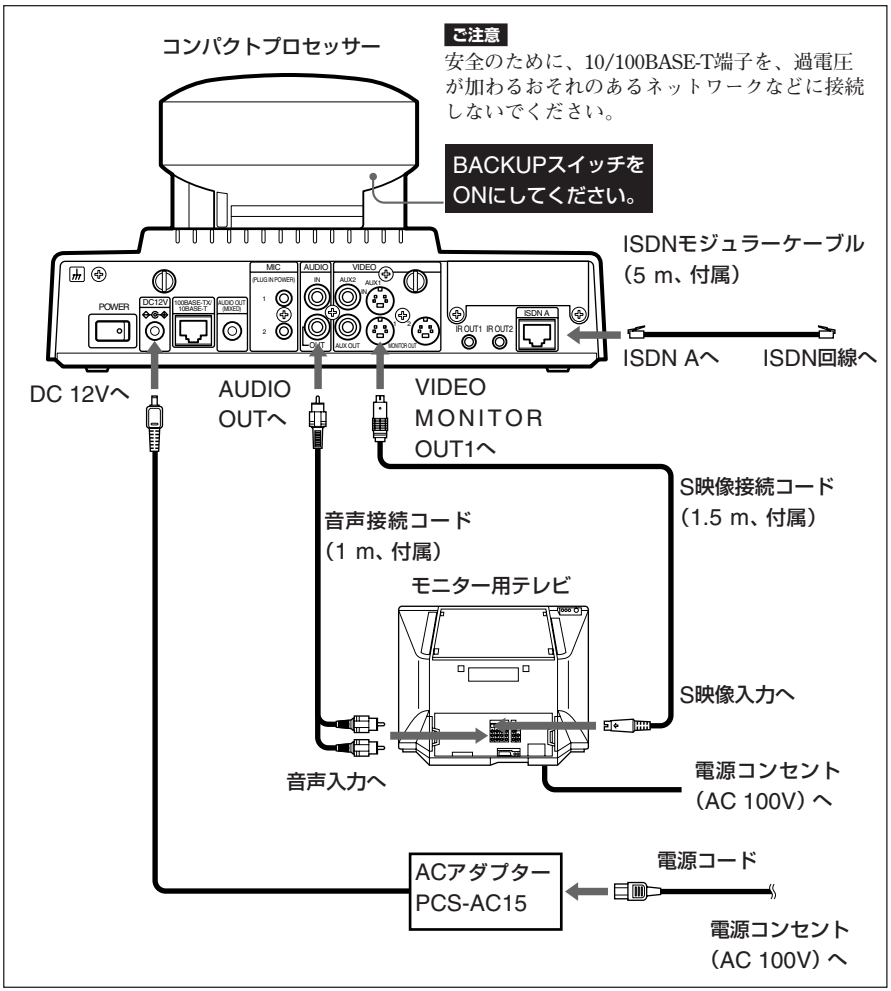
基本システムの接続

コンパクトプロセッサーとACアダプターPCS-AC15を接続し、ISDNモジュラーケーブルでISDN回線と接続してください。

ISDNモジュラーケーブルと音声接続コードには、ラベルが付いています。それぞれのラベルの色と後面の端子の文字の色が合うようにして接続してください。

⚠注意

接続するときは、必ず電源を切ってから行ってください。

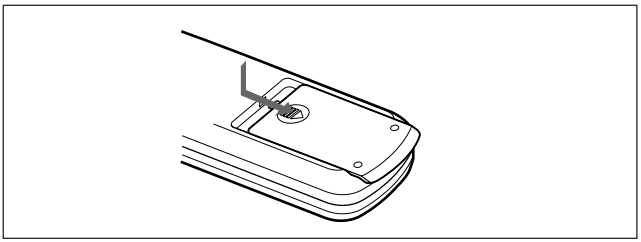


システムの準備

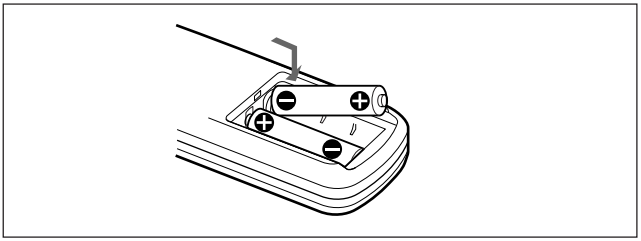
リモートコマンダーに乾電池を入れる

コンパクトコンファレンスパッケージでは、ミーティングの操作のほとんどを付属のリモートコマンダーで行います。ここでは、リモートコマンダーの電池の入れかたを説明します。

1 電池ぶたを取りはずす。



2 単3形乾電池（付属）を2本、⊕ ⊖の向きを正しく入れる。



⚠注意

リモートコマンダーに単3形乾電池を入れるときは、⊖極側から入れてください。⊕極側から乱暴に入れようとすると、乾電池の絶縁被膜が破れてショートすることがあります。

3 電池ぶたを取り付ける。

⚠注意

乾電池の寿命

リモートコマンダーで操作ができなくなったら、乾電池の寿命です。2本とも新しい乾電池と交換してください。

⚠注意

乾電池についてのご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

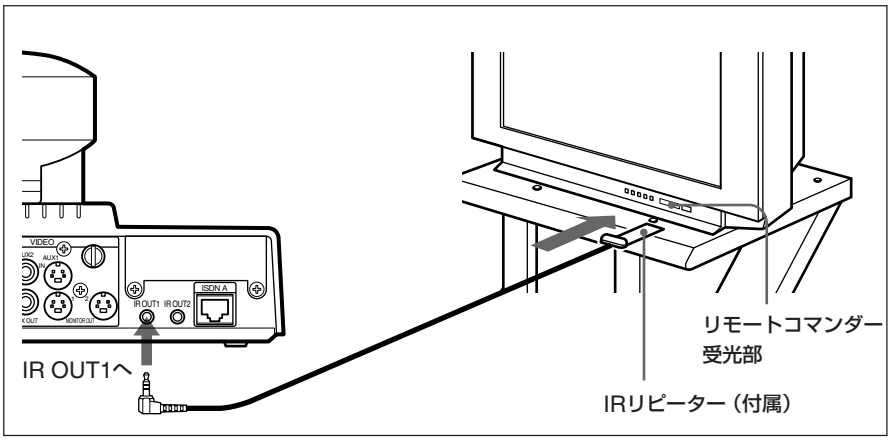
- ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 長い間乾電池を使わないときは、取り出しておいてください。
  液もれが起こったときは、電池入れについた液をよく拭きとってから新しい乾電池を入れてください。

モニター用テレビの準備をする

モニター用テレビのリモートコマンダー受光部の下に付属のIRリピーターを差し込んでください。IRリピーターを設置すると、リモートコマンダーのI/⏻ボタンでコンパクトプロセッサーの電源を入れたとき、ソニー製のモニター用テレビの電源も同時に入るようにすることができます。

IRリピーターが正常に動作しないときは、一般設定メニューの「モニターモード」を「MODE2」に設定してください。

◆「モニターモード」の設定については、「一般設定メニュー」（106ページ）をご覧ください。



ソニー製のモニターを使用しているときは

リモートコマンダーからモニター用テレビを操作することができます。

◆ リモートコマンダーからモニターを操作する方法は、「モニター用テレビを操作するときは」（153ページ）をご覧ください。

モニターの画質について

モニターの画質（ピクチャー、色あい、色の濃さ、明るさ、シャープネス）は、モニター側で調節してください。

◆ 画質の調整については、モニターに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

接続しているモニターのサラウンド機能などは使用しないでください。コンパクトプロセッサーのエコーキャンセラーが正しく動作しなくなり、音がおかしくなります。

モニターの音量を調節する

音量はコンパクトプロセッサー側で調節してください。

1 リモートコマンダーの音量/ブライトボタンを押して、音量調節バーが真ん中になるようにする。

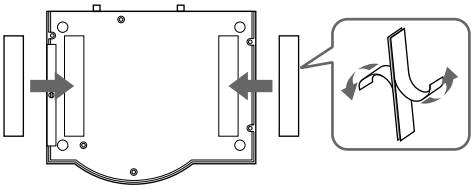
2 モニター用テレビの音量を調節する。

相手の声がよく聞きとれる音量に設定してください。

コンパクトプロセッサーを設置する

コンパクトプロセッサーを設置するときは、付属のマジックテープを使用して、コンパクトプロセッサーがすべり落ちないように固定してください。

1 コンパクトプロセッサーの底面にマジックテープを貼る。



2 モニター用テレビの上部にマジックテープを貼る。

3 コンパクトプロセッサーのマジックテープとモニター用テレビのマジックテープをひっつけて、コンパクトプロセッサーを固定する。

電源を入れる/切る

ここでは、コンパクトプロセッサーの電源を入れる手順、切る手順を説明します。

ご注意

コンパクトプロセッサーを操作するときは、リモートコマンダーの会議/書画/テレビ切り換えスイッチを「会議」にしておいてください。

電源を入れる

コンパクトプロセッサーの電源を入れる手順は以下のとおりです。

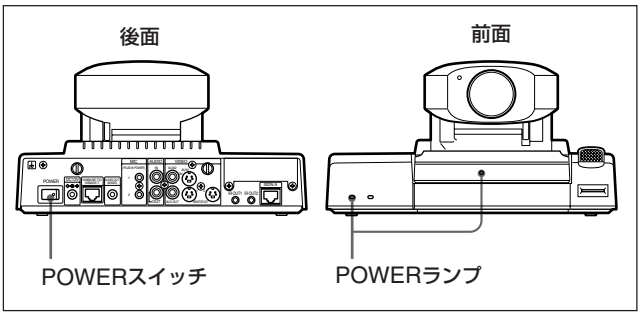
1 モニター用テレビがスタンバイ状態になっていることを確認する。

◆ モニター用テレビをスタンバイ状態にする方法は、モニター用テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

2 ミーティングで使用するその他の機器の電源を入れる。

3 コンパクトプロセッサー後面のPOWERスイッチをオンにする。

しばらくすると、コンパクトプロセッサーとモニター用テレビの電源が入ります。
コンパクトプロセッサー（メインユニット）とカメラのPOWERランプ（緑）が点灯し、自己診断が始まります。
自己診断が終了すると、モニター用テレビにはランチャーメニュー（こちら側が写している映像も）が表示されます。



ご注意

電源が入ると、カメラがトレーニング動作を行います。指を挟まないようにしてください。

スリープ機能について

一定時間（1分～99分）コンパクトプロセッサーを操作しないと、コンパクトプロセッサーは節電のため、スリープモードに入ります。
スリープモードに入ると、メインユニットのPOWERランプが点滅します。
相手から呼び出しを受けると、スリープモードは解除されます。

スリープモードを解除するには

リモートコマンダーのいずれかのボタンを押してください。

スリープモードに入るまでの時間を設定するには

一般設定メニューの「スリープ時間」でスリープモードに入るまでの時間を設定してください。スリープモードにしたくないときは、一般設定メニューの「スリープモード」を「オフ」に設定してください。

◆「スリープ時間」と「スリープモード」の設定については、「一般設定メニュー」（105ページ）をご覧ください。

ご注意

- カメラのPOWERランプは、スリープモードに入っても点滅しません。
- ソニー製のモニター用テレビは、スタンバイ状態になります。

設置後、最初に電源を入れたときは

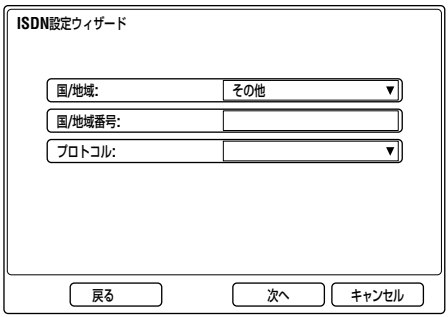
自己診断が終わると、設定用のウィザードが表示されます。ウィザードに従って登録を行ってください。

1 メニューやメッセージに表示する言語を選ぶ。

言語設定/Language: 英語またはフランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語、イタリア語、中国語から選ぶことができます。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「次へ」を選び、ジョイスティックを押す。

下記のウィザードが表示されます。



3 下記の項目を設定する。

国/地域: コンパクトプロセッサーを使用する国や地域を選ぶ(日本国内で使用する場合は、「日本」を選んでください)。

国/地域番号: 国番号や地域番号を入力する。日本国内で使用する場合は、「81」と入力してください。(「国/地域」で「日本」を選ぶと、自動的に「81」と表示されます。)

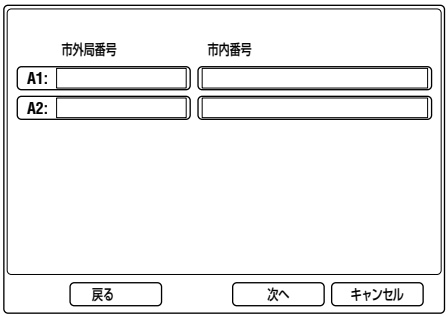
ご注意

日本国内で使用する場合は、「プロトコル」の設定は必要ありません。

(続く)

4 リモートコマンダーのジョイスティックで「次へ」を選び、ジョイスティックを押す。

下記のウィザードが表示されます。



5 下記の項目を設定する。

市外局番号: 市外局番号を入力する。市外局番号の最初の「0」は入力しないでください。

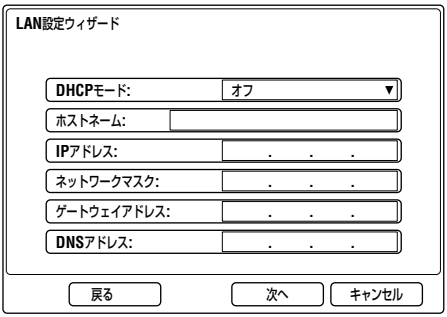
市内局番: 回線番号（サブアドレスを設定しているときはサブアドレスも）を入力する。サブアドレスを登録する場合は、回線番号とサブアドレスを「✱(アスタリスク)」で区切って入力します。サブアドレスは、数字のみ有効です。

ご注意

- 日本国内で使用する場合は、「Auto SPID」の設定は必要ありません。
- 別売りのBRIボードPCS-I160を取り付け、3回線使用するときはB1～C2欄も表示されます。B1～C2欄も登録してください。

6 リモートコマンダーのジョイスティックで「次へ」を選び、ジョイスティックを押す。

下記のウィザードが表示されます。



7 下記の項目を設定する。

DHCPモード: DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホスト構成プロトコル）を設定します。

オート: IPアドレスとネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNSアドレスを自動的に取得します。

オフ: DHCPを「オフ」に設定します。「オフ」にしたときは、IPアドレスとネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNSアドレスを入力してください。

ホストネーム: ホスト名を入力します。

IPアドレス: IPアドレスを入力します。

ネットワークマスク: ネットワークマスクを入力します。

ゲートウェイアドレス: デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

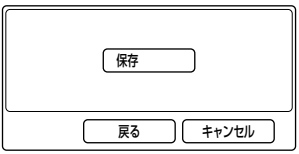
DNSアドレス: DNS（Domain Name System）サーバーアドレスを入力します。

ヒント

「DHCPモード」を「オート」に設定しているときは、自動取得したIPアドレスをインフォメーションメニューで確認することができます（112ページ）。

8 リモートコマンダーのジョイスティックで「次へ」を選び、ジョイスティックを押す。

確認のメッセージが表示されます。



（続く）

9 リモートコマンダーのジョイスティックで「保存」を選び、ジョイスティックを押す。

設定が保存されます。

設定を中止するには

リモートコマンダーのジョイスティックで「キャンセル」を選び、ジョイスティックを押してください。

ひとつ前のウィザードに戻るには

リモートコマンダーのジョイスティックで「戻る」を選び、ジョイスティックを押してください。

システム（コンパクトコンファレンスパッケージ）をスタンバイ状態にする

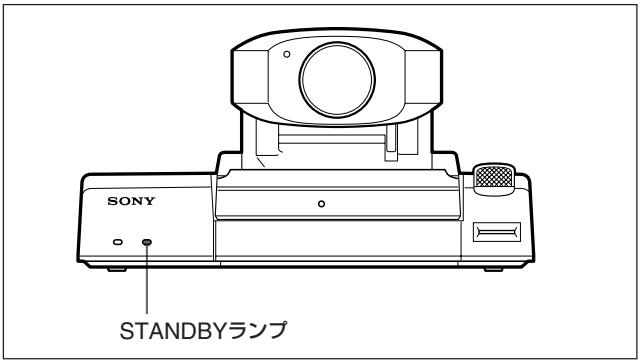
スタンバイ状態にしておくと、リモートコマンダーのI/⏻ボタンで電源を入れることができます。

1 リモートコマンダーのI/⏻ボタンを押す。

モニター画面に「電源を切りますか?」という確認のメッセージが表示されます。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「OK」を選び、ジョイスティックを押す。またはリモートコマンダーのI/⏻ボタンを押す。

コンパクトプロセッサーとモニター用テレビがスタンバイ状態になり、STANDBYランプ（オレンジ）が点灯します。



電源を切るのを中止するには

手順**2**でリモートコマンダーのジョイスティックで「キャンセル」を選び、ジョイスティックを押してください。

ご注意

モニター画面にメニューが表示されている間は、後面のPOWERスイッチをオフにしないでください。

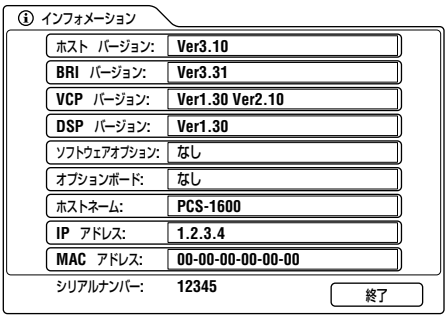
ヘルプメニューについて

リモートコマンダーのヘルプボタンを押すと、操作案内用のバルーンヘルプまたはヘルプ画面が表示されます。

コンパクトプロセッサーのバージョン表示とオプション表示について

コンパクトプロセッサーのバージョンとインストールされているオプションの種類を表示することができます。
インフォメーションメニューで確認してください。

◆ インフォメーションメニューについて詳しくは、「インフォメーションメニュー」（112ページ）をご覧ください。



インフォメーションメニュー

電源を切る

コンパクトプロセッサーの電源を切る手順は以下のとおりです。

1 コンパクトプロセッサー後面のPOWERスイッチをオフにする。

2 ミーティングで使用したその他の機器の電源を切る。

ご注意

- 長期間システムを使わないときは、POWERスイッチをオフにしてください。
- POWERスイッチをオンにしていないと、ミーティングをする相手から呼び出しが受けられなくなります。

メニューの基本操作

画面に表示されるメニューは、通信中の場合と、通信中でない場合により変わります。

通信中でないときにメニューを切り換える

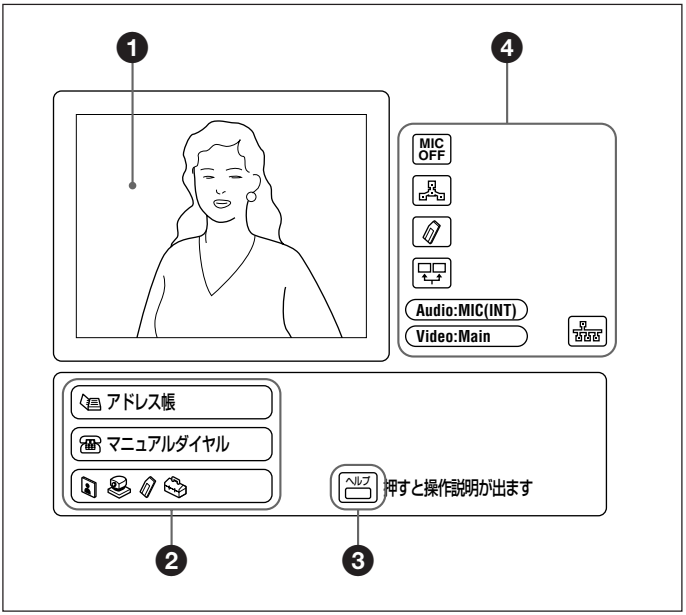
通信中でないときは、下記のランチャーメニューが画面に表示されています。リモートコマンダーのジョイスティックで表示したいメニューを選び、ジョイスティックを押してください。メニューが切り換わります。

フルスクリーン表示にしたいときは

リモートコマンダーの子画面ボタンを押してください。画面がフルスクリーン表示になります。フルスクリーン表示を解除するときは、リモートコマンダーの戻るボタンまたは子画面ボタン、決定ボタンを押してください。

ランチャーメニュー

以下にランチャーメニューの使い方について説明します。



（続く）

❶ スクリーン

こちら側のカメラの映像が表示されます。リモートコマンダーのジョイスティックでスクリーンを選び（スクリーン枠が黄色になります）ジョイスティックを押すと、ジョイスティックでカメラアングルを上下左右に調整できます。またリモートコマンダーのズーム／チャンネルボタンのTボタンを押すと画像が大きくなり、Wボタンを押すと画像が小さくなります。望んだ画像が得られたら、再びジョイスティックを押すとカメラアングルの調整が終了します。カメラアングルの調整について詳しくは、60ページをご覧ください。

❷ アドレス帳／マニュアルダイアル／

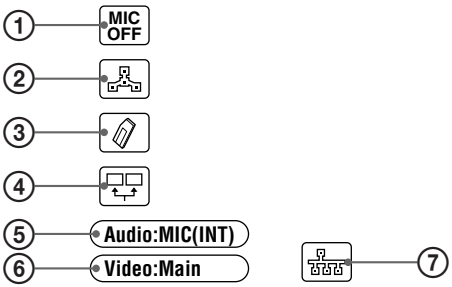
ジョイスティックで選んでメニューを切り換えます。各メニューについて詳しくは、34ページ～35ページをご覧ください。

❸ ヘルプ

リモートコマンダーのヘルプボタンを押すと各メニューの説明が表示されます。もう一度ヘルプボタンを押すと説明が消えます。

❹ 各種アイコン

各種アイコンについて説明します。



① **マイクミュート機能**：この表示が出ているときは、ミューティング中こちらから相手に送る音声がカットされます。詳しくは57ページを参照してください。

② **マルチポイントモード**：マルチポイント設定でマルチポイントモードがオンのときに表示されます。詳しくは102ページを参照してください。（マルチポイントモードを使用するには、別売りのアップグレードキットPCS-UC160が必要です。）

③ **メモリースティック**：メモリースティックがメモリースティックスロットに差し込まれているときに表示されます。

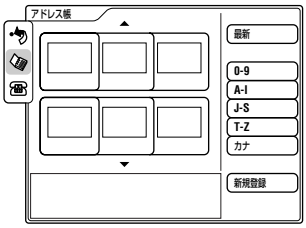
④ **デュアルモニター**：一般設定でデュアルモニターがオンのときに表示されます。詳しくは105ページをご覧ください。

⑤ **音声入力**：音声の入力を表示します。入力を切り換えるときは音声設定メニューの入力切り換えを設定します。詳しくは67ページを参照してください。

⑥ **映像入力**：モニターに移る映像の入力を表示します。入力を切り換えるときは、リモートコマンダーの入力切換ボタンを押してジョイスティックで入力を選択します。詳しくは67ページを参照してください。

⑦ **LANの状態表示**：LANが使用可能なときは青で、使用不可能なときは赤で表示されます。

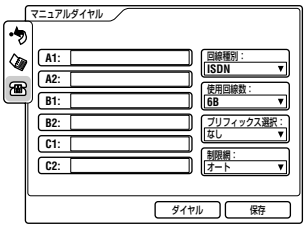
アドレス帳メニュー



登録済みの相手とミーティングをするときやミーティングをする相手を登録、修正するときに使います。
(リモートコマンダーのアドレス帳ボタンを押しても表示されます。)

◆ アドレス帳メニューについて詳しくは、49～51、84～91ページをご覧ください。

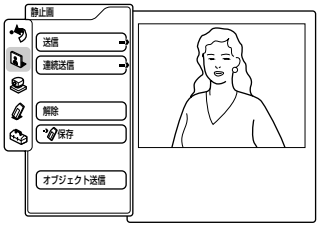
マニュアルダイヤルメニュー



登録していない相手とミーティングをするときに使います。

◆ マニュアルダイヤルメニューについて詳しくは、44～48ページをご覧ください。

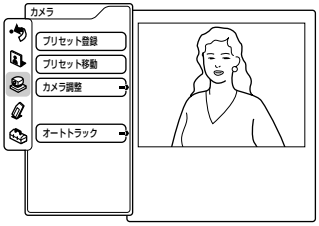
静止画メニュー



静止画を操作するときに使います。
(リモートコマンダーの静止画ボタンを押しても表示されます。)

◆ 静止画メニューについて詳しくは、72～75ページをご覧ください。

カメラメニュー



カメラのアングルとズームを操作するときに使います。(リモートコマンダーのカメラボタンを押しても表示されます。)

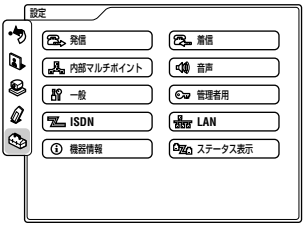
◆ カメラメニューについて詳しくは、59～66ページをご覧ください。

メモリースティックメニュー

“メモリースティック”を使用するときに使います。“メモリースティック”を挿入していないと表示されません。

◆ メモリースティックメニューについて詳しくは、69～72ページをご覧ください。

設定メニュー

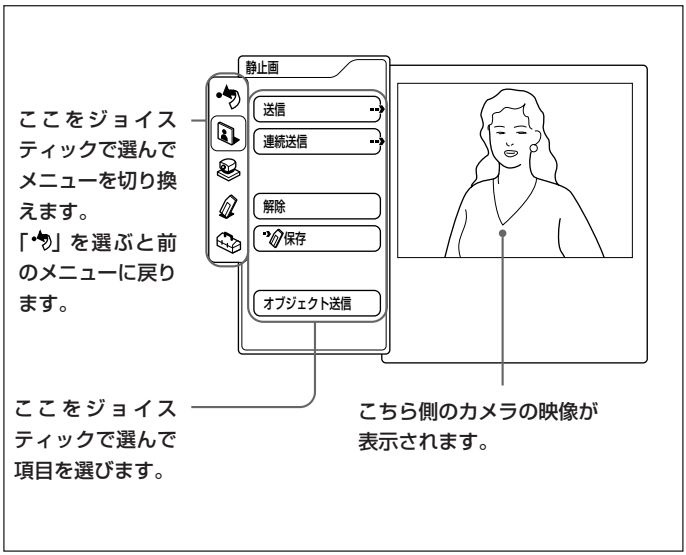


システムの設定を変更するときに使います。

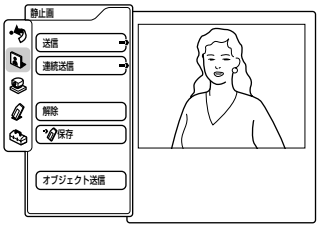
◆ 設定メニューについて詳しくは、92～113ページをご覧ください。

通信中にメニューを切り換える

通信中のとき、リモートコマンダーの静止画ボタンを押すと、モニター画面に下記の静止画メニューが表示されます。リモートコマンダーのジョイスティックで表示したいメニューを選び、ジョイスティックを押してください。メニューが切り換わります。



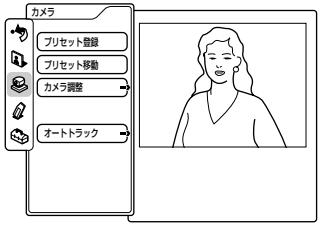
静止画メニュー



静止画を操作するときに使います。
(リモートコマンダーの静止画ボタンを押しても表示されます。)

◆ 静止画メニューについて詳しくは、73～75ページをご覧ください。

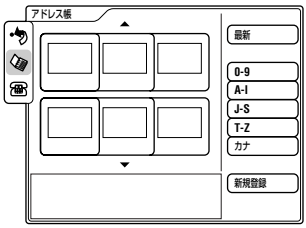
カメラメニュー



カメラ操作に関するメニューです。
(リモートコマンダーのカメラボタンを押しても表示されます。)

◆ カメラメニューについて詳しくは、59～66ページをご覧ください。

アドレス帳メニュー



登録済みの相手とミーティングをするときやミーティングをする相手を登録、修正するときに使います。
(リモートコマンダーのアドレス帳ボタンを押してください。)

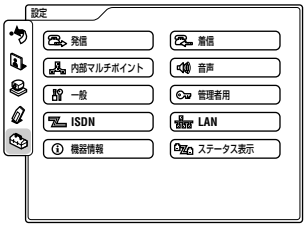
◆ アドレス帳メニューについて詳しくは、49～51、84～91ページをご覧ください。

メモリースティックメニュー

“メモリースティック”を使用するときに使います。“メモリースティック”を挿入していないと表示されません。

◆ メモリースティックメニューについて詳しくは、69～72ページをご覧ください。

設定メニュー



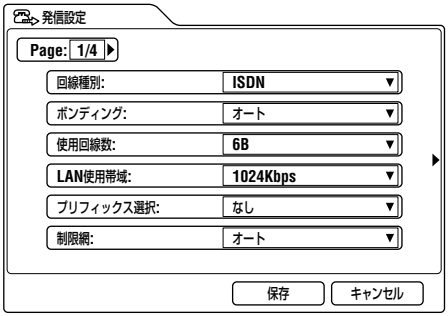
システムの設定を変更するときに使います。

◆ 設定メニューについて詳しくは、92～113ページをご覧ください。

メニューを操作する

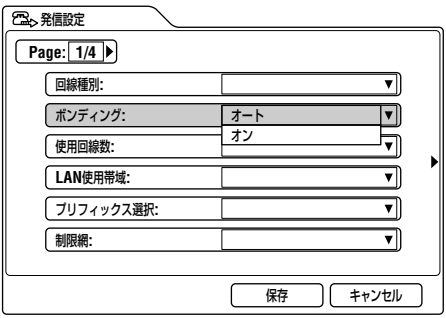
ここでは発信設定メニューを例にして、基本操作を説明します。

1 設定メニューから発信設定メニューを表示する（35ページ）。



2 リモートコマンダーのジョイスティックで設定したい項目を選び、ジョイスティックを押す。

選んだ項目の設定が表示されます。



3 リモートコマンダーのジョイスティックを上下に動かして、項目の設定を選び、ジョイスティックを押す。

（続く）

4 リモートコマンダーのジョイスティックを下に動かして、「保存」を選び、ジョイスティックを押す。

設定が保存されます。

メニューのページを切り換えるには

リモートコマンダーのジョイスティックを左右に動かしてください。

ひとつ前の階層に戻るには

リモートコマンダーの戻るボタンを押してください。

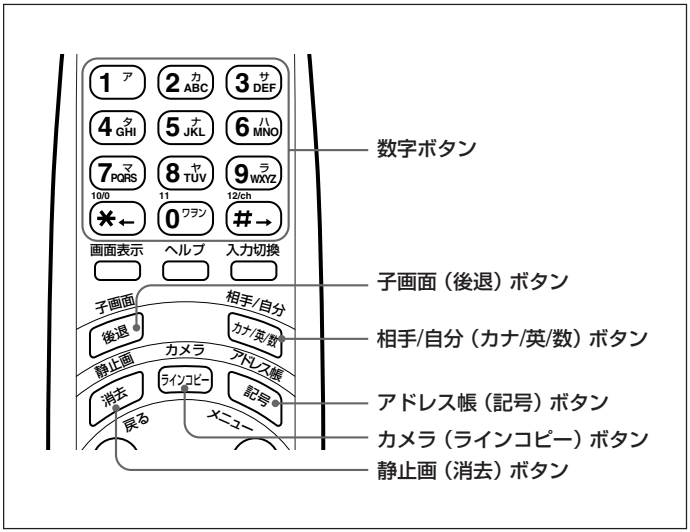
画面に表示されているインジケーターを消す

画面に表示されているインジケーターを消したいときは、リモートコマンダーの画面表示ボタンを押してください。画面表示が消えます。画面表示を元に戻すときは、リモートコマンダーの画面表示ボタンをもう1度押してください。

ご注意

表示によっては、画面表示ボタンを押しても消すことができない表示があります。

文字や数字を入力する



入力モードを切り換えるには

リモートコマンダーの相手/自分（カナ/英/数）ボタンを繰り返し押して、入力モードを切り換えてください。

文字（アルファベット、カナ）や数字、記号を入力するには

リモートコマンダーの数字ボタンを押して、入力したい文字や数字を入力します。ボタンを繰り返し押して、入力したい文字、数字を選んでください。記号を入力するときは、アドレス帳（記号）ボタンを繰り返し押して、入力したい記号を選んでください。

「ー」と「゛」、「゜」の記号は、0ボタンを繰り返し押して入力することもできます。

番号を下の欄にコピーするには

リモートコマンダーのカメラ（ラインコピー）ボタンを押します。

番号が下の欄にコピーされます。

入力をまちがえたら

リモートコマンダーの子画面（後退）ボタンを押します。
最後に入力した文字や数字、記号が消えます。

1行分の文字をまとめて消すには

消したい欄にカーソルを移動し、リモートコマンダーの静止画（消去）ボタンを押します。1行分の文字が消去されます。

2章

ミーティング中の操作

こちらからミーティングを始める

ミーティングを始めるときは、ミーティングを行う相手に電話をかけます（ダイヤルします）。相手とつながると、通常の電話で音声による会話を行うのと同じように、映像と音声によるミーティングが始まります。
ここでは、相手を呼び出す方法を説明します。

ミーティングを始める前に、システムの登録と設定をしておいてください。

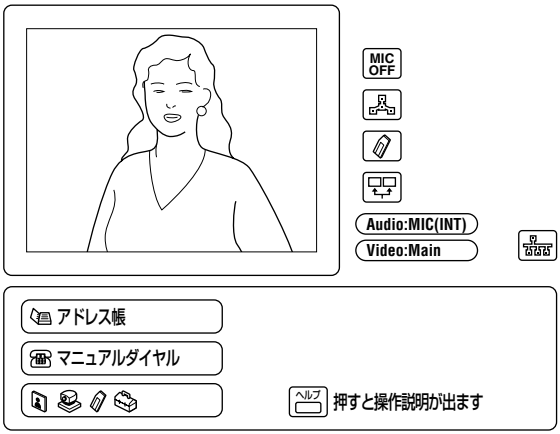
◆ システムの登録と設定については、4章「登録と設定」をご覧ください。

ご注意

- V.35インターフェースを使ったミーティングは、別売りのV.35ボードPCS-I161を取り付けているときのみ可能です。
- LANを使ったミーティングは、別売りのアップグレードキットPCS-UC161で本機のソフトウェアをアップグレードしているときのみ可能です。

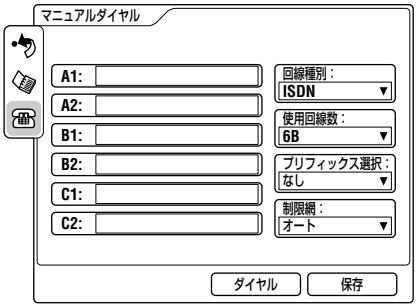
登録していない相手を呼び出す

通信中でないときは、下記のランチャーメニューが画面に表示されています。



1 リモートコマンダーのジョイスティックで「マニュアルダイヤル」を選び、ジョイスティックを押す。または、リモートコマンダーの接続/切断（☎/📞）ボタンまたは数字ボタンを押す。

マニュアルダイヤルメニューが表示されます。



ご注意

- B1からC2欄は、別売りのBRIボードPCS-I160を取り付けているときのみ表示されます。

2 ISDN回線で接続する場合

ミーティングをする相手の回線番号をA1とA2の入力欄に入力する。

- 入力した回線番号をコピーしたいときは、リモートコマンダーのカメラ（ラインコピー）ボタンを押してください。入力した回線番号が次の入力欄にコピーされます。
- 入力する数字を間違えたときは、リモートコマンダーの子画面（後退）ボタンを押してください。最後に入力した数字が消えます。

ご注意

A1とA2の入力欄には、0発信などの発信番号（プリフィックス）を入力しないでください。発信番号は手順**4**で設定します。

専用線（64 Kbps、128 Kbpsインターフェース）で接続する場合

64 Kbpsで接続する場合はA1の入力欄に、128 Kbpsで接続する場合は、A1とA2の入力欄に「D」と入力してください。

LANで接続する場合

手順**3**で回線インターフェースがLANになっているとき、ミーティングをする相手のIPアドレス（DNSが利用できるネットワークの場合、ホストネーム＋ドメインネーム）をIPアドレス入力欄に入力します。数字を区切るための「.」（ピリオド）は、ジョイスティックを右に動かすと入力することができます。

ジョイスティックで入力欄を選び、ジョイスティックを押してください。回線番号またはIPアドレスは、リモートコマンダーの数字ボタンで入力してください。

- 入力した回線番号またはIPアドレスを消去したいときは、リモートコマンダーの静止画（消去）ボタンを押してください。入力した回線番号またはIPアドレスが消去されます。

（続く）

3 回線インターフェースを選ぶ。

リモートコマンダーのジョイスティックで「回線種別」を選び、ジョイスティックを押してください。ジョイスティックを上下に動かして、回線インターフェースを選び、ジョイスティックを押してください。

ISDN: 通常のISDN回線でTV会議システムと接続する場合、および専用線（64 Kbps、128 Kbps インターフェース）で接続する場合。

音声電話: 通常のISDN回線で電話と音声のみを接続する場合。**（ボイスミーティング）**

V.35: V.35インターフェースでTV会議システムと接続する場合。（オプション）

LAN: LANを使ってTV会議システムと接続する場合。（オプション）

使用回線数の設定について

ISDN回線を使用する場合、発信時に使用するISDN回線の数を選びます。

リモートコマンダーのジョイスティックで「使用回線数」を選び、ジョイスティックを押してください。

ジョイスティックを上下に動かして、「使用回線数」の設定を選んでください。

1B：1Bチャンネルで接続します。

2B：2Bチャンネルで接続します。

3B：3Bチャンネルで接続します。

4B：4Bチャンネルで接続します。

5B：5Bチャンネルで接続します。

6B：6Bチャンネルで接続します。

LAN使用帯域の選択について

LANを使用する場合LAN使用帯域を以下より選択できます。

64 Kbps、128 Kbps、384 Kbps、512 Kbps、768 Kbps、1024 Kbps、その他

「その他」を選択した場合は数値を入力します。帯域幅は1～1024 Kまで可能です。

4 プリフィックス（発信番号）の設定を選ぶ。

リモートコマンダーのジョイスティックで「プリフィックス選択」を選び、ジョイスティックを押してください。ジョイスティックを上下に動かして、プリフィックスの設定を選んでください。

なし: プリフィックス（発信番号）を使用しない場合。
プリフィックス-A: 発信設定メニューの「プリフィックス-A」で設定したプリフィックスを使用する場合。
プリフィックス-B: 発信設定メニューの「プリフィックス-B」で設定したプリフィックスを使用する場合。
プリフィックス-C: 発信設定メニューの「プリフィックス-C」で設定したプリフィックスを使用する場合。

◆ プリフィックスの設定値を設定するときは、「発信設定メニュー」（95ページ）をご覧ください。

5 制限網の設定を選ぶ。

リモートコマンダーのジョイスティックで「制限網」を選び、ジョイスティックを押してください。ジョイスティックを上下に動かして、「制限網」の設定を選んでください。

オート: 通常のISDN回線を使用して、相手と接続する場合。
56K: ISDN回線の通信速度が56 Kbpsの国や地域と接続する場合。

ご注意

コンパクトプロセッサーをマルチポイントとして使用するとき、またはLANでミーティングを行うときは、「制限網」は設定できません。

6 リモートコマンダーのジョイスティックで「ダイヤル」を選び、ジョイスティックを押す。またはリモートコマンダーの接続/切断（☎/⏏）ボタンを押す。

手順**2**で入力した回線番号またはIPアドレスにダイヤルが始まり、モニター画面に「発信中（ここには接続するインターフェースが表示されます）」と表示されます。
相手側とつながると「ミーティングを始めます」と表示されます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

リモートコマンダーのジョイスティックで「キャンセル」を選び、ジョイスティックを押してください。または、リモートコマンダーの接続/切断（☎/☎）ボタンを押してください。

入力した番号をリストに保存するには

リモートコマンダーのジョイスティックで「保存」を選び、ジョイスティックを押してください。

入力した番号がリストに保存され、リスト編集メニューが表示されます。

上記以外の項目を設定するには

発信設定メニューの「詳細設定」を「オン」に設定しているときは、メニュー下部に詳細設定ボタンが表示されています。リモートコマンダーのジョイスティックで「詳細設定」を選び、ジョイスティックを押してください。発信設定メニューが表示され、他の設定を変更することができます。

リダイヤルするには

マニュアルダイヤルメニューを使用してダイヤルすると、次にマニュアルダイヤルメニューを表示したときに、前回ダイヤルした番号が回線番号入力欄に入力されています。**（リダイヤル機能）**

ご注意

下記の場合は、リダイヤル機能は働きません。

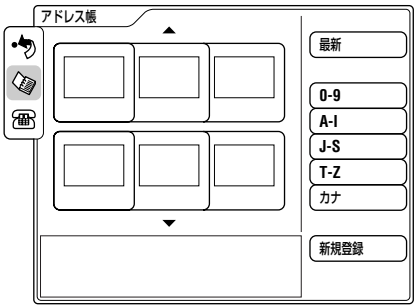
- 電源を切ったり、スタンバイ、スリープ状態にしたとき。
- 回線番号を入力してもダイヤルしなかったとき。
- リモートコマンダーの数字ボタンを押して、マニュアルダイヤルメニューを表示したとき。

登録している相手を呼び出す

アドレス帳から相手を呼び出す

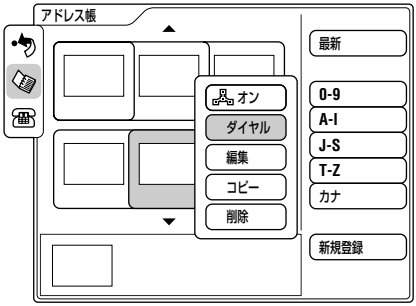
1 リモートコマンダーのアドレス帳ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。



2 リモートコマンダーのジョイスティックで呼び出す相手を選び、ジョイスティックを押す。

サブメニューが表示されます。



アドレス帳メニューのリストは並べ換えることができます。

◆ 詳しくは、「アドレス帳のリストを並べ換えるには」(51ページ) をご覧ください。

(続く)

3 リモートコマンダーのジョイスティックで「ダイヤル」を選び、ジョイスティックを押す。またはリモートコマンダーの接続/切断（☎/⏏）ボタンを押す。

手順**2**で選んだ相手にダイヤルが始まり、モニター画面に「発信中（ここには接続するインターフェースが表示されます）」と表示されます。相手側とつながると「ミーティングを始めます」と表示されます。

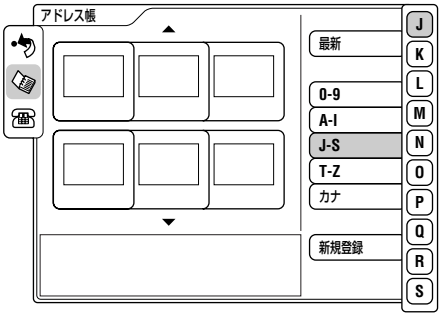
相手につながる前にダイヤルを中止するには

リモートコマンダーのジョイスティックで「キャンセル」を選び、ジョイスティックを押してください。または、リモートコマンダーの接続/切断（☎/⏏）ボタンを押してください。

アドレス帳のリストを並べ換えるには

アドレス帳のリストは並べ換えることができます。

「最新」を選ぶと、最近ダイヤルした相手が6件表示されます。
「0—9」、「A—I」、「J—S」、「T—Z」、「カナ」の項目を選んだときは、サブメニューが表示されます。サブメニューの数字またはアルファベットを選ぶと、その数字またはアルファベット、カナで始まる相手が頭出しされます。



ヒント

リモートコマンダーの数字（0～9）ボタンを押しても頭出しすることができます。

相手から呼び出されたとき

呼び出しを受けたとき（着信）、自動着信に設定してあるか手動着信に設定してあるかによって、操作の方法が異なります。

自動着信

相手からの電話を自動的に受け、ミーティングを始めます。
いちいち操作をする手間が省けますが、自動的につながってしまうので、何の準備もしていないときでも、こちらの様子がすぐに相手側に伝わってしまいます。

手動着信

電話がかかってきても呼び出し音が鳴り続けるだけで、回線をつなぐ操作をすることによりミーティングが始まります。
ミーティングを始めてよいか確認をしてから相手とつなぐことができます。

ご注意

- 後面のPOWERスイッチがオンになっていないと、着信できません。
- モニター用テレビがスタンバイ状態になっているかどうかも確認してください。

着信方法を設定する

自動着信に設定するときは、着信設定メニューの「自動着信」を「オン」に設定してください。手動着信に設定するときは「オフ」に設定してください。

◆「自動着信」の設定については、「着信設定メニュー」（100ページ）をご覧ください。

自動着信のときは

スタンバイ/スリープ状態のときに相手から呼び出しを受けると、自動的に電源が入り、回線がつながります。

呼び出しを受けると、コンパクトプロセッサーから呼び出し音が鳴り、モニター画面に「着信中」と表示されます。
接続すると相手の映像がテレビに映し出され、音声の受信が始まります。
相手側とつながると「ミーティングを始めます」と表示されます。
これで、ミーティングを始めることができます。

手動着信のときは

相手から呼び出しを受けたら、回線をつなぐ操作をします。
相手から呼び出しを受けると、コンパクトプロセッサーから呼び出し音が鳴り続け、モニター画面に「着信があります。応答しますか?」というメッセージが表示されます。

リモートコマンダーのジョイスティックで「OK」を選び、ジョイスティックを押す。

回線の接続が始まります。
接続すると、相手の映像がこちらのテレビに映り、相手の音声も聞こえるようになります。この時点でこちらの映像と音声が相手に送られます。
モニター画面には「ミーティングを始めます」と表示されます。
これで、ミーティングを始めることができます。

回線をつなぎたくないときは

リモートコマンダーのジョイスティックで「キャンセル」を選び、ジョイスティックを押す。呼び出し音が止まります。

電源を入れ、何かの作業を行っているときに呼び出された場合

モニター画面に「着信があります。応答しますか?」と表示されます。回線をつなぐときは、「OK」を選択してください。現在行っている作業を中断できないときなどは、「キャンセル」を選択してください。

回線が接続されなかったときは

何らかの理由で回線がつながらなかったときは、「回線を完全につなぐことができません（ここにISDN理由コードとメッセージが現れます。）」と表示されます。

◆ ISDN理由コードとメッセージについては、「メッセージ一覧」（154ページ）をご覧ください。

LANで通信中のときは

別売りのアップグレードキットPCS-UC161で本機のソフトウェアをアップグレードして、LANで通信中のときにISDN回線で相手から呼び出しを受けると、本機は話し中の状態になっています。

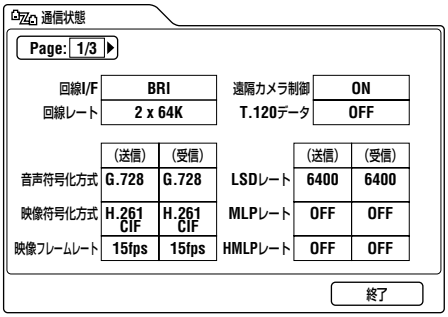
現在の通信状態を確認する

ミーティング中に、どのような設定で相手と接続しているのか、確認することができます。また、通信中はモニター画面に通話時間が表示されます。

1 設定メニューを表示する。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「ステータス表示」を選び、ジョイスティックを押す。

通信状態表示メニューが表示されます。



ヒント

リモートコマンダーの0ボタンを2回続けて押しても、通信状態表示メニューを表示することができます。

3 通信状態を確認する。

回線I/F: 使用している回線インターフェースを表示します。

回線レート: 接続されている回線の数と通信中の伝送レートを表示します。

遠隔カメラ制御: カメラ遠隔制御を行える状態になっているかどうかを表示します。

T.120データ: T.120データ会議を行える状態になっているかどうかを表示します。

(続く)

現在の通信状態を確認する

下記の項目は送信欄と受信欄に分かれて表示されます。送信欄には、こちら側が設定している状態が、受信欄にはこちら側が受信している状態が表示されます。

音声符号化方式: 音声符号化方式を表示します。
映像符号化方式: 映像符号化方式を表示します。
映像フレームレート: 動画の最大フレームレートを表示します。
LSDレート: LSD（Low Speed Data）のレートを表示します。
MLPレート: MLP（Multi Layer Protocol）のレートを表示します。
HMLPレート: HMLP（High speed Multi Layer Protocol）のレートを表示します。

通信状態表示メニューを消すには

リモートコマンダーのジョイスティックで「終了」を選び、ジョイスティックを押してください。設定メニューに戻ります。

通話時間表示について

一般設定メニューの「経過時間表示」を「オン」に設定しておくと、通信中、モニター画面に通話時間が表示されます。回線を使用した時間の目安にすることができます。

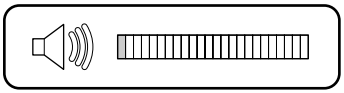
通話時間を表示しないときは「オフ」に設定してください。

◆「経過時間表示」の設定については、「一般設定メニュー」（105ページ）をご覧ください。

音声を調節する

音量を調節する

相手から送られてくる音声の音量を調節することができます。
リモートコマンダーの音量/ブライトの＋ボタンを押すと音量が大きくなり、音量/ブライトのーボタンを押すと小さくなります。
モニター画面に音量調節バーが表示されます。
一定時間操作しないと、音量調節バーはモニター画面から消えます。



ご注意

- あらかじめモニターの音量を設定しておいてください。
- 音量を大きくしすぎるとハウリングが起こることがあります。その場合は音量を小さくしてください。

音声の送信を一時的にカットする―マイクミュート機能

ミーティング中にこちらから相手に送る音声を一時的にカットすることができます。
リモートコマンダーのマイク/ダークボタンを押します。
マイク/ダークボタンを押すと、相手に送られる音声がカットされ、相手に聞こえなくなります。モニター画面に MIC OFF マークが表示されます。

音声の送信を再開するときは

もう1度マイク/ダークボタンを押します。
モニター画面から MIC OFF マークが消えます。

映像と音声の時間差を調整する—リップシンク機能

ミーティングを行う際に、相手から音だけが早く届き、その後で映像が届くことがあります。その結果、相手の映像の口の動きと音声が一致せず、対話がスムーズに運ばなくなることがあります。
リップシンク機能を使うと画面上の口の動きと音声がほぼ一致するように自動的に調整されます。ただし、映像に合わせて音声も遅れて届くようになることがあります。

リップシンク機能を使用するときは、音声設定メニューの「リップシンク」を「オン」に設定してください。リップシンク機能を使用しないときは「オフ」に設定してください。

◆「リップシンク」の設定については、「音声設定メニュー」(103ページ) をご覧ください。

ご注意

この機能を使うと、こちら側の映像と音声がほぼ一致するように自動的に調整されて相手に送られます。相手から送られてくる映像と音声にリップシンク機能による調整が必要な場合は、相手側に、リップシンク機能を使うよう依頼してください。

エコーキャンセラー

コンパクトプロセッサーにはエコーキャンセラー機能があります。内蔵のエコーキャンセラーを使用するときは、音声設定メニューの「エコーキャンセラー」を「内部」に設定してください。内蔵のエコーキャンセラーを使用しないときは、「オフ」に設定してください。システムに接続している機器のエコーキャンセラーを使用するときは「外部」に設定してください。通常は「内部」にして使用してください。

◆「エコーキャンセラー」の設定については、「音声設定メニュー」(103ページ) をご覧ください。

カメラを調節する

相手に送っているこちら側のカメラの映像を希望の状態に調節することができます。
また、通信中に相手側のカメラを操作して、送られてくる映像を調節することもできます。

ご注意

- こちら側と相手側から同時に同じカメラを操作すると、正常に動作しない場合があります。
- 通信中のカメラ遠隔操作方式がH.281でない場合、相手側のカメラを操作することはできません。
- コンパクトプロセッサーをMCUとして使用しているときは、相手側のカメラを操作することはできません。
- ミーティング中にカメラアングルを調節すると、カメラのモーター音が内蔵マイクに集音され、相手側にそのモーター音が聞こえます。カメラアングルを頻繁に調節するときは、別売りのマイクロホンPCS-A300を使用することをお勧めします。マイクロホンPCS-A300を接続し、設定を変えると内蔵マイクは機能しなくなります。

◆ マイクロホン PCS-A300を使用するときの設定については、「音声設定メニュー」（103ページ）をご覧ください。

フルスクリーン表示にするには

カメラメニュー表示中に、フルスクリーン表示にするには、「カメラ調整メニュー」でリモートコマンダーの子画面ボタンを押してください。フルスクリーン表示になります。リモートコマンダーのジョイスティックまたは戻るボタン、子画面ボタンを押すと、フルスクリーン表示は解除されます。

操作するカメラを決める

最初に、こちら側と相手側のどちらのカメラを操作するか決めます。

リモートコマンダーの相手/自分ボタンを押し、表示制御メニューで自分側または相手側を選ぶ。

相手側のカメラが選ばれているときは、モニター画面にFARが表示されます。
こちら側のカメラが選ばれているときは、モニター画面にFARは表示されません。

ご注意

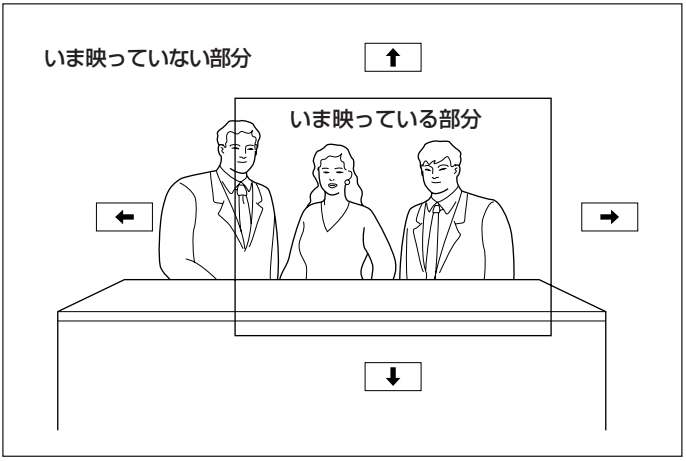
こちら側の発信設定メニューの「遠隔カメラ制御」を「オン」に、相手側の着信設定メニューの「遠隔カメラ制御」を「オン」に設定していないと、相手側のカメラを操作することはできません。

アングルとズームを調節する

カメラのアングルとズームを調節して、モニター画面に映す映像を決めます。

アングルを調節するには

リモートコマンダーのジョイスティックで、映したい部分の方向を選んでください。(通信中でないときは、リモートコマンダーのジョイスティックで画像部分を選び、ジョイスティックを押してから、上記の操作を行ってください。)



ズームを調節するには

リモートコマンダーのズーム/チャンネルのTボタンを押すと画像が大きくなります。ズーム/チャンネルのWボタンを押すと画像が小さくなります。希望の映像になるように調節してください。

フォーカスと画像の明るさを手動調整する

通常、フォーカスと画像の明るさ（ブライト）は、自動的に調整されますが、手動で調整することもできます。
通常は自動調整にしておいてください。最適なフォーカスとブライトネスが得られます。

リモートコマンダーのカメラボタンを押して、カメラメニューを表示してください。次に、カメラメニューの「カメラ調整」をリモートコマンダーのジョイスティックで選び、ジョイスティックを押してください。
ガイダンスが表示され、フォーカス、画像の明るさを調整することができるようになります。

フォーカスを手動調整するには

リモートコマンダーの［0］ボタンを押すと、フォーカスが自動調整に切り換わります。

遠くにフォーカスを合わせるときは、リモートコマンダーの［#→］ボタンを繰り返し押す。
近くにフォーカスを合わせるときは、リモートコマンダーの［*←］ボタンを繰り返し押す。

画像の明るさを調整するには

リモートコマンダーの [7] / [9] ボタンを押して、画像の明るさを調整してください。

画面を明るくするときは、リモートコマンダーの [9] ボタンを繰り返し押す。
画面を暗くするときは、リモートコマンダーの [7] ボタンを繰り返し押す。

逆光補正機能を使用するには

背景が明るすぎて、被写体が暗めになるときは、逆光補正機能を使用してください。

リモートコマンダーの [8] ボタンまたはマイク/ダークボタンを押すたびに、逆光補正のオンオフが切り換わります。

アングルとズームの設定をプリセットする

コンパクトコンファレンスパッケージはアングルとズームの設定を6つまでプリセットしておくことができます。一度プリセットしておくと、その設定を簡単に呼び出すことができます。

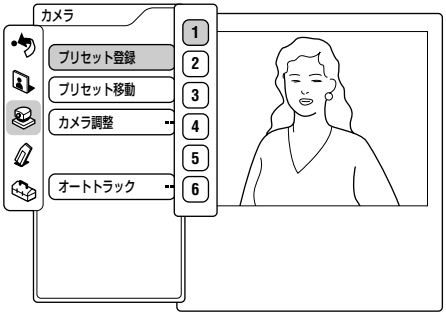
設定をプリセットするには

1 リモートコマンダーのカメラボタンを押す。

カメラメニューが表示されます。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「プリセット登録」を選び、ジョイスティックを押す。

3 リモートコマンダーのジョイスティックで設定をプリセットしたい番号（1～6）を選び、ジョイスティックを押す。



4 アングルとズームを設定する。

◆ アングルとズームの設定について詳しくは、「アングルとズームを調節する」（60ページ）をご覧ください。

5 リモートコマンダーのジョイスティックを押す。

選択した番号に設定値がプリセットされます。

ヒント

通信中にリモートコマンダーの1～6ボタンを押したままにするか、#ボタンと1～6ボタンを続けて押すと、その番号に設定値をプリセットすることができます。

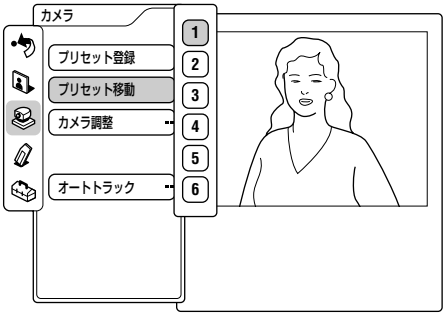
設定を呼び出すには

1 リモートコマンダーのジョイスティックで「プリセット移動」を選び、ジョイスティックを押す。

（続く）

2 リモートコマンダーのジョイスティックで設定を呼び出したい番号（1〜6）を選び、ジョイスティックを押す。

選択したプリセット番号の設定値が呼び出され、カメラが調節されます。



ヒント

通信中にリモートコマンダーの1〜6ボタンを押すと、その番号の設定値を呼び出すことができます。

バックアップについて

カメラ位置のプリセットなど、各設定の記憶は、本体のPOWERスイッチをオフにすると消えてしまいます。記憶を消さないためにはカメラ後面のBACKUPスイッチをONにしてください。

ご注意

- カメラに内蔵の充電式ボタン電池が、記憶保持用の電源として働きます。充電式ボタン電池は、システムを使用している限り常に充電されていますが、システムの使用時間が短い場合、徐々に放電を続け、12週間近く使用していないと、完全に放電してしまいます。記憶を消したくないときは、充電してください。
- 充電するには、カメラをメインユニットに接続したまま、POWERスイッチをオンにして約48時間放置してください。

自動追尾する—オートトラッキング機能

この機能を使うと、被写体の特定の色や明るさをカメラが記憶し、その被写体を自動的に追うことができます。
また、パン・チルト機能で、スクリーンの隅にある被写体を中心に持ってくることができます。

ご注意

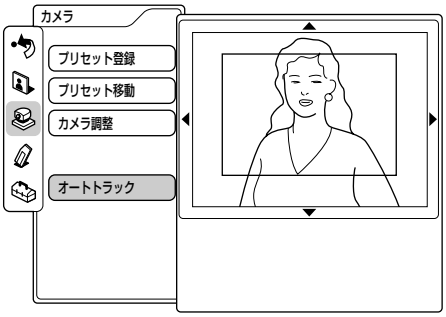
オートトラッキング機能はこちら側のカメラにのみ使用できます。

1 リモートコマンダーのカメラボタンを押す。

カメラメニューが表示されます。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「オートトラック」を選び、ジョイスティックを押す。

モニター画面にフレームが表示されます。



3 リモートコマンダーのジョイスティックとズーム/チャンネルボタンを使って被写体がフレームの中に入るようにする。

（続く）

ご注意

- 被写体の明るさと色が均一になる部分をフレーム内に入れてください。
- 背景など、違った明るさと色がフレーム内に入ると、カメラが被写体を認識できないことがあります。

4 リモートコマンダーのジョイスティックを押す。

オートトラッキング（自動追尾）機能が働き始め、⚙が表示されます。

オートトラッキング機能を中止するには

リモートコマンダーのジョイスティックで「オートトラック解除」を選び、ジョイスティックを押してください。モニター画面から⚙が消えます。

フレームが繰り返し画面いっぱいに広がったら

カメラが被写体を認識できていません。もう1度被写体を記憶し直してください。

レンズの横のランプが点灯したら

記憶した被写体をカメラが見失っています。この場合は、被写体が画面内に入るようにパン・チルトするか、もう1度被写体を記憶し直してください。

ご注意

フレームが被写体を追わなかったときは、被写体の色や輝度（明るさ）が正常になるように照明や被写体の向きなどを調節して、フレームが被写体を追うようになるまで手順**2**から**4**を繰り返します。

映像と音声を切り換える

モニター画面に表示する映像と入力する音声を切り換えます。

映像を切り換えるには

モニターに映る映像を切り換えるには

リモートコマンダーの相手/自分ボタンを押して、ジョイスティックで表示の自分側/相手側を切り換える。

相手に送る映像を切り換えるには

リモートコマンダーの入力切換ボタンを押して、ジョイスティックで入力を選択する。

メイン: メインカメラの映像が選ばれているとき。

オブジェクト: 別売りのドキュメントスタンドPCS-DS150の映像が選ばれているとき。

AUX 1: VIDEO IN AUX 1端子に接続されている機器の映像が選ばれているとき。

AUX 2: VIDEO IN AUX 2端子に接続されている機器の映像が選ばれているとき。

音声を切り換えるには

音声設定メニューの「入力切替」を下記のように設定してください。

MIC: マイクの音声を入力する場合。

AUX: 外部機器の音声を入力する場合。

MIC+AUX: マイクと外部機器の両方の音声を入力する場合。

◆「入力切替」の設定については、「音声設定メニュー」(103ページ)をご覧ください。

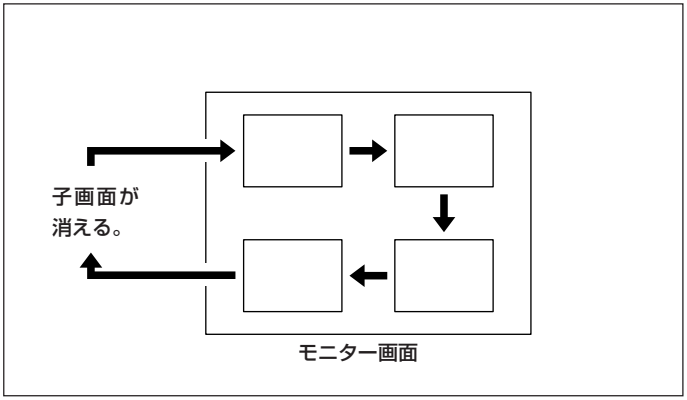
ご注意

音声の切り換えはこちら側の音声のみ有効です。

こちら側の映像を子画面に表示する

こちらの様子が相手のモニターにどのように映っているかを、モニター画面の一部（子画面）に表示して確認することができます。**（ピクチャーインピクチャー機能）**

通信中にリモートコマンダーの子画面ボタンを押します。
子画面が消えている場合は表示されます。
子画面が表示されている場合は、子画面ボタンを押すたびに、子画面の位置が次のように切り換わります。



ご注意

- 子画面は、前回最後に表示されていた位置に表示されます。前回子画面を消していた場合は、表示されません。
- ミーティング中でないときは、子画面の表示はできません。

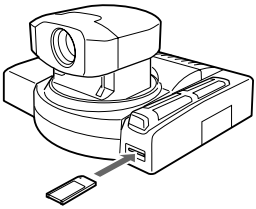
静止画を表示する

別売りの“メモリースティック”に保存されている静止画をミーティングで使用することができます。

“メモリースティック”の静止画を表示する

1 静止画が保存されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。

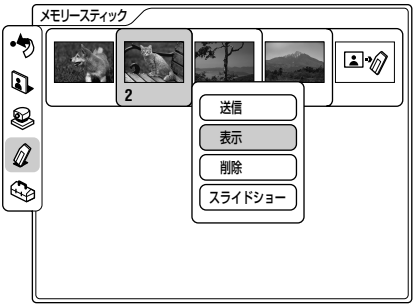


2 メモリースティックメニューを表示する。

3 リモートコマンダーのジョイスティックで表示したい静止画を選び、ジョイスティックを押す。

（続く）

サブメニューが表示されます。



4 リモートコマンダーのジョイスティックで「表示」を選び、ジョイスティックを押す。

メニューが消え、選んだ静止画が表示されます。

静止画を送信するには

リモートコマンダーのジョイスティックで「送信」を選び、ジョイスティックを押してください。静止画が相手に送信されます。

静止画を削除するには

リモートコマンダーのジョイスティックで「削除」を選び、ジョイスティックを押してください。静止画が“メモリースティック”から削除されます。

スライドショーで静止画を見る

リモートコマンダーのジョイスティックで「スライドショー」を選び、ジョイスティックを押してください。

選んだ画像からスライドショーが始まります。スライドショーを行っているときは、画面に が表示されます。

リモートコマンダーのジョイスティックを右に動かすと、次の画像が表示されます。リモートコマンダーのジョイスティックを左に動かすと、前の画像が表示されます。

スライドショーで静止画を選ぶには

スライドショーを行っているときにリモートコマンダーのジョイスティックを押してください。サブメニューが表示されます。リモートコマンダーのジョイスティックを左右に動かして、静止画を選び、ジョイスティックを押してください。

通信中のときは、相手に静止画が送信されます。通信中でないときは、選んだ静止画がフルスクリーンで表示されます。

スライドショーを中止するには

サブメニューが表示されているときは、リモートコマンダーのジョイスティックで「中止」を選び、ジョイスティックを押してください。
サブメニューが表示されていないときは、リモートコマンダーの戻るボタンを押してください。

フォーマットされていない“メモリースティック”が挿入されると

「メモリースティックをフォーマットしますか?」というメッセージが表示されます。フォーマットするときは「OK」を選んでください。フォーマットしないときは「キャンセル」を選んでください。

“メモリースティック”を取り出すには

“メモリースティック”を1度押し込んで、“メモリースティック”を取り出してください。

“メモリースティック”について

ファイル名について

ファイルは、“メモリースティック”のディレクトリー「¥DCIM¥100MSDCF」の下に「DSCXXXXX.JPG」のファイル名で保存されます。

対応している静止画のフォーマットは
プログレッシブJPEGには対応していません。

画像の圧縮形式
本機は、撮影した画像データをJPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮・記録しています。ファイル拡張子は「.jpg」です。

パソコンでフォーマットした“メモリースティック”は
パソコンでフォーマットした“メモリースティック”は、本機での動作を保証いたしません。本機またはデジタルカメラでフォーマットした“メモリースティック”をお使いください。

“メモリースティック”をフォーマットするには
一般設定メニューの「メモリースティックフォーマット」を選び、「OK」を選んでください。“メモリースティック”がフォーマットされます。ただし、フォーマットすると、“メモリースティック”に保存されている画像やアドレス帳はすべて消去されます。

Memory Stick（“メモリースティック”）およびはソニー株式会社の商標です。

静止画表示を解除する

静止画が表示されているときに、リモートコマンダーのジョイスティックを押してください。

静止画を保存する

リモートコマンダーのジョイスティックでメモリースティックメニューの最後尾に表示されている“メモリースティック”保存サムネイルにカーソルを移動し、ジョイスティックを押してください。
表示中の静止画がメモリースティックに保存されます。
また、静止画メニューの「保存」あるいは通信中のサブメニューの「保存」を使用して、静止画を保存することもできます。

◆ 静止画の“メモリースティック”への保存について詳しくは、76ページをご覧ください。

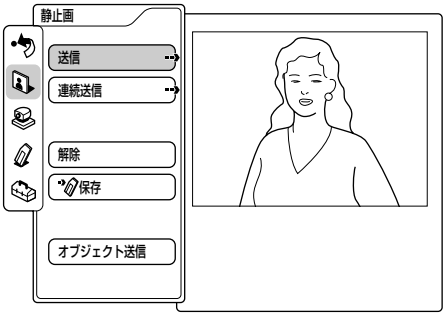
静止画を送信する

文字の多い画像などは、静止画として送ったほうが、画像がはっきりし、文字などが読みやすくなります。
カメラやコンパクトプロセッサーに接続している外部映像機器の動画を連続した静止画として、送信することができます。静止画は1枚だけ送信したり、連続して送信することもできます。

動画を静止画にして1枚だけ送信する

1 静止画メニューを表示する。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「送信」を選び、ジョイスティックを押す。または、静止画ボタンを押す。



モニター画面の動画が静止画になり、静止画が1枚だけ送信されます。送信が終わると「静止画が送信されました」というメッセージが表示されます。

3 アングルとズームを設定し直すときは、アングルとズームを設定する。

◆ アングルとズームの設定について詳しくは、「アングルとズームを調節する」（60ページ）をご覧ください。

静止画表示を解除するには

リモートコマンダーのジョイスティックで「解除」を選び、ジョイスティックを押してください。

（続く）

ヒント

リモートコマンダーの相手/自分ボタンを押しても解除することができます。また、通信中のサブメニューの「解除」を使用するか、あるいはリモートコマンダーの静止画ボタンを2回押しても解除が可能です。

動画を静止画にして連続で送信する

1 静止画メニューを表示する。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「連続送信」を選び、ジョイスティックを押す。または、静止画ボタンを押す。

モニター画面の動画が静止画になり、静止画が連続して送信されます。

3 アングルとズームを設定し直すときは、アングルとズームを設定する。

◆ アングルとズームの設定について詳しくは、「アングルとズームを調節する」（60ページ）をご覧ください。

静止画の送信を中止するには

リモートコマンダーのジョイスティックで「解除」を選び、ジョイスティックを押してください。

ご注意

静止画を送信する間隔は、通信速度によって変わります。

オブジェクトカメラの映像を送信する

1 静止画メニューを表示する。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「オブジェクト送信」を選び、ジョイスティックを押す。または、静止画ボタンを押す。

オブジェクトカメラの映像が、静止画として相手に送信されます。送信後は元の入力映像に戻ります。

“メモリースティック”の静止画を送信する

1 メモリースティックメニューを表示する。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで送信したい静止画を選び、ジョイスティックを押す。

サブメニューが表示されます。

3 リモートコマンダーのジョイスティックで「送信」を選び、ジョイスティックを押す。

選んだ静止画が表示され、静止画が送信されます。送信が終わると「静止画が送信されました」というメッセージが表示されます。

「スライドショー」を選ぶと

リモートコマンダーのジョイスティックで「スライドショー」を選び、ジョイスティックを押してください。
選んだ画像からスライドショーが始まり、静止画が相手に送信されます。

◆ スライドショーについて詳しくは、70、71ページをご覧ください。

ご注意

送信するファイルは、“メモリースティック”のディレクトリー「¥DCIM¥100MSDCF」を作成し、その下に「NNNnnnnn.JPG」のファイル名で保存してください（N＝アルファベット、n＝数字）。

静止画表示を解除する

静止画メニューを表示して、リモートコマンダーのジョイスティックで「解除」を選び、ジョイスティックを押してください。

ヒント

リモートコマンダーの相手/自分ボタンを押しても解除することができます。

静止画を“メモリースティック”に保存する

1 画像を表示する。

2 静止画を保存する“メモリースティック”をメモリースティックスロットに入れる。

3 静止画メニューを表示する。

4 リモートコマンダーのジョイスティックで「保存」を選び、ジョイスティックを押す。

表示された画像が静止画として“メモリースティック”に保存されます。

ご注意

データの書き込みが終了するまでは、“メモリースティック”を抜かないでください。“メモリースティック”が壊れたり、本機が誤動作します。

“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると

メッセージが表示され、静止画を保存することはできません。

“メモリースティック”の容量がいっぱいのときは

メッセージが表示され、静止画を保存することはできません。

フォーマットされていない“メモリースティック”が挿入されると

「メモリースティックをフォーマットしますか?」というメッセージが表示されます。フォーマットするときは「OK」を選んでください。フォーマットしないときは「キャンセル」を選んでください。

ご注意

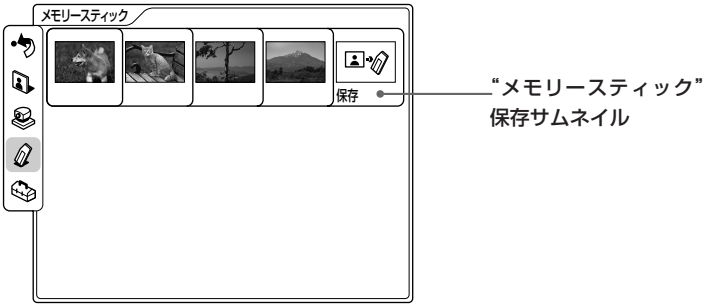
静止画ファイルは、すべて新規ファイルとして保存されます。上書きはされません。

ヒント

リモートコマンダーの相手/自分ボタンで相手側の画像を選択して、静止画として保存することもできます。

“メモリースティック” メニューで保存する

“メモリースティック” メニュー画面に表示される“メモリースティック” 保存サムネイルを使って静止画を通信中、非通信中を問わず保存することが出来ます。



1 リモートコマンダーのジョイスティックで “メモリースティック” メニューを表示させる。

2 リモートコマンダーのジョイスティックでカーソルをサムネイルの最後尾の “メモリースティック” 保存サムネイルに合わせ、ジョイスティックを押す。

静止画が“メモリースティック”に保存されます。

静止画がないとき、通信中は以下のいずれかが保存されます。
ー 相手または自分の画像
通信中でないときは、自分の画像が保存されます。

通信中サブメニューから保存する

通信中にジョイスティックを押すと、サブメニューが表示されます。
「保存」を選択し、再びジョイスティックを押すと静止画が保存されます。

◆通信中のサブメニューについて詳しくは、78ページをご覧ください。

DTMFを送信する

ダイヤル発信する際の各数字（0～9、#、*）に割り当てられているダイヤルトーン（二重トーン多重周波数）を送信することにより、相手側に接続されているシステムを遠隔制御することができます。

1 リモートコマンダーの*ボタンを押す。

モニター画面にDTMFメニューが表示されます。

2 リモートコマンダーの数字ボタン（0～9、#、*）を押して、送信したいダイヤルトーンの数字を選ぶ。

数字ボタンを押すと、ダイヤルトーンが相手に送られます。

3 終了するには、リモートコマンダーのジョイスティックを押す。

モニター画面のDTMFメニューが消えます。

通信中のサブメニューについて

通信中にリモートコマンダーのジョイスティックを押すと、サブメニューが表示されます。

“メモリースティック”：“メモリースティック”メニューへ入ります。
送信：静止画を1枚送信します。静止画が表示されているときには「解除」と表示され、リモートコマンダーのジョイスティックを押すと静止画送信が解除されます。
保存：メモリースティックに静止画を保存します。

◆保存について詳しくは、77ページをご覧ください。

ミーティングを終了する

リモートコマンダーの接続/切断（☎/⏏）ボタンを押します。
回線を切ってもよいかどうか、確認のメッセージが表示されます。

回線を切るときは

リモートコマンダーのジョイスティックで「OK」を選び、ジョイスティックを押すか、リモートコマンダーの接続/切断（☎/⏏）ボタンをもう1度押してください。これで、回線が切れます。

ご注意

回線を切っても、コンパクトプロセッサーの電源は入ったままです。

回線を切らないときは

リモートコマンダーのジョイスティックで「キャンセル」を選び、ジョイスティックを押してください。

接続していた相手をリストに登録する

一般設定メニューの3ページ目（107ページ）の「会議終了後のリスト登録」が「オン」に設定されていれば、会議終了後に相手がリストに登録されていない場合、「この相手をリストに登録しますか?」のダイアログが表示されます。
「OK」を選ぶとリスト編集メニューが表示されます。

ご注意

「オフ」になっていると、このダイアログは表示されません。

3章

いろいろなミーティング

外部MCUと接続する

外部MCU（Multipoint Control Unit）に接続すると、多地点間通信ができるようになります。議長制御機能のあるMCUと接続すると、99台までの議長制御ができます。

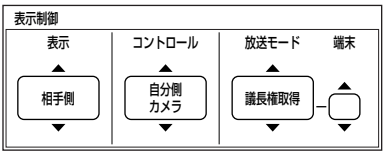
ご注意

別売りのアップグレードキットPCS-UC161で本機のソフトウェアをアップグレードして、LANを使用しているときは、議長制御はできません。

1 外部MCUに接続する。

2 リモートコマンダーの相手/自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。



放送モード: 放送モードを選びます。

端末: 端末番号を選びます。1～99まで選択できます。
端末を選ぶと端末名が表示されます。

3 リモートコマンダーのジョイスティックで放送モードの「議長権取得」を選ぶ。

ご注意

実行不可能な操作をしたときには、「MCU操作は拒否されました」というメッセージがモニター画面に表示されます。

選択した端末の映像を見るには

1 リモートコマンダーのジョイスティックで放送モードの「受信」を選ぶ。

2 リモートコマンダーのジョイスティックを上下に動かして端末の番号を選び、ジョイスティックを押す。

選んだ端末の映像が、こちら側のモニター画面に映ります。

ご注意

端末の番号を選択していないときは、一番小さい番号の端末が最初に選択されます。

選択した端末の映像をすべての端末に放送するには

1 リモートコマンダーのジョイスティックで放送モードの「放送」を選ぶ。

2 リモートコマンダーのジョイスティックを上下に動かして端末の番号を選び、ジョイスティックを押す。

選んだ端末の映像が、こちら側のモニター画面に映り、すべての端末に放送されます。

こちら側の端末の映像をすべての端末に放送するには

1 リモートコマンダーのジョイスティックで放送モードの「放送」を選ぶ。

2 リモートコマンダーのジョイスティックを上下に動かして端末の「0」を選び、ジョイスティックを押す。

こちら側の映像がすべての端末に放送されます。
こちら側の映像を放送中は ⊞ がモニター画面に表示されます。

議長制御を終了するには

リモートコマンダーの相手 / 自分ボタンを押し、リモートコマンダーのジョイスティックで表示制御メニューの放送モードの「議長権解放」を選び、ジョイスティックを押す。

音声のみのミーティングをする

コンパクトコンファレンスパッケージは、テレビ会議システム以外の通常の電話機と音声のみの接続をすることができます。**(ボイスミーティング)**
基本的な接続の手順は、映像と音声のミーティングを行うときと同じです。

ご注意

別売りのアップグレードキットPCS-UC161で本機のソフトウェアをアップグレードして、LANを使用しているときは、ボイスミーティングはできません。

登録していない相手とボイスミーティングをするとき

マニュアルダイヤルメニューの「回線種別」を「音声電話」に設定してください。

◆「回線種別」の設定については、「登録していない相手を呼び出す」(44ページ) をご覧ください。

ボイスミーティング中は、モニター画面に「VOICE ONLY」と表示され、モニター画面にはこちら側の映像が映ります。

ボイスミーティングをする相手を登録するとき

リスト入力メニューの「回線種別」を「音声電話」に設定してください。

◆ 登録については、「ミーティングの相手を登録する」(84ページ) をご覧ください。

音声符号化方式を選ぶには

発信設定メニューの「音声電話」の設定を行ってください。
こちらからボイスミーティングを開始するときは、「音声電話」を「オート」に設定してください。(「オート」を選ぶと、自動的に「G.711 μ-law」に設定されます。)
相手側がボイスミーティングを開始するときは、こちらの設定は必要ありません。

◆「音声電話」については、「発信設定メニュー」(95ページ) をご覧ください。

4章

登録と設定

ミーティングの相手を登録する

あらかじめ相手の回線番号やアドレスなどを登録しておくと、簡単にダイヤルすることができます。500件までの相手を登録できます。各リストに静止画（相手の画像など）を登録しておくこともできます。

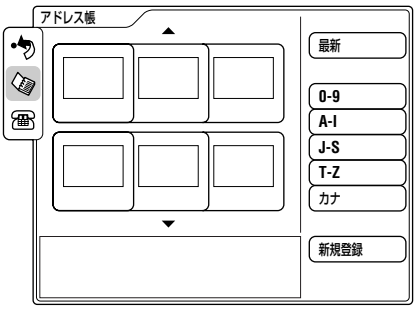
ご注意

- 別売りのBRIボードPCS-I160を取り付け、3回線使用するときは、B1～C2欄も登録してください。
- LANを使ったミーティングは、別売りのアップグレードキットPCS-UC161で本機のソフトウェアをアップグレードしているときのみ可能です。

新しい相手を登録する

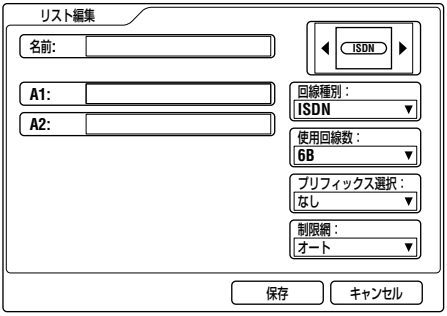
1 リモートコマンダーのアドレス帳ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。



2 リモートコマンダーのジョイスティックで「新規登録」を選び、ジョイスティックを押す。

リスト編集メニューが表示されます。



3 名前の入力欄に、相手の名前を入力する。

◆ 入力の操作方法は、「文字や数字を入力する」(41ページ)をご覧ください。

(続く)

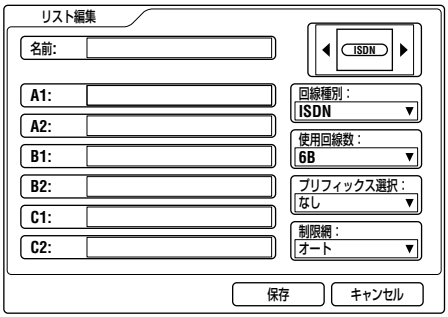
4 「回線種別」で回線インターフェースを設定する。

ISDN: 通常のISDN回線でTV会議システムと接続する場合。
音声電話: 通常のISDN回線で電話と音声のみを接続する場合。（ボイスミーティング）
V.35: V.35インターフェースでTV会議システムと接続する場合。（オプション）
LAN: LANを使ってTV会議システムと接続する場合。（オプション）
ISDN：ISDN回線でマルチポイント接続をする場合。（オプション）

5 **手順4で「LAN」以外を選んだとき**
回線番号A1とA2の入力欄に相手の回線番号（サブアドレスを設定しているときはサブアドレスも）を入力する。

相手の回線が複数ある場合は、回線番号を1つ入力したら、次の入力欄に2つ目の回線番号を入力してください。
サブアドレスを登録する場合は、回線番号とサブアドレスを「✱(アスタリスク)」で区切って入力します。サブアドレスは、数字のみ有効です。

別売りのBRIボードPCS-I160を取り付け、3Bチャネル以上で接続するときは
B1からC2の入力欄も設定してください。リモートコマンダーのジョイスティックで回線番号B1からC2の入力欄を選び、相手の回線番号（サブアドレスを設定しているときはサブアドレスも）を入力してください。



手順4で「LAN」を選んだとき

IPアドレス入力欄に相手のIPアドレス（またはホストネーム＋ドメインネーム）を入力する。

6 回線種別アイコンまたは“メモリースティック”の静止画を選ぶ。

リモートコマンダーのジョイスティックを左右に動かして、アイコンまたは静止画を選び、ジョイスティックを押して決定する。

ご注意

静止画が保存されている“メモリースティック”が本機に挿入されていないときは、静止画を選ぶことはできません。

使用回線数の設定について

ISDN回線を使用する場合、着信時に使用するISDN回線の数を選びます。

リモートコマンダーのジョイスティックで「使用回線数」を選び、ジョイスティックを押してください。

ジョイスティックを上下に動かして、「使用回線数」の設定を選んでください。

1B：1Bチャンネルで接続します。

2B：2Bチャンネルで接続します。

3B：3Bチャンネルで接続します。

4B：4Bチャンネルで接続します。

5B：5Bチャンネルで接続します。

6B：6Bチャンネルで接続します。

LAN使用帯域の選択について

LANを使用する場合LAN使用帯域を以下より選択できます。

64 Kbps、128 Kbps、384 Kbps、512 Kbps、768 Kbps、1024 Kbps、その他

「その他」を選択した場合は数値を入力します。帯域幅は1～1024 Kまで可能です。 （続く）

7 「プリフィックス選択」でプリフィックスの設定を選ぶ。

なし: プリフィックス（発信番号）を使用しない場合。
プリフィックス-A: 発信設定メニュー3ページ目の「プリフィックス-A」で設定したプリフィックスを使用する場合。
プリフィックス-B: 発信設定メニュー3ページ目の「プリフィックス-B」で設定したプリフィックスを使用する場合。
プリフィックス-C: 発信設定メニュー3ページ目の「プリフィックス-C」で設定したプリフィックスを使用する場合。

◆ プリフィックスの設定方法については、「発信設定メニュー」（95ページ）をご覧ください。

ヒント

リモートコマンダーのヘルプボタンを押すと、プリフィックスの設定内容を確認することができます。

8 「制限網」で制限網の設定を選ぶ。

オート: 通常のISDN回線を使用して、相手と接続する場合。
56K: ISDN回線の通信速度が56 Kbpsの国や地域と接続する場合。

9 リモートコマンダーのジョイスティックで「保存」を選び、ジョイスティックを押す。

相手の名前と回線番号（サブアドレス）が登録されます。

ご注意

- コンパクトプロセッサーをマルチポイントとして使用するときは、下記の項目は設定できません。
  「使用回線数」、「制限網」
- LANでミーティングを行うときは、下記の項目は設定できません。
  「制限網」

上記以外の項目を設定するには

発信設定メニューの「詳細設定」を「オン」に設定しているときは、メニュー下部に詳細設定ボタンが表示されます。リモートコマンダーのジョイスティックで「詳細設定」を選び、ジョイスティックを押してください。発信設定メニューが表示され、他の設定を変更することができます。

ご注意

- 「詳細設定」で設定した内容は発信設定メニューで設定した内容よりも優先されます。
- コンパクトプロセッサーをマルチポイントとして使用するときは、相手を3地点まで1つのリストに登録することができます。詳しくは128ページをご覧ください。

アドレス帳を修正する

すでに登録してある回線番号や名前、設定を修正することができます。

1 リモートコマンダーのジョイスティックで修正したい相手を選び、ジョイスティックを押す。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「編集」を選び、ジョイスティックを押す。

アドレス入力メニューが表示されます。

3 回線番号や名前、設定を修正する。

4 リモートコマンダーのジョイスティックで「保存」を選び、ジョイスティックを押す。

登録内容の修正が完了します。

登録した相手を削除する

すでに登録してある相手を削除するときは、次のように操作します。

1 リモートコマンダーのジョイスティックで削除したい相手を選び、ジョイスティックを押す。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「削除」を選び、ジョイスティックを押す。

「リストを削除しますか?」という確認のメッセージが表示されます。

3 リモートコマンダーのジョイスティックで「OK」を選び、ジョイスティックを押す。

選んだ相手が削除されます。

削除を中止するときは

手順**3**で「キャンセル」を選び、ジョイスティックを押す。

アドレス帳の設定をコピーする

1 リモートコマンダーのジョイスティックでコピーしたい相手を選び、ジョイスティックを押す。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「コピー」を選び、ジョイスティックを押す。

選んだ相手がコピーされ、名前の欄には「XXX-2」と入力されています。設定は既にコピーされているので、変更したい項目だけ修正して使用することができます。

登録するときのご注意

登録のご注意

相手側のコンパクトプロセッサーの着信設定メニューの「制限網」が「56K」に設定されている場合、「制限網」が「オート」になっていても、56 Kbpsで接続されます。

別売りのBRIボードPCS-I160を取り付けた場合のご注意

別売りのBRIボードPCS-I160を取り付けると、ISDNを3回線（6Bチャネルまで）接続することができます。この場合、2つ目の回線番号を回線番号B1とB2の入力欄に、3つ目の回線番号を回線番号C1とC2の入力欄に登録してください。

別売りのV.35ボードPCS-I161を取り付けた場合のご注意

別売りのV.35ボードPCS-I161を取り付け、V.35インターフェースで専用回線またはターミナルアダプターに接続する場合は、「回線種別」で「V.35」を選び、次のように入力します。

- RS-366を使用する場合:発信設定メニューの「V.35 RS-366」を「オン」に設定して、回線番号を入力してください。
- RS-366を使用しない場合: 発信設定メニューの「V.35 RS-366」を「オフ」に設定して、回線番号を入力しないでください。

ISDN回線での通信速度の一時切り換えについて

コンパクトプロセッサーは、出荷時の設定ではISDN回線に64 Kbpsで接続するようになっています。通常はこの設定でお使いいただけますが、アメリカなど一部の国、地域によっては、ISDNの通信速度として64 Kbpsと56 Kbpsの2種類が使用されています。このような国、地域の相手と64 Kbpsでミーティングを開始しようとするとうまくつながらないことがあります。

この場合は、発信設定メニューの「制限網」を「56K」に切り換えてからミーティングを開始して（相手を呼び出して）ください。

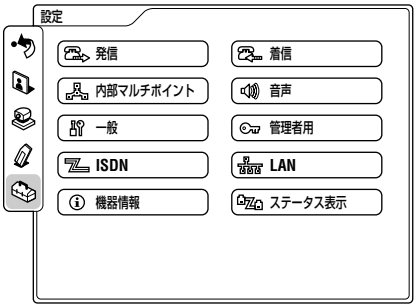
システムを設定する

ミーティングをする前に、こちら側の端末の情報をあらかじめ設定メニューで設定しておいてください。
例として、ISDN設定メニューの設定手順を下記に説明します。

ISDN設定メニューを設定する

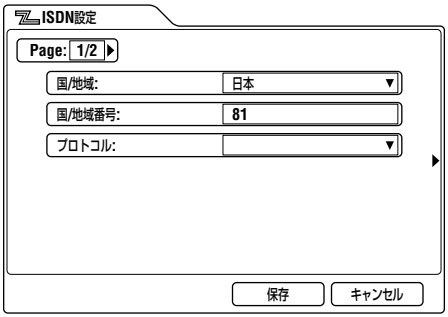
1 リモートコマンダーのジョイスティックでランチャーメニューの を選び、ジョイスティックを押す。または、メニューボタンを押す。

設定メニューが表示されます。



2 リモートコマンダーのジョイスティックで「ISDN」を選び、ジョイスティックを押す。

ISDN設定メニュー（1ページ目）が表示されます。



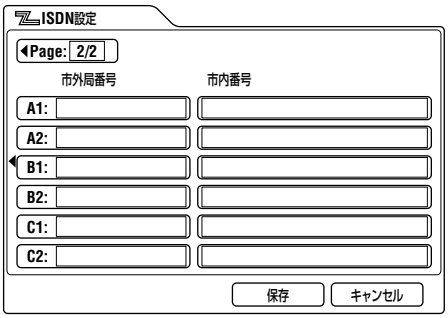
3 国/地域名欄でコンパクトプロセッサーを使用する国や地域を選ぶ（日本国内で使用する場合は、「日本」を選んでください）。

4 国/地域番号欄に国番号や地域番号を入力する。

日本国内で使用する場合は、「81」と入力してください。（手順**3**で「日本」を選ぶと、自動的に「81」と表示されます。）

5 リモートコマンダーのジョイスティックで「Page1/2」を選び、ジョイスティックを右側に動かす。

ISDN設定メニュー（2ページ目）が表示されます。



6 市外局番号A1とA2欄に市外局番号を入力する。

市外局番号の最初の「0」は入力しないでください。

ご注意

別売りのBRIボードPCS-I160を取り付け、3回線使用するときは、B1～C2欄も登録してください。

（続く）

7 市内局番A1とA2欄に回線番号（サブアドレスを設定しているときはサブアドレスも）を入力する。

サブアドレスを登録する場合は、回線番号とサブアドレスを「✱(アスタリスク)」で区切って入力します。サブアドレスは、数字のみ有効です。

8 リモートコマンダーのジョイスティックで「保存」を選び、ジョイスティックを押す。

確認のメッセージが表示されます。

9 リモートコマンダーのジョイスティックで「OK」を選び、ジョイスティックを押す。

設定が保存されます。

設定を中止するには

リモートコマンダーのジョイスティックで「キャンセル」を選び、ジョイスティックを押してください。または、リモートコマンダーの戻るボタンを押してください。

表示したメニューのページを切り換えるには

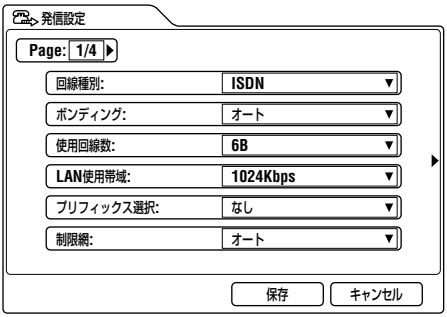
リモートコマンダーのジョイスティックを左右に動かしてください。メニューのページが切り換わります。

設定メニューの項目

発信設定メニュー

発信時の属性などを設定します。

1ページ目



回線種別: 通常使用する回線インターフェースを選びます。

ISDN: 通常のISDN回線でTV会議システムと接続する場合。

音声電話: 通常のISDN回線で電話と音声のみを接続する場合。**（ボイスミーティング）**

V.35: V.35インターフェースでTV会議システムと接続する場合。（オプション）

LAN: LANを使ってTV会議システムと接続する場合。（オプション）

ISDN：ISDN回線でマルチポイント接続をする場合。（オプション）

ボンディング: Inverse Multiplexerインターフェースで接続するかどうか選びます。

オート: 相手側がInverse Multiplexerインターフェースのとき自動的に切り換えます。

オン: 常にInverse Multiplexerインターフェースで接続する場合。

Bonding（Bandwidth on Demand Interoperability Group）はTHE BONDING CONSORTIUMの登録商標です。

使用回線数: BONDINGの発信時に使用するISDN回線の数を選びます。

1B: 1Bチャネルで接続します。

2B: 2Bチャネルで接続します。

3B: 3Bチャネルで接続します。

4B: 4Bチャネルで接続します。

5B: 5Bチャネルで接続します。

6B: 6Bチャネルで接続します。

（続く）

LAN使用帯域: LANを使って通信するときの帯域幅を選択します。「その他」を選択すると1～1024 Kで入力することができます。

プリフィックス選択: 通常使用するプリフィックスの設定を選びます。

なし: プリフィックス（発信番号）を使用しない場合。

プリフィックス-A: 発信設定メニュー3ページ目の「プリフィックス-A」で設定したプリフィックスを使用する場合。

プリフィックス-B: 発信設定メニュー3ページ目の「プリフィックス-B」で設定したプリフィックスを使用する場合。

プリフィックス-C: 発信設定メニュー3ページ目の「プリフィックス-C」で設定したプリフィックスを使用する場合。

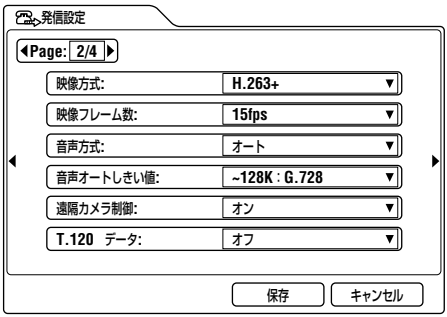
制限網: ISDN通信網速度を選びます。

オート: 通常のISDN回線を使用して、相手と接続する場合。

56K: ISDN回線の通信速度が56 Kbpsの国や地域と接続する場合。

◆ プリフィックスの設定方法については、98ページをご覧ください。

2ページ目



映像方式: 映像の圧縮方式を選びます。

H.261: H.261に準拠した圧縮方式を使用する場合（静止画伝送（Annex D）を行う場合）。

H.263+: H.263に準拠した圧縮方式を使用する場合。

相手もH.263+をサポートしていて、H.263、15fps、384 Kbps以下の条件を満たすときのみ、H.263+（H.263 Annex-J）の通信になります。

映像フレーム数: 映像の送信フレーム数を選びます。

15fps: CIFフォーマット映像を最大15フレーム/秒で送信する場合。

30fps: CIFフォーマット映像を最大30フレーム/秒で送信する場合。

音声方式: 音声符号化方式を選びます。

G.728: 画質を優先します。(音声伝送帯域が3.4 kHzになります。)

G.722: 音質を優先します。(音声伝送帯域が7 kHzになります。)

G.711: G.722とG.728をサポートしていないTV会議システムと接続する場合。

オート:使用する回線の数に応じて自動で選択する場合。

音声オートしきい値:「音声方式」の「オート」の設定を選びます。

〜64K: G.728: 1Bチャネルのときは「音声方式」を「G.728」に、2Bチャネル以上のときは「G.722」にする場合。

〜128K: G.728: 2Bチャネル以下のときは「音声方式」を「G.728」に、3Bチャネル以上のときは「G.722」にする場合。

〜192K: G.728: 3Bチャネル以下のときは「音声方式」を「G.728」に、4Bチャネル以上のときは「G.722」にする場合。

遠隔カメラ制御: 相手側のカメラを操作するかどうか選びます。

オン: 相手側のカメラを操作する場合。

オフ: 相手側のカメラを操作しない場合。

T.120**データ**: T.120に準拠したデータ会議を行うかどうか選びます。

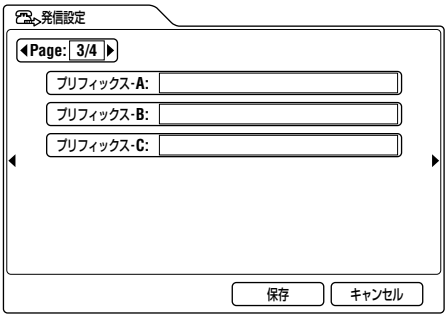
オン: T.120に準拠したデータ会議を行う場合。

オフ: データ会議を行わない場合。

ご注意

- 別売りのV.35ボードPCS-I161を取り付けていないときは、「回線種別」の「V.35」を選ぶことができません。
- 別売りのアップグレードキットPCS-UC161で本機のソフトウェアをアップグレードしていないときは、「回線種別」の「LAN」を選ぶことができません。

3ページ目



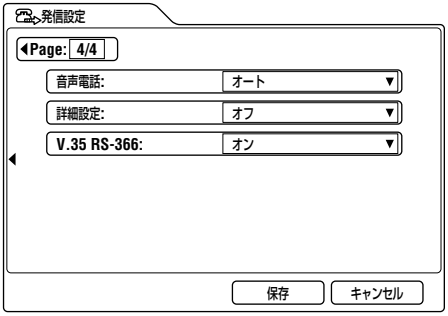
プリフィックス-A: 発信設定メニュー1ページ目の「プリフィックス選択」の「プリフィックス-A」のプリフィックス（発信番号）を設定します。
プリフィックス-B: 発信設定メニュー1ページ目の「プリフィックス選択」の「プリフィックス-B」のプリフィックス（発信番号）を設定します。
プリフィックス-C: 発信設定メニュー1ページ目の「プリフィックス選択」の「プリフィックス-C」のプリフィックス（発信番号）を設定します。

ご注意

この欄に登録された番号が回線番号の前に付加されてダイヤルされます。

0発信の場合は、「0」と入力してください。

4ページ目



音声電話: ボイスミーティングのときの音声圧伸方式を選びます。

オート: 自動的に選ぶ場合。

G.711μ-law: G.711 μ則の圧伸方式を選ぶ場合。

G.711A-law: G.711A則の圧伸方式を選ぶ場合。

詳細設定: 発信設定メニューで設定した発信属性をダイヤルリストごとに持つかどうか選びます。

オン: 発信属性をダイヤルリストごとに持つ場合。

オフ: 発信属性をダイヤルリストごとに持たない場合。

V.35 RS-366: V.35 インターフェースで通信するときに着信先を指定するかどうか選びます。

オン: 着信先を指定する場合。

オフ: 着信先を指定しない場合。

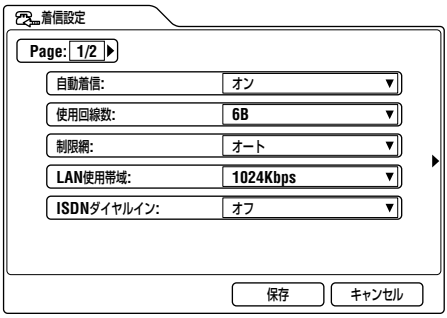
ご注意

別売りのV.35ボードPCS-I161を取り付けていないときは、「V.35 RS-366」は表示されません。

着信設定メニュー

着信時の設定をします。

1ページ目



自動着信: 自動着信するかどうか選びます。

オン: 自動着信するとき。

オフ: 手動着信するとき。

使用回線数: 着信時に使用するISDN回線の数を選びます。

1B: 1Bチャネルで接続します。

2B: 2Bチャネルで接続します。

3B: 3Bチャネルで接続します。

4B: 4Bチャネルで接続します。

5B: 5Bチャネルで接続します。

6B: 6Bチャネルで接続します。

制限網: ISDN通信網速度を選びます。

オート: 通常のISDN回線を使用して、相手と接続する場合。

56K: ISDN回線の通信速度が56 Kbpsの国や地域と接続する場合。

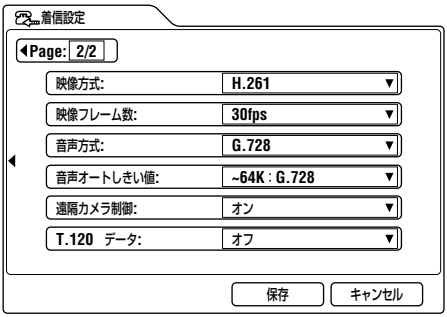
LAN使用帯域: LANを使って通信するときの帯域幅を選択します。「その他」を選択すると1～1024 Kで入力することができます。

ISDNダイヤルイン: 複数加入者番号を使用しているかどうか選びます。

オン: 複数加入者番号を使用しているとき。

オフ: 複数加入者番号を使用していないとき。

2ページ目



映像方式: 映像の圧縮方式を選びます。

H.261: H.261に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.263+: H.263に準拠した圧縮方式を使用する場合。

相手もH.263+をサポートしていて、H.263、15fps、384 Kbps以下の条件を満たすときのみ、H.263+（H.263 Annex-J）の通信になります。

映像フレーム数: 映像の送信フレーム数を選びます。

15fps: CIFフォーマット映像を最大15フレーム/秒で受信する場合。

30fps: CIFフォーマット映像を最大30フレーム/秒で受信する場合。

音声方式: 音声符号化方式を選びます。

G.728: 画質を優先します。（音声伝送帯域が3.4 kHzになります。）

G.722: 音質を優先します。（音声伝送帯域が7 kHzになります。）

G.711: G.722とG.728を使用しない場合。

オート:使用する回線の数に応じて自動で選択する場合。

音声オートしきい値:「音声方式」の「オート」の設定を選びます。

～64K: G.728: 1Bチャネルのときは「音声方式」を「G.728」に、2Bチャネル以上のときは「G.722」にする場合。

～128K: G.728: 2Bチャネル以下のときは「音声方式」を「G.728」に、3Bチャネル以上のときは「G.722」にする場合。

～192K: G.728: 3Bチャネル以上のときは「音声方式」を「G.728」に、4Bチャネル以上のときは「G.722」にする場合。

遠隔カメラ制御: 相手側からのカメラ操作を許可するかどうか選びます。

オン: カメラ操作を許可する場合。

オフ: カメラ操作を許可しない場合。

T.120データ: T.120に準拠したデータ会議を行うかどうか選びます。

オン: T.120に準拠したデータ会議を行う場合。

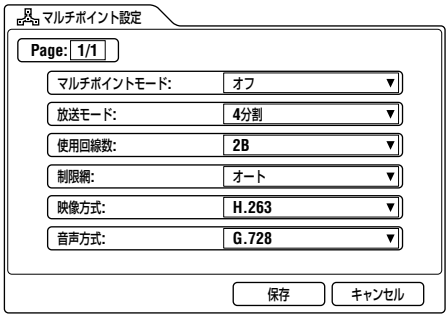
オフ: データ会議を行わない場合。

マルチポイント設定メニュー

別売りのアップグレードキットPCS-UC160で本機のソフトウェアをアップグレードして、本機を多地点会議装置（マルチポイント）として使用するときは、マルチポイント設定メニューを設定してください。

ご注意

マルチポイント設定メニューは、別売りのアップグレードキットPCS-UC160で本機のソフトウェアをアップグレードしているときのみ表示されます。



マルチポイントモード: 多地点会議を行うかどうか選びます。

オン: 多地点会議を行います。

オフ: 多地点会議を行いません。

ヒント

ランチャーメニューでリモートコマンダーのジョイスティックを左に押し続けることでも、マルチポイントモードの「オン」、「オフ」を切り替えることができます。

放送モード: 放送モードを選びます。

4分割: 接続している各端末の映像が4分割された画面に映ります。

音声検出: 会議に参加しているすべての端末の中で音量の一番大きい端末を検出し、その端末の映像を他のすべての端末へ自動的に送信します。

使用回線数: 使用する回線数を選びます。

1B: 1Bチャネルで接続するとき。

2B: 2Bチャネルで接続するとき。

制限網: 通信速度を選びます。

オート: 通常のISDN回線を使用して、相手と接続する場合。

56K: ISDN回線の通信速度が56 Kbpsの国や地域と接続する場合。

映像方式: 映像符号化方式を選びます。

H.261: H.261モードで接続する場合。

H.263: H.263モードで接続する場合。

音声方式: 音声符号化方式を選びます。

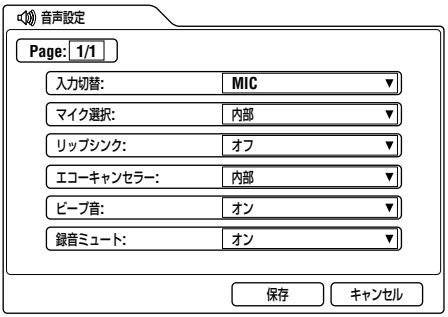
G.728: 画質を優先します。(音声伝送帯域が3.4 kHzになります。)

G.722: 音質を優先します。(音声伝送帯域が7 kHzになります。)

G.711: G.722とG.728を使用しない場合。

音声設定メニュー

音声系の設定をします。



入力切替: 音声の入力を選びます。

MIC: 内蔵マイクの音声を入力する場合。

AUX: 外部機器の音声を入力する場合。

MIC+AUX: 内蔵マイクと外部機器の両方の音声を入力する場合。

マイク選択: 使用するマイクを選びます。

内部: コンパクトプロセッサーのマイクを使用する場合。

外部: 外部マイクを使用する場合。

リップシンク: リップシンク機能を使用するかどうか選びます。

オン: リップシンク機能を使用する場合。

オフ: リップシンク機能を使用しない場合。

エコーキャンセラー: エコーキャンセラーを使用するかどうか選びます。

内部: 本機内部のエコーキャンセラーを使用する場合。

外部: 外部機器のエコーキャンセラーを使用する場合。

オフ: 本機内部のエコーキャンセラーを使用しない場合。

ビープ音: リモートコマンダーのボタンを押したときに、ビープ音を出すかどうか選びます。

オン: ビープ音を出す場合。

オフ: ビープ音を出さない場合。

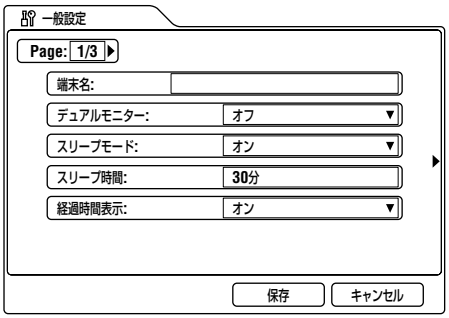
録音ミュート: AUDIO IN端子とAUDIO OUT（MIXED）端子に1台のカセットレコーダーを接続し、そのカセットレコーダーでミーティングの音声を録音するときに、相手側にエコーが返るのを防ぎます（録音ミュート）。「入力切替」が「AUX」または「MIC＋AUX」のときのみ録音ミュートが可能です。

オン: 録音ミュートを使用する場合。

オフ: 録音ミュートを使用しない場合。

一般設定メニュー

1ページ目



端末名: 外部MCUに通知する端末の名前を入力します。

デュアルモニター: デュアルモニター機能を使用するかどうか選びます。

オン: デュアルモニター機能を使用する場合。静止画は2台目のモニターに表示されます。

オフ: デュアルモニター機能を使用しない場合。

スリープモード: スリープ機能を使用するかどうか選びます。

オン: スリープ機能を使用する場合。

オフ: スリープ機能を使用しない場合。

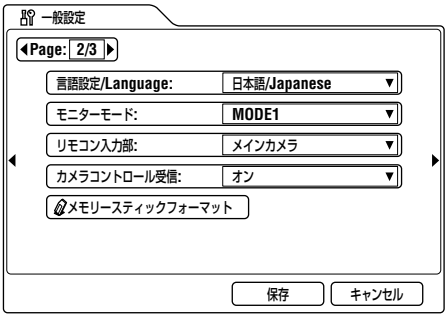
スリープ時間: スリープモードに入るまでの時間を設定します。1～99分の間で設定できます。

経過時間表示: 通話時間を表示するかどうか選びます。

オン: 通話時間を表示します。

オフ: 通話時間を表示しません。

2ページ目



言語設定/Language: 画面に表示されるメッセージの言語を選びます。

英語/English: 英語で表示するとき。

フランス語/French: フランス語で表示するとき。

ドイツ語/German: ドイツ語で表示するとき。

日本語/Japanese: 日本語で表示するとき。

スペイン語/Spanish: スペイン語で表示するとき。

イタリア語/Italian: イタリア語で表示するとき。

中国語/Chinese: 中国語で表示するとき。

モニターモード: IRリピーターのリモコンモードを選びます。

MODE1:「モード1」を使用する場合。

MODE2:「モード2」を使用する場合。

MODE3:「モード3」を使用する場合。

MODE4:「モード4」を使用する場合。

リモコン入力部: 機能するリモコン受光部を選びます。通常は、「メインカメラ」に設定してください。

メインカメラ: カメラのリモコン受光部を使用する場合。

本体: メインユニットのリモコン受光部を使用する場合。

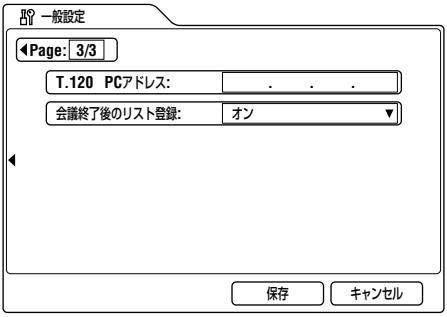
カメラコントロール受信: 相手側からのカメラコントロールコマンドを受信するかどうか選びます。

オン: カメラコントロールコマンドを受信する場合。

オフ: カメラコントロールコマンドを受信しない場合。

メモリースティックフォーマット: “メモリースティック”のフォーマットを実行します。

3ページ目



T.120 PCアドレス: T.120に準拠したデータ会議で使用するコンピューターのPCアドレスを入力します。

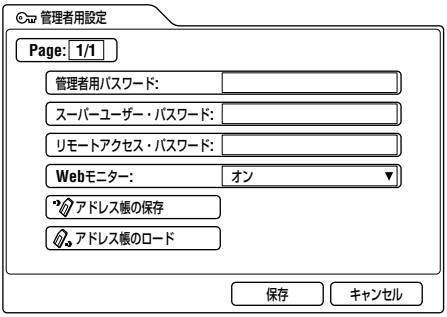
会議終了後のリスト登録: 会議終了後、相手をアドレス帳に登録するかどうかを選択します。

オン: アドレス帳に登録する場合。

オフ: アドレス帳に登録しない場合。

管理者メニュー

システムの管理者が使用するメニューです。このメニューでパスワードを設定すると、設定メニューやアドレス帳メニューの変更にパスワードが必要になります。また、管理者メニューにアクセスするときも、上記のパスワードが必要になります。



管理者用パスワード: 管理者用のパスワードを設定します。管理者は、設定メニューとアドレス帳メニューを変更することができます。
一度入力したパスワードは、本機がスタンバイ状態になるまで、または電源が切れるまで有効です。
スーパーユーザー・パスワード: スーパーユーザー用のパスワードを設定します。スーパーユーザーは、アドレス帳メニューを変更することができます。
リモートアクセス・パスワード: Webからアクセスするときのパスワードを設定します。(管理者用とスーパーユーザー用のパスワードでもアクセスすることができます。)
Webモニター: Webからの会議状態監視機能(JPEG画像の自動更新)を許可するかどうか選びます。
オン: Webからの会議状態監視機能を許可する場合。
オフ: Webからの会議状態監視機能を許可しない場合。
アドレス帳の保存: アドレス帳メニューのデータを"メモリースティック"に保存します。"メモリースティック"のデータは上書きされます。
アドレス帳のロード: アドレス帳メニューのデータを"メモリースティック"からロードします。本体のアドレス帳メニューのデータは上書きされます。

ISDN設定メニュー

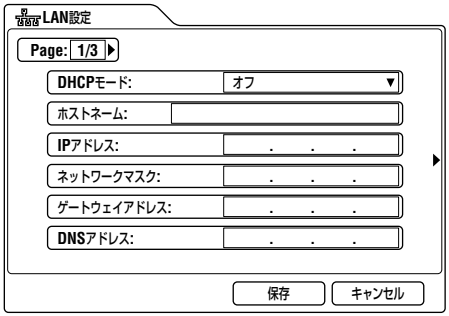
ISDNの設定に関するメニューです。92ページをご覧ください。

LAN設定メニュー

別売りのアップグレードキットPCS-UC161で本機のソフトウェアをアップグレードして、LANを使ったミーティングをするときは、LAN設定メニューを設定してください。

◆ 詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

1ページ目



DHCPモード: DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホスト構成プロトコル）を設定します。

オート: IPアドレスとネットマスクを自動的に取得します。インフォメーションメニューでIPアドレスを確認してください。

オフ: DHCPを「オフ」に設定します。「オフ」にしたときは、IPアドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNSアドレスを入力してください。

ホストネーム: ホスト名を入力します。

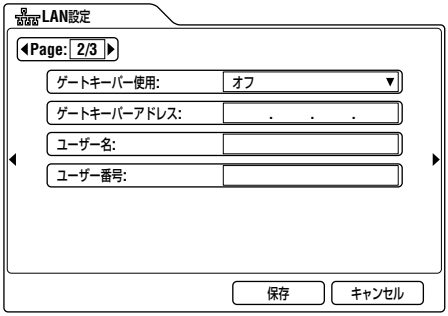
IPアドレス: IPアドレスを入力します。

ネットワークマスク: ネットワークマスクを入力します。

ゲートウェイアドレス: デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

DNSアドレス: DNS（Domain Name System）サーバーアドレスを入力します。

2ページ目



ゲートキーパー使用: ゲートキーパーを使用するかどうか設定します。

オン: ゲートキーパーを使用します。

オフ: ゲートキーパーを使用しません。

オート: 自動的にゲートキーパーを探し、使用します。

ゲートキーパーアドレス: ゲートキーパーアドレスを入力します。

ユーザー名: ゲートキーパーで使用されるユーザー名（H.323 エイリアス）を入力します。

ユーザー番号: ゲートキーパーで定義されるユーザー番号（E.164 ナンバー）を入力します。

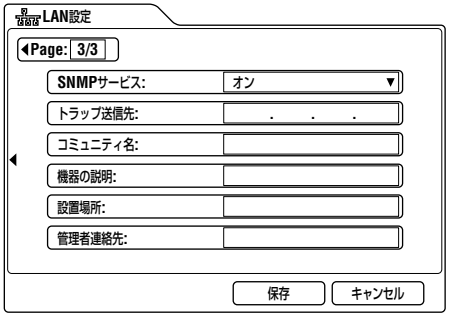
ご注意

LAN 設定メニューの 2 ページ目は、別売りのアップグレードキット PCS-UC161で本機のソフトウェアをアップグレードしているときのみ表示されます。

ヒント

「ゲートキーパー使用」を「オン」に設定すると、IPアドレスを使った発信の他に、ユーザー名やユーザー番号を使った発信が可能になります。

3ページ目



SNMPサービス: SNMPエージェントのサービスを有効にするかどうか設定します。

オン: SNMPエージェントのサービスを有効にします。

オフ: SNMPエージェントのサービスを無効にします。

トラップ送信先: トラップを送信するSNMPマネージャーのアドレスを入力します。

コミュニティ名: SNMPマネージャーが管理するコミュニティ名を入力します。デフォルトでは、「public」と入力されています。通常は変更する必要はありません。

機器の説明: この機器についての説明を入力します。デフォルトでは、「Videoconference Device」と入力されています。この項目は変更できません。

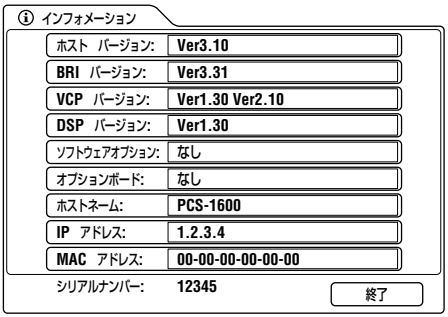
設置場所: この機器を設置している場所を入力します。

管理者連絡先: この機器の管理者についての情報を入力します。

インフォメーションメニュー

コンパクトプロセッサーのバージョンとインストールされているオプションを表示します。

リモートコマンダーのジョイスティックで設定メニューの「機器情報」を選び、ジョイスティックを押してください。



ホストバージョン: ソフトウェアバージョンを表示します。

BRIバージョン: BRIバージョンを表示します。

VCPバージョン: 映像コーデックバージョンを表示します。

DSPバージョン: オーディオDSPバージョンを表示します。

ソフトウェアオプション: インストールされているオプションのソフトウェアの種類を表示します。

なし: オプションのソフトウェアはインストールされていません。

Multipoint: アップグレードキットPCS-UC160でアップグレードされています。

H.323: アップグレードキットPCS-UC161でアップグレードされています。

Multipoint&H.323: アップグレードキットPCS-UC160/UC161でアップグレードされています。

オプションボード: インストールされている別売りのボードの種類を表示します。

なし: 別売りのボードは取り付けられていません。

2BRI: BRIボードPCS-I160が取り付けられています。

V.35: V.35ボードPCS-I161が取り付けられています。

ホストネーム: ホスト名を表示します。

IPアドレス: IPアドレスを表示します。

MACアドレス: MACアドレスを表示します。

シリアルナンバー: シリアル番号を表示します。

5章

別売りの機器を使ったミーティング

別売りのボードを取り付ける

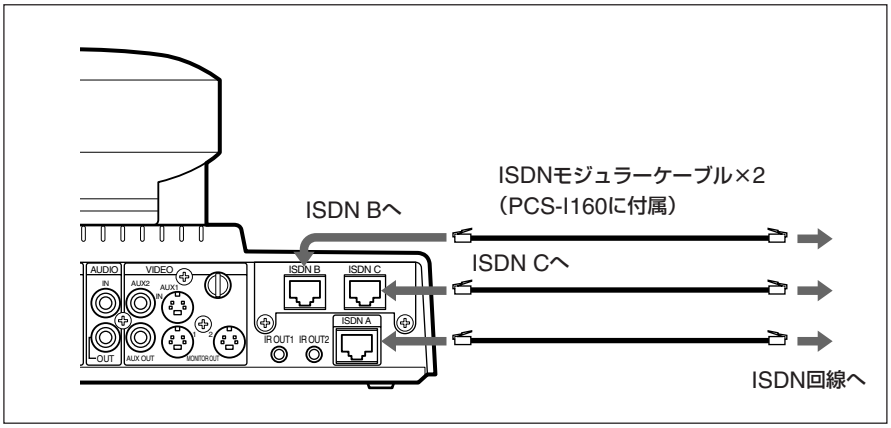
V.35インターフェースで接続したり、ISDN回線を3回線使用したりするためには、それぞれの機能に応じたボードを取り付ける必要があります。

◆ 別売りのボードの取り付けについては、それぞれのボードの取扱説明書をご覧ください。

取り付けるボード	機能
BRIボード PCS-I160	3本のBRI回線インターフェースによる接続をする場合 アップグレードキットPCS-UC160を使用してコンパクトプロセッサーをMCU（多地点会議装置）として使用する場合も、このボードが必要です。
V.35ボード PCS-I161	V.35回線インターフェースによる接続をする場合

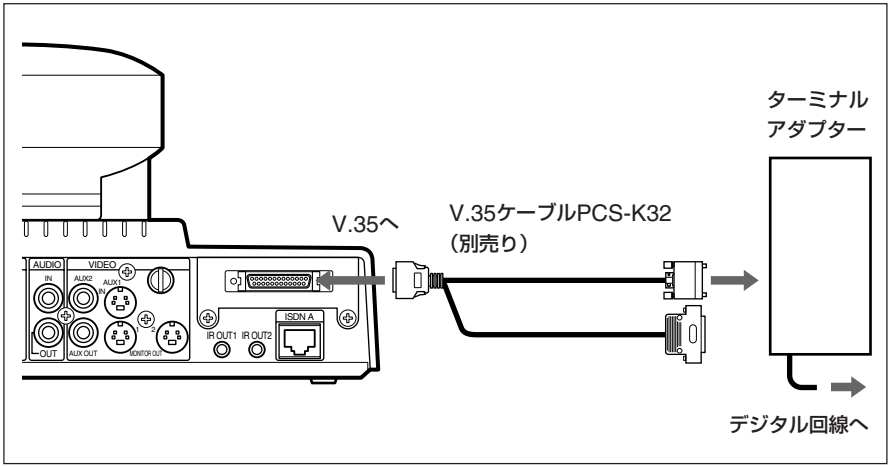
ISDN回線を3回線使用する

BRIボードPCS-I160（別売り）を取り付けてください。6Bチャネルでの接続が可能になります。



V.35インターフェースを使用する

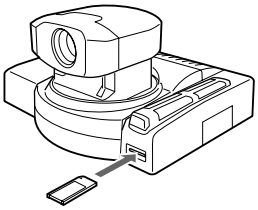
V.35ボードPCS-I161（別売り）を取り付けてください。V.35インターフェースでミーティングを行うことができるようになります。



ソフトウェアをアップグレードする

下記の手順でソフトウェアをアップグレードしてください（PCS-UC160/UC161）。

1 “メモリースティック”の上面に書いてある矢印の向きに、“メモリースティック”を差し込む。



2 電源を入れる。

アップグレードが完了すると、ランチャーメニューが表示されます。

ご注意

ランチャーメニューが表示されるまで、電源を切ったり、“メモリースティック”を取り出したりしないでください。

3 “メモリースティック”を1度押し込んで、“メモリースティック”を取り出す。

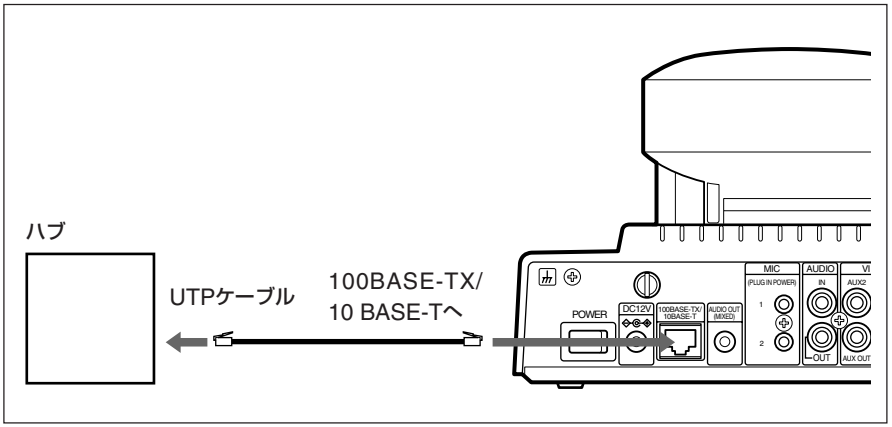
4 インフォメーションメニューを表示して、アップグレードされているかどうか確認する。

◆ インフォメーションメニューについて詳しくは、「インフォメーションメニュー」（112ページ）をご覧ください。

5 アップグレードキットに付属しているシリアル番号シールをコンパクトプロセッサーの底面の平らなところに貼る。

LANでミーティングするときの接続

別売りのアップグレードキットPCS-UC161で本機のソフトウェアをアップグレードしてください。LANを使った接続が可能になります。ケーブルはUTP（Unshielded Twisted Pair）カテゴリー5ケーブルをご使用ください。



ご注意

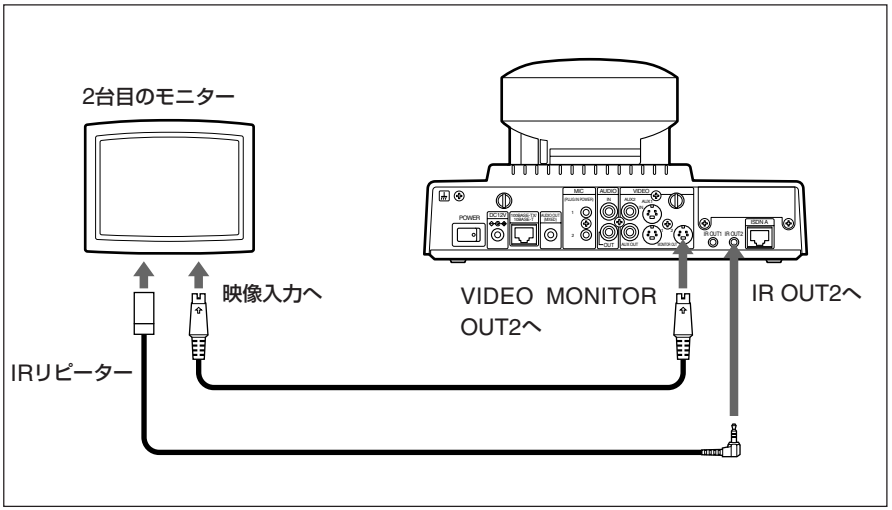
PCS-1600のモード（速度100BASE/10BASE、半/全二重の設定）は、自動に設定されています。ハブの設定を自動または半二重にしないと、動作が不安定になることがあります。

デュアルモニターでミーティングをする

モニターを2台つなぎ、1台を動画専用、もう1台を静止画専用のモニターとして使用することができます。**（デュアルモニターシステム）**

デュアルモニター用のモニターを接続するには

デュアルモニター用のモニターは本機のVIDEO MONITOR OUT2端子に接続します。1台目のモニターは動画専用モニターになります。
付属のIRリピーターを2台目のモニターのリモコン受光部の下に差し込んでください。



デュアルモニターに切り換えるには

一般設定メニューの「デュアルモニター」を「オン」に設定してください。出荷時は「オフ」になっています。

◆「デュアルモニター」の設定については、「一般設定メニュー」（105ページ）をご覧ください。

ご注意

「デュアルモニター」が「オフ」に設定されているときは、1台目のモニターに静止画が表示されます。

複数のマイクロホンを使用する

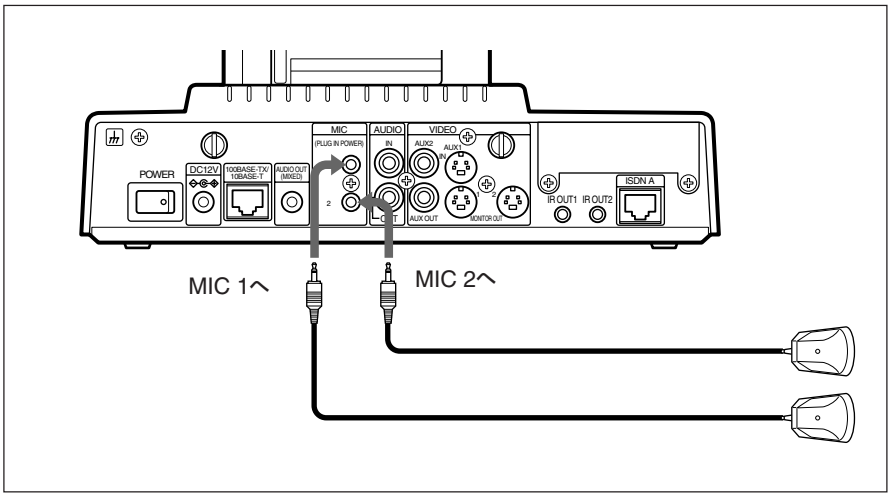
コンパクトプロセッサーでは、3人程度の参加者を想定していますが、マイクロホン PCS-A300（別売り）を追加すると、多人数でのミーティングも可能になります。

ご注意

- 音声設定メニューの「マイク選択」を「外部」に設定してください。
- マイクロホンを接続すると、内蔵マイクは使用できなくなります。

マイクロホンを接続する

マイクロホンは2つまで接続することができます。マイクロホンの電源は、コンパクトプロセッサーより供給されます。



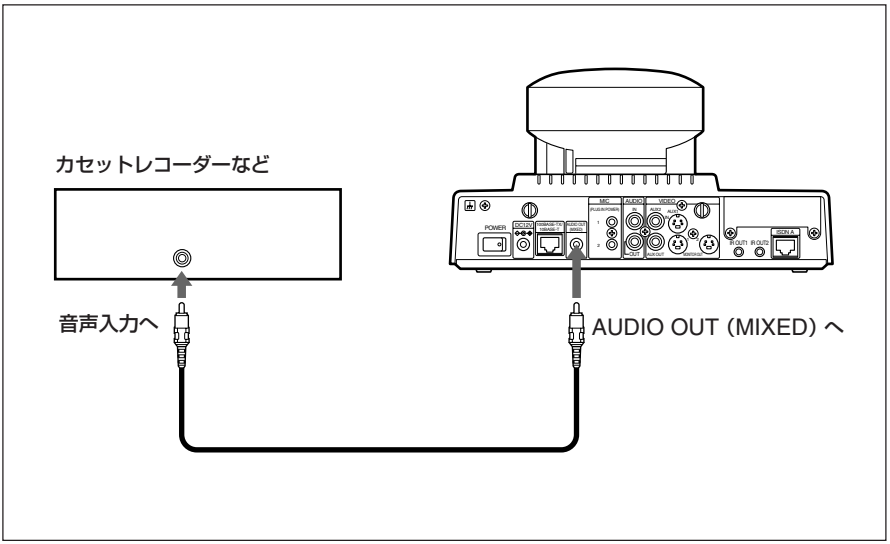
マイクロホンPCS-A300を設置するときのご注意

- 参加者とマイクロホンの間隔が 50 cmになるように設置してください。
- スピーカーは、マイクロホン後部に設置してください。
- できるだけ静かで、音が反響しにくい場所に設置してください。
- ノイズの発生源となるような機器の近くには設置しないでください。
- 紙などでマイクロホンを覆ったり、動かしたりしないでください。ノイズとエコーが相手側へ一時的に大きく伝わることがあります。その場合は、エコーがおさまるまでしばらくお待ちください。

ミーティングの音声を録音する

ミーティング中の音声をAUDIO OUT（MIXED）端子から出力して、カセットレコーダーなどに録音することができます。
議事録にはこちら側と相手側の両方の音声が記録されます。

◆「録音ミュート」の設定については、「音声設定メニュー」（103ページ）をご覧ください。



ご注意

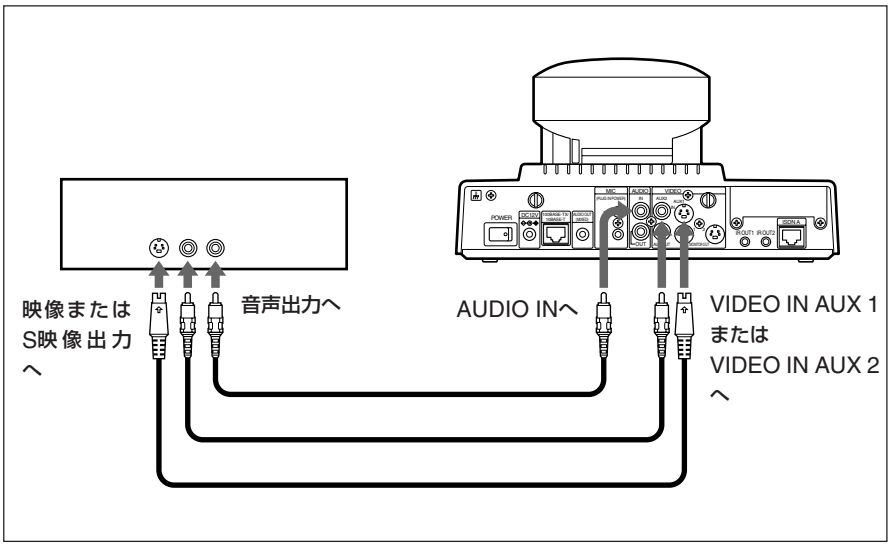
1台のカセットレコーダーをAUDIO IN端子とAUDIO OUT（MIXED）端子の両方に接続しているときは、「録音ミュート」を「オン」に設定してください。

外部機器を使用する

コンパクトプロセッサーには入力用の外部映像機器を2台と出力用の外部映像機器を2台（モニター用テレビを含みます）接続することができます。

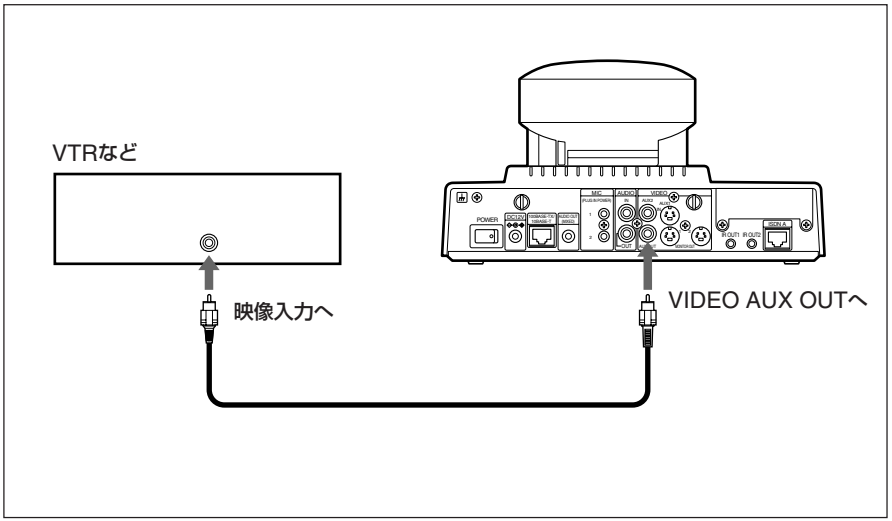
入力用の外部映像機器を接続する

別売りのVTRなどを接続してください。コンパクトプロセッサーは映像入力を2系統、音声入力を1系統備えています。



出力用の外部映像機器を接続する

モニター用テレビの他に、もう1台VTRなどの外部機器を接続することができます。



T.120データ会議をする

NetMeetingをインストールしたパーソナルコンピューターを接続すると、NetMeeting間で、データ会議の国際標準であるITU-T勧告T.120に準拠したデータ会議を行うことができます。

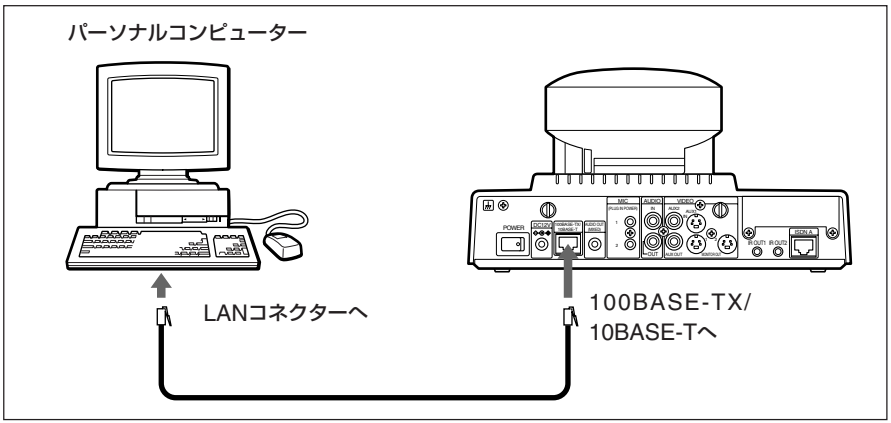
NetMeetingは米国マイクロソフト社の登録商標です。

ご注意

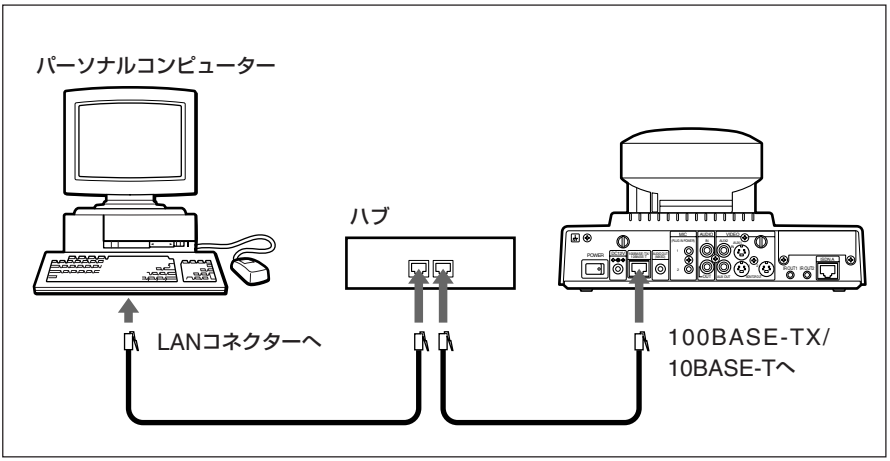
- 別売りのアップグレードキットPCS-UC161で本機のソフトウェアをアップグレードして、LANで使用しているときは、データ会議を行うことはできません。
- コンパクトプロセッサーをマルチポイントとして使用しているときは、データ会議を行うことはできません。

パーソナルコンピューターを接続する

パーソナルコンピューターのLANコネクターとコンパクトプロセッサーの100BASE-TX/10BASE-T端子を市販のUTPクロスケーブル（カテゴリー5）で接続してください。



ハブを使用しているときは、ストレートケーブルを使用して、下記のように接続してください。



NetMeetingのインストール

NetMeetingを手順に従ってパーソナルコンピューターにインストールしてください。

コンパクトプロセッサーの設定をする

一般設定メニューの「T.120 PCアドレス」にネットミーティングをインストールしたパーソナルコンピューターのIPアドレスを入力してください。

こちら側からミーティングを始めるとき

発信設定メニューの「T.120データ」を「オン」に設定してください。

相手側から呼び出されたとき

着信設定メニューの「T.120データ」を「オン」に設定してください。

ご注意

「音声方式」を「G.728」に設定して使用することをお奨めします。

NetMeetingで接続する

1 NetMeetingのアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューからNetMeetingのアイコンを選択して、NetMeetingを起動する。

2 コンパクトプロセッサーを通信状態にする。

モニター画面に T.120 が表示されていることを確認してください。

3 こちら側または相手側のどちらかでNetMeetingの[通話]をクリックする。

4 [通話先]ダイアログボックスの[アドレス]にコンパクトプロセッサーに設定されているIPアドレスを入力する。

5 [通話]をクリックする。

しばらくすると接続が完了します。

◆ 具体的な使用方法は、NetMeetingのヘルプメニューなどをご覧ください。

データ伝送レートについて

コンパクトプロセッサーは、MLP 6.4 Kbps、24 Kbps、32 Kbps、HMLP 62.4 Kbpsをサポートしています。

外部から本機にアクセスする

本機は下記のような外部アクセスが可能です。いずれの場合も、詳しい内容については、お買い上げ店にご相談ください。

Webブラウザを使用する

Webブラウザから本機のIPアドレスにアクセスして、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。

◆ アクセス権やパスワードについては、「管理者メニュー」（107ページ）をご覧ください。

Telnetを使用する

Telnetにより、本機のIPアドレスにアクセスして、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。

AUX CONTROL端子による外部コントロールを使用する

AUX CONTROL端子を利用して、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。

6章

本機をマルチポイントとして使用するミーティング

概要

別売りのアップグレードキットPCS-UC160は、コンパクトコンファレンスパッケージPCS-1600専用のアップグレードキットです。アップグレードを行うと、国際規格であるITU-T勧告H.231に準拠した多地点会議装置（マルチポイント）として使用することができます。

ご注意

マルチポイント機能を有効にするためには、別売りのBRIボードPCS-I160も必要です。（BRIボードPCS-I160がインストールされていない状態でも、アップグレードカードのインストールは可能です。）

多地点会議を始める

自端末も含め、最大4地点間でのテレビ会議を行うことができます。
音声電話とは1地点のみ接続することができます。

ご注意

- 多地点会議を行う前に、内部マルチポイント設定メニューの設定を行ってください。
- マルチマークへの発信時、マルチリストへの発信時は、内部マルチポイントモードの設定にかかわらず、内部マルチポイントモードでの接続となります。

多地点会議をマルチポイント接続リストとして登録する

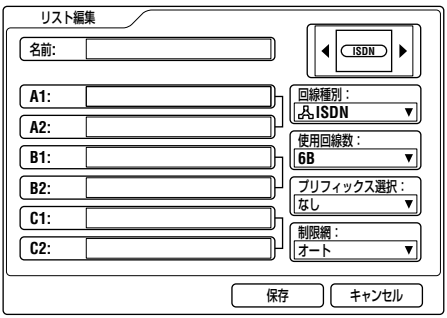
新規にマルチポイント接続リストを登録する

1 リモートコマンダーのアドレス帳ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。

2 リモートコマンダーのジョイスティックで「新規登録」を選び、ジョイスティックを押す。

リスト編集メニューが表示されます。



3 名前の入力欄に相手の名前を入力する。

4 回線種別で「ISDN」を選択する。

5 回線種別アイコンまたは「メモリースティック」の静止画を選ぶ。

この場合、回線種別アイコンはISDNになります。

6 A1～C2に登録したい相手の数だけ電話番号を入力する。

A1、A2は1地点目の電話番号
B1、B2は2地点目の電話番号
C1、C2は3地点目の電話番号
（「回線数」が「1B」に設定されているときは、A1、B1、C1の入力欄に入力する。）

ご注意

音声電話を選択している場合は、1地点のみ接続可能です。入力時には、電話番号の前に「T」を入力してください。

7 プリフィックス選択を選ぶ。

8 「保存」を選び、ジョイスティックを押す。

登録が完了します。

登録している相手をマルチポイント接続リストとして登録する

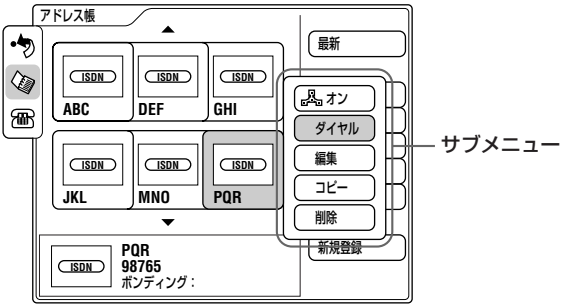
1 リモートコマンダーのアドレス帳ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。

（続く）

2 アドレス帳メニューで登録している相手を選び、ジョイスティックを押す。

サブメニューが表示されます。



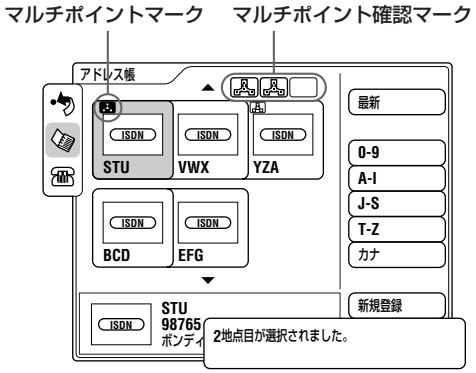
3 「オン」を選び、ジョイスティックを押す。

のマークが相手リスト欄の左上に表示されます。
同じ手順で3地点まで マークをつけることができます。
何地点 マークをつけたかはメニュー上で確認できます。

マークを解除するときは マークのついた相手を選び、サブメニューから「オフ」を選びジョイスティックを押します。

ヒント

リモートコマンダーの✱ボタンでオン／オフの切り換えが可能です。



4 マークがついた相手またはリストに加えたい相手を選び、ジョイスティックを押す。

サブメニューが表示されます。

5 「編集」を選び、ジョイスティックを押す。

リスト編集メニューが表示されます。
番号欄にはマークをつけたリストの番号が入力されています。

6 名前の入力欄に相手の名前を入力する。

7 プリフィックス選択を選ぶ。

ご注意

- プリフィックスはコピーできません。
- 音声電話は、電話番号の前に「T」が付きます。

8 「保存」を選び、ジョイスティックを押す。

登録が完了します。

登録している相手を呼び出す

マルチポイント接続リストとして登録している相手を呼び出す

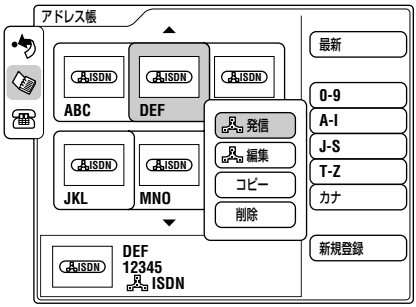
1 リモートコマンダーのアドレス帳ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。

（続く）

2 マルチポイント接続リストの相手を選び、ジョイスティックを押す。

サブメニューが表示されます。
マルチポイント接続リストの相手は回線種別が「ISDN」になっています。



3 「発信」を選び、ジョイスティックを押す。またはリモートコマンダーの接続／切断ボタンを押す。

4 手順**2**で選んだ相手にダイヤルが始まり、モニター画面に「発信中（ISDN）」と表示されます。相手側とつながると「ミーティングを始めます」と表示されます。

登録している相手から選択して呼び出す

1 リモートコマンダーのアドレス帳ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。

2 アドレス帳メニューで登録している相手を選び、ジョイスティックを押す。

サブメニューが表示されます。

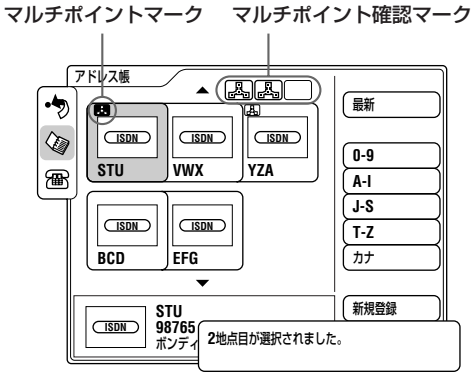
3 「オン」を選び、ジョイスティックを押す。

のマークが相手リスト欄の左上に表示されます。
手順**2**～**3**で3地点まで マークをつけることができます。
何地点マークをつけたかはメニュー上で確認できます。

マルチポイントマークを解除するには、マークがついた相手を選び、サブメニューから「オフ」を選びジョイスティックを押します。

ヒント

リモートコマンダーの✱ボタンでオン／オフの切り換えが可能です。



4 マークがついた相手を選んでジョイスティックを押す。

サブメニューが表示されます。

5 「発信」を選びジョイスティックを押す。またはリモートコマンダーの接続／切断ボタンを押す。

6 手順**2**～**3**で選んだ相手にダイヤルが始まり、モニター画面に「発信中（ISDN）」と表示されます。相手側とつながると「ミーティングを始めます」と表示されます。

ご注意

3Bチャネル以上で接続するように設定している相手と接続するときは、A1のみ、またはA1とA2の入力欄に登録されている番号にしかダイヤルされません。

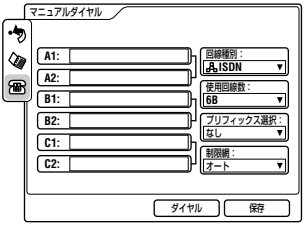
1地点ずつ相手を呼び出す

「アドレス帳から相手を呼び出す」（49ページ）の手順で、1地点ずつ接続して行くことができます。

登録していない相手を呼び出す

1 リモートコマンダーのジョイスティックでランチャーメニューの「マニュアルダイヤル」を選び、ジョイスティックを押す。

マニュアルダイヤルメニューが表示されます。



2 回線種別で「ISDN」を選択する。

3 A1～C2にミーティングする相手の数だけ電話番号を入力する。

A1、A2は1地点目の電話番号
B1、B2は2地点目の電話番号
C1、C2は3地点目の電話番号
（「回線数」が「1B」に設定されているときは、A1、B1、C1の入力欄に入力する。）

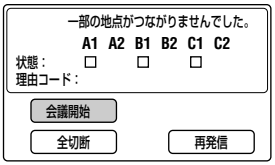
ご注意

音声電話を選択している場合は、1地点のみ接続可能です。入力時には、電話番号の前に「T」を入力してください。

4 リモートコマンダーのジョイスティックで「ダイヤル」を選び、ジョイスティックを押す。またはリモートコマンダーの接続／切断ボタンを押す。

手順**3**で選んだ相手にダイヤルが始まり、モニター画面に「発信中（ISDN）」と表示されます。
相手側とつながると「ミーティングを始めます」と表示されます。
手順**1**～**3**を繰り返して、1地点ずつ相手を呼び出すこともできます。

マルチポイント接続で一部の地点がつながらなかった場合
以下のようなダイアログが表示されます。



会議開始：接続中の相手との会議を開始する。
全切断：すべての会議を終了し、ランチャーメニューへ戻る。
再発信：接続に失敗した地点への発信処理を行う。

登録している相手と登録してない相手が混在した多地点会議をするときは

接続する相手の登録状態にあわせて、「登録している相手から選択して呼び出す」の手順**1**から**5**と、「登録していない相手を呼び出す」の手順**1**から**4**を順番に行ってください。

相手から呼び出しを受ける

通常のテレビ会議の操作と同じです。

◆ 詳しくは、「相手から呼び出されたとき」（52ページ）をご覧ください。

多地点会議をするときのご注意

◆「マルチポイントの属性表」（144ページ）もご覧ください。

- 議長制御はこちら側の端末からしか行えません。また、議長制御権は他の端末へ割り当てることはできません。
- 複数MCU接続はサポートしていません。
- 回線数は、発信設定メニューの設定に関わらず、MCU設定メニューの「使用回線数」が「2B」に設定されているときは2回線に、「1B」に設定されているときは1回線になります。
- ISDN端子にはそれぞれ1地点しか接続できません。1回線（1B）で接続していても、会議の相手は3地点までしか接続できません。
- 音声電話との会議は、1地点のみ可能で、1B接続となります。
- BONDING接続はサポートしていません。

議長制御を行う

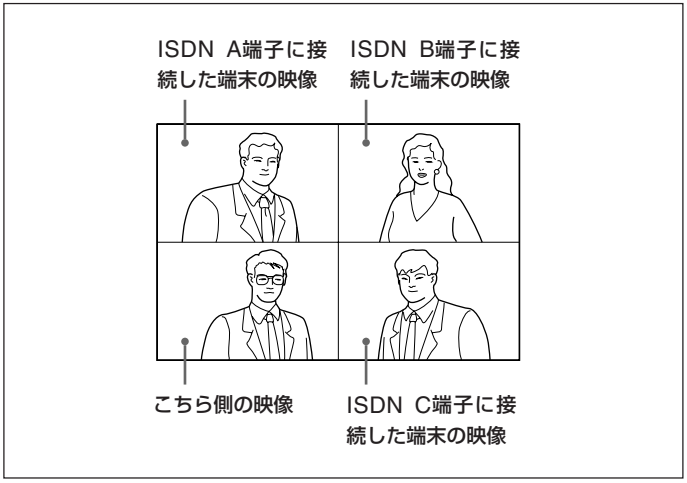
多地点会議を行っているとき、こちら側から下記のような操作が可能になります。

放送モードを切り換える

放送モードには下記の2種類があります。

4分割モード

接続している端末が、こちら側の映像も含め、4分割されて表示されます。



音声検出モード

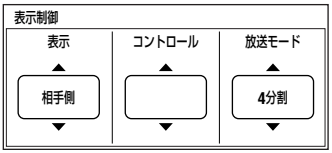
音声が一番大きい地点を検出し、その地点の映像が他のすべての端末にフルスクリーンで表示されます。音声検出モードのときは、モニター画面に V.A が表示されます。

こちら側の映像が放送されているときは、モニター画面に ▦ が表示されます。

会議を始めるときはマルチポイント設定メニューの放送モードで設定したモードになっています。

1 リモートコマンダーの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。



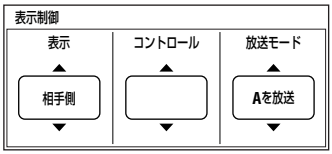
2 リモートコマンダーのジョイスティックで放送モードの「4分割」または「音声検出」を選び、ジョイスティックを押す。

それぞれのモードに切り換わります。

放送する端末を手動で選ぶ

放送したい端末の映像を選択して、他の端末へ送信することができます。このとき、4分割モードと音声検出モードは解除され、画面表示は選択された映像のみとなります。

リモートコマンダーのジョイスティックで放送モードの放送したい端末番号を選び、ジョイスティックを押す。



選んだ映像が放送されます。

にA、B、Cのアルファベットが付き、放送されている端末を表示します。アルファベットが付いていないときは、こちら側の端末の映像が放送されています。

4分割モードまたは音声検出モードに戻るには

リモートコマンダーのジョイスティックで放送モードの「4分割」または「音声検出」を選び、ジョイスティックを押してください。4分割モードまたは音声検出モードに戻ります。

こちら側の映像を確認する

音声検出モードのときは、こちら側の映像をこちら側にのみ表示することができます。こちら側以外の端末は音声検出モードの状態になっています。

リモートコマンダーの相手/自分ボタンを押し、表示の「自分側」を選んでください。
こちら側の映像が画面に表示されます。

音声検出モードに戻るには

リモートコマンダーの相手/自分ボタンをもう1度押し、表示の「相手側」を選んでください。

子端末から送信要求を受ける

接続されている端末から「MCV*」を受信すると、その端末の映像が他の端末に自動的に放送されます。4分割モードの場合、4分割モードは解除され、フルスクリーンで放送されます。「MCVキャンセル」を受信すると、元のモードに戻ります。

* MCUに対して端末が出すコマンドのひとつで、その端末の映像を他の端末に一斉送信したい場合に使用します。

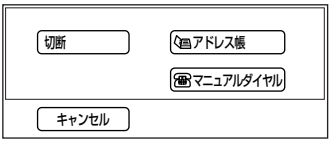
ご注意

すでに他の端末から「MCV」を受信していたり、放送する端末を指定していたときは、「MCV」を拒否して、上記の動作を行いません。

多地点会議を終了する

1 リモートコマンダーの接続/切断（☎/⏏）ボタンを押す。

下記のメニューが表示されます。



2 リモートコマンダーのジョイスティックで「切断」を選び、ジョイスティックを押す。

画面が4分割に切り換わり、下記のメニューが表示されます。

3 **一部の端末を切断する場合は**

リモートコマンダーのジョイスティックで切断する端末の番号を選び、ジョイスティックを押す。

選択した端末の接続が切れます。

すべての端末を切断する場合は

リモートコマンダーのジョイスティックで「全切断」を選び、ジョイスティックを押す。またはリモートコマンダーの接続/切断（☎/📞）ボタンをもう1度押す。

すべての端末の回線が切れます。

回線を切るのを中断するときは

手順**3**で「キャンセル」を選び、ジョイスティックを押してください。

二次端末の取り扱い

本機で設定している能力に満たない端末が接続された場合には、その端末を二次端末と呼びます。
二次端末が接続されたときは、下記のようになります。

音声電話が接続されたとき

音声電話は1端末だけ接続することができます。2端末以上を接続しようとすると、回線を切断するか、接続を拒否します。
音声電話が接続されても、テレビ会議端末の音声モードには影響がありません。また、音声電話が会議を終了してもテレビ会議端末に影響はありません。

回線数を「2B」に設定していて、1B端末との混在が発生したとき

2B端末とは2B接続の会議を行います。1B端末は二次端末とし、音声の送/受信と映像の受信は行いますが、映像の送信は行いません。
その後、2B端末が会議を終了し、1B端末だけになったときは、1B端末での音声・映像の送/受信を伴ったテレビ会議に自動的に移行します。

非制限網（64 Kネットワーク）での会議のとき、制限網（56 Kネットワーク）との混在が発生したとき

制限網へ自動的に移行します。移行できない端末は二次端末とし、音声の送/受信と映像の受信は行いますが、映像の送信は行いません。

音声モードが違う端末が接続され、映像ビットレートが違っているとき

映像ビットレートの低い端末に音声モードを合わせます。音声モードを合わせられない端末があると、この端末を二次端末とします。二次端末には音声の送/受信と映像の受信を行いますが、映像の送信は行いません。

映像デコードフレームレートの低い端末が混在しているとき

接続している中でフレームレートが一番低い端末のフレームレートに合わせて、全端末へ映像を送信します。

ビデオがQCIFしかない端末が混在しているとき

QCIF端末へは映像を送信しません。

画像モードが「H.263」に設定されているときは

すべての端末がH.263のときのみ、H.263で動作します。H.261の端末が混在しているときは、自動的にH.261で動作します。

マルチポイントの属性表

番号	属性	値
1	単体のマルチポイントに接続可能な最大端末数	3（自分も含めると4）
2	単体のマルチポイントでサポート可能な並行開催（独立）の最大会議数	1
3	他のマルチポイントに接続可能なポートの最大数	0
4.1	各ポートにおける網インターフェース	BRI
4.2	制約網能力	Restrict_Required
5	各ポートで利用可能な転送レート	2B、1B
6	音声プロセッサー	あり
6.1	ミクスト/切替 「沈黙」ポートの雑音/エコー抑制	ミクスト なし
6.2	各ポートでの音声アルゴリズム	G.711、G.728、G.722
7	映像プロセッサー（動画）	あり
7.1	切替/ミクスト	音声検出/4分割/ユーザー制御
7.2	各ポートでの映像アルゴリズム	H.261、H.263
8	データプロセッサー	なし
8.1	データ同報送信機能、LSD データ同報送信機能、HSD	なし なし
8.2	MLPプロセッサー	なし
9	暗号化	サポートしない
10	選択された通信モード—SCMの選択方法	ユーザによる設定：回線レート（1B/2B） 音声（G.711/G.722/G.728） 自動：映像フレームレート(7.5/10/15fps）映像エンコードモード（CIF/QCIF） 制限網・非制限網の切り換えはユーザーによって自動と制限網固定の選択が可能 H.261固定・H.261とH.263の自動判定はユーザーによって選択が可能
11	二次端末の取り扱い	音声の送/受信はするが、映像は受信のみ
12	着信設定規定	予約発/着信機能なし
13	制御能力	—
13.1	端末の番号付け BASを使用する簡易議事制御	なし なし
13.2	MLP機能（T.120）	なし

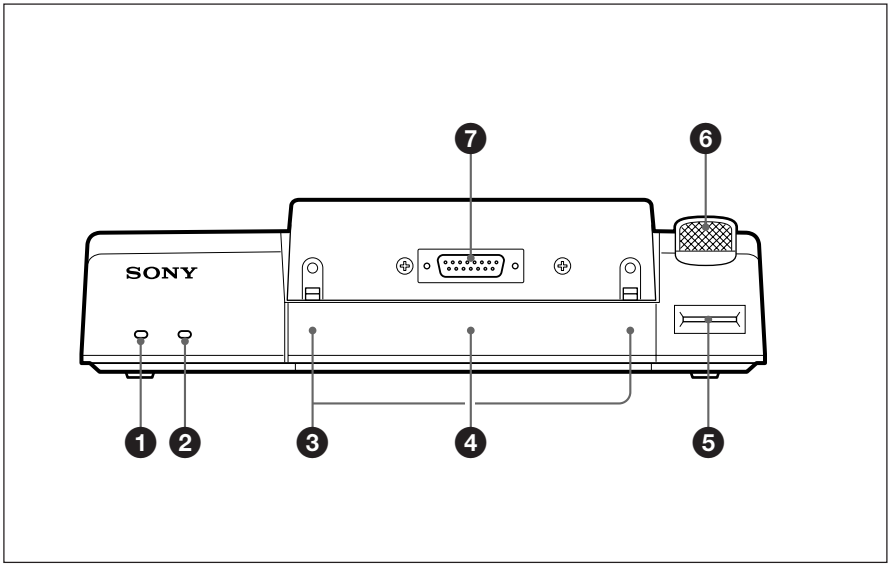
番号	属性	値
13.3	H.224（シンプレックスデータ）	なし
14	カスケーディング	なし
14.1	固定レート（「シンプル」）	なし
14.2	マスター / スレーブ	なし
15	端末識別	なし
16	MBE能力	なし

付録

各部の名称と働き

コンパクトプロセッサー

メインユニット（前面）



❶ POWER（電源）ランプ（緑）

POWERスイッチをオンにすると点灯します。コンパクトプロセッサーがスタンバイ状態になるとランプは消えます。スリープモードに入ると点滅します。

❷ STANDBY（スタンバイ）ランプ（オレンジ）

コンパクトプロセッサーがスタンバイ状態になると点灯します。スリープモードに入るとランプは消えます。

❸ 赤外線受光部

別売りのドキュメントスタンドPCS-DS150から発信されるワイヤレス信号をこの受光部で受信します。受信された信号は入力（オブジェクト）として使用することができます。

❹ リモコン受光部

リモートコマンダーをこの部分に向けて操作します。

この受光部を使用するときは、一般設定メニューの「リモコン入力部」を「本体」に設定してください。工場出荷時は「メインカメラ」に設定されています。

❺ メモリースティックスロット

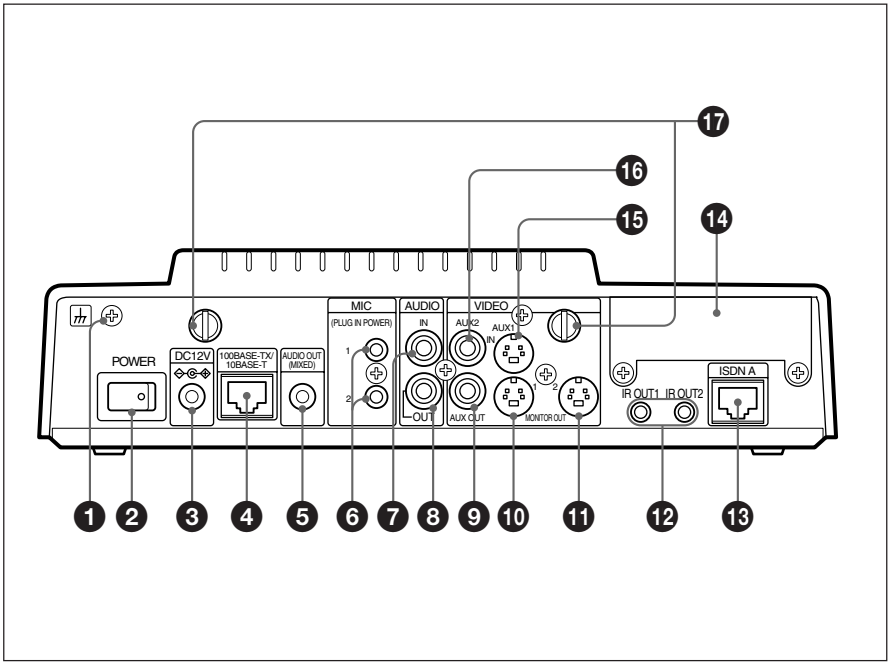
“メモリースティック”（別売り）を挿入します。

❻ マイク

❼ CAMERA端子

カメラ後面のPROCESSOR端子と接続します。

メインユニット（後面）



❶ ⏚（アース）端子

アース線を接続します。

❷ POWER（電源）スイッチ

コンパクトプロセッサーの電源を入 / 切します。

❸ DC 12V端子

付属のACアダプターPCS-AC15を接続します。

❹ 100BASE-TX/10BASE-T 端子（8ピンモジュラー）

LANでミーティングを行うときに使用します。カテゴリー5のケーブルを使ってハブなどに接続します。

❺ AUDIO OUT（MIXED）（音声出力）端子（ピンジャック）

議事録として音声を録音するときに使用します。この端子からは、こちら側と相手側の音声がミックスして出力されます。

❻ MIC1/MIC2 端子/（PLUG IN POWER）（ピンジャック）

別売りのマイクロホン PCS-A300を接続します。マイクロホンにはコンパクトプロセッサーから電源が供給されます。

❼ AUDIO IN（音声入力）端子（ピンジャック）

別売りのVTRやオーディオ機器の音声出力端子と接続します。

❽ AUDIO OUT（音声出力）端子（ピンジャック）

モニター用テレビの音声入力端子と接続します。

❾ VIDEO AUX OUT（補助映像出力）端子（ピンジャック）

モニター用テレビやVTRの映像入力端子と接続します。

❿ VIDEO MONITOR OUT1（モニター用映像出力）端子（ミニDIN4ピン）

モニター用テレビやVTRの映像入力端子と接続します。

⓫ VIDEO MONITOR OUT2（モニター用映像出力）端子（ミニDIN4ピン）

デュアルモニターシステムで使用するとき、静止画用モニターの映像入力端子と接続します。

⓬ IR OUT1/2端子

付属のIRリピーターを接続します。VIDEO MONITOR OUT1端子に接続したモニターのIRリピーターはIR OUT1端子に、VIDEO MONITOR OUT2端子に接続したモニターのIRリピーターはIR OUT2端子に接続してください。

⓭ ISDN A 端子（8ピンモジュラー）

ISDN モジュラーケーブルを使ってISDN回線に接続します。

⓮ インターフェースボード用スロット

別売りのインターフェースボードを取り付けます。

⓯ VIDEO IN AUX 1（補助映像入力1）端子（ミニDIN 4ピン）

別売りの映像機器などの映像出力端子と接続します。

⓰ VIDEO IN AUX 2（補助映像入力2）端子（ピンジャック）

別売りの映像機器などの映像出力端子と接続します。

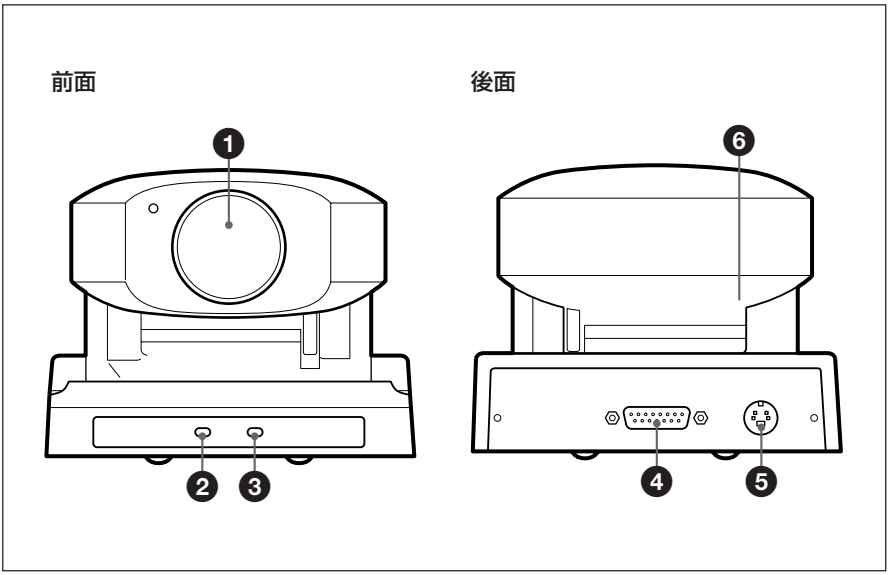
⓱ カメラ固定ネジ

カメラをメインユニットから取りはずすときに、ゆるめてください。

⚠注意

カメラ固定ネジをしっかり締めないと、カメラが落下し、けがの原因となることがあります。

カメラ部



❶ レンズ

❷ POWER（電源）ランプ（緑）

POWERスイッチをオンにすると点灯します。コンパクトプロセッサーがスタンバイ状態になるとランプは消えます。

❸ リモコン受光部

リモートコマンダーをこの部分に向けて操作します。通常は、メインユニットのリモコン受光部ではなく、カメラのリモコン受光部を使用してください。

❹ PROCESSOR端子

メインユニットのCAMERA端子と接続します。

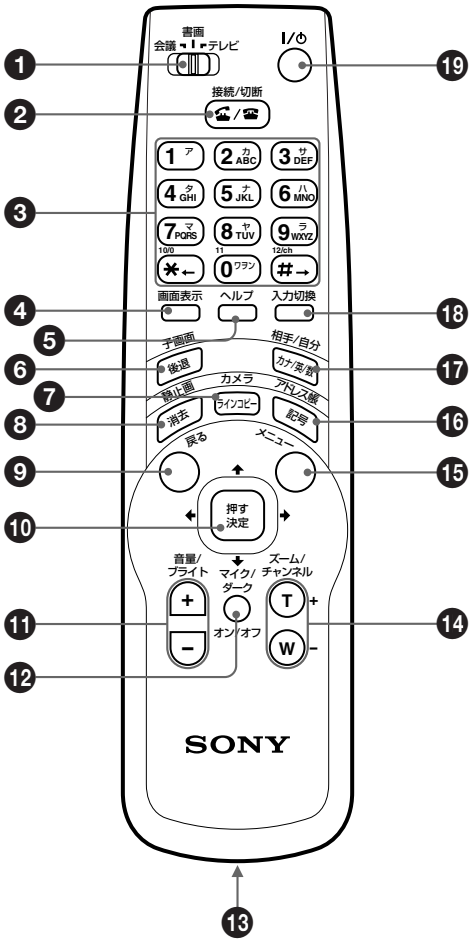
❺ VISCA OUT端子

本機では使用しません。

❻ BACKUPスイッチ

ONにしておくと、プリセットの設定を保持します。

リモートコマンダー



（続く）

リモートコマンダーのボタンを押したときのビープ音は、メニューの設定で音が出ないようにすることもできます。

◆ 詳しくは、「音声設定メニュー」(103ページ)をご覧ください。

ご注意

コンパクトプロセッサーを操作するときは、会議/書画/テレビ切り換えスイッチを「会議」に設定してください。

❶ 会議/書画/テレビ切り換えスイッチ

リモートコマンダーで操作する機器を選択します。

会議: コンパクトプロセッサーを操作するときに選びます。

書画: 別売りのドキュメントスタンドPCS-DS150を操作するときに選びます。

テレビ: ソニー製のテレビを操作するときに選びます。

◆ ドキュメントスタンドの操作方法は、ドキュメントスタンドの取扱説明書をご覧ください。

❷ 接続/切断 (☎/⏏) ボタン

ミーティングをする相手と接続するときや、回線を切るときに使用します。

❸ 数字 (0〜9、#、 *) ボタン

回線番号などの数字や名前などを入力するときに使用します。

また、フォーカス調整、画像の明るさの調整、逆光補正などを行う場合にも使用します。

◆ 詳しくは、61〜62ページをご覧ください。

❹ 画面表示ボタン

画面表示を入/切します。

❺ ヘルプボタン

オンラインヘルプを画面に表示するときに押します。

❻ 子画面 (後退) ボタン

子画面を表示します。

文字を入力するときは、押すと、最後に入力した文字が消えます。

❼ カメラ (ラインコピー) ボタン

カメラメニューを表示するときに押します。

文字を入力するときは、押すと、番号を下の欄にコピーします。

❽ 静止画 (消去) ボタン

静止画メニューを表示するときに押します。

文字を入力するときは、押すと、1行分の文字を消去します。

❾ 戻るボタン

メニューのひとつ前の階層に戻ります。

❿ ジョイスティック

メニューの設定を選んだり、決定します。カメラのアングルを操作するときにも使います。

⓫ 音量/ブライト (+/−) ボタン

コンパクトプロセッサーの音量を調整します。

+: 音量が大きくなります。

−: 音量が小さくなります。

⑫ マイク/ダーク（オン/オフ）ボタン

こちらからの音声を相手に送るのを中断するときに押します。再び音声を相手に送るときは、もう1度押します。

ご注意

ボタンにダークと書かれていますが、このシステムでは機能しません。

⑬ 電池入れ（後面）

単3形乾電池を2本入れます。

⑭ ズーム/チャンネル（T+/W−）ボタン

コンパクトプロセッサーのカメラのズームを操作します。

T+: 画像が大きくなります。

W−: 画像が小さくなります。

⑮ メニューボタン

メニューを表示するときに押します。

⑯ アドレス帳（記号）ボタン

アドレス帳メニューを表示するときに押します。

文字を入力するときは、記号入力ボタンとして機能します。

⑰ 相手/自分（カナ/英/数）ボタン

相手側とこちら側の映像を切り換えます。

⑱ 入力切換ボタン

映像入力を選択します。押すたびに映像入力を切り換えます。

⑲ I / ⏻（電源）ボタン

コンパクトプロセッサーの電源が入っているときは、押すとスタンバイ状態になります。スタンバイ状態のときは、押すと電源が入ります。

モニター用テレビを操作するときは

ご注意

モニター用テレビを操作するときは、会議/書画/テレビ切り換えスイッチを「テレビ」に設定してください。

⑪ 音量/ブライト（+/−）ボタン

モニター用テレビの音量を調整します。

+: 音量が大きくなります。

−: 音量が小さくなります。

⑭ ズーム/チャンネル（T+/W−）ボタン

モニター用テレビのチャンネルを選びます。

T+: チャンネルが大きくなります。

W−: チャンネルが小さくなります。

⑱ 入力切換ボタン

モニター用テレビの映像入力を選択します。

⑲ I / ⏻（電源）ボタン

モニター用テレビの電源を入/切します。

メッセージ一覧

コンパクトプロセッサーを操作中、モニター用テレビの画面にメッセージが現れたら、下記の表で確認してください。

メッセージ		意味
正しいセットアップをしてください		相手が登録されていない、または登録内容が正しくない。
回線を完全につなぐことができません （下記のISDN理由コードとメッセージが表示されます。）		
0	理由なし:	もう一度ダイヤルしなおしてください。
1	該当番号なし:	相手側の電話番号を確認してください。
2、3、6	回線渋滞:	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
16	正常切断:	（通常の回線切断です）
17	通話中:	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
18	相手側応答なし:	相手側TV会議装置の接続を確認してください。
19	相手側応答なし:	相手側TV会議装置の接続を確認してください。
20	加入者不在:	相手側の電話番号を確認してください。
21	通信拒否:	相手側TV会議装置の接続を確認してください。
22	相手側番号変更:	相手側の電話番号を確認してください。
26	接続復旧要求:	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
27	相手側故障中:	相手側TV会議装置の動作を確認してください。
28	無効な番号:	相手側の電話番号を確認してください。
31、34、41～44、47	回線不通:	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
50	未契約:	相手側回線の契約内容を確認してください。
57、58	伝達能力不許可:	[回線レート] の設定を確認してください。
70	能力制限:	[回線レート] を [56K] に設定してダイヤルしてください。
88	端末属性不一致:	相手側TV会議装置の接続を確認してください。
91、95～102、111	手順誤り:	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。

メッセージ		意味
128	H.221同期取得失敗:	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。
131	基板不一致:	オプションの回線I/Fボードを確認してください。
134	物理的同期取得失敗:	ISDNケーブルの接続を確認する。
144	Bonding同期取得失敗:	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。
145	Bonding同期取得失敗:	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。
177	LAN接続タイムアウト:	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
178	LAN接続拒否:	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
179	DNSエラー:	DNSを確認してください。
180	自分にはダイヤルできません:	相手先のアドレスを確認してください。
181	ゲートキーパーエラー:	相手先のアドレスを確認してください。
話し中のためつなぐことができません		相手の回線が使用中なので接続できない。
相手側の都合で送れません		相手が何かの作業を行っているので、静止画を送信することができない。
回線をつなぐためメニューを閉じてください		ミーティングを行うときはメニューを閉じてください。
回線の一部がつながりません		相手側の回線番号が正しくない。
通信エラー		通信エラーが起こった。
設定エラー		通信エラーが起こった。
MCU操作は拒否されました		外部MCU接続時の操作はできない。
受信信号エラー　切断します		信号エラーが起こった。
メモリーがいっぱいです		“メモリースティック”の容量がない。
タイトルを入力してください		インデックスタイトルを入力してください。
操作はできません		—
パスワードが違います		パスワードが正しくない。
LANセットアップエラー（IPアドレス）		IPアドレスの設定が正しくない。
LANセットアップエラー（ネットマスク）		ネットマスクの設定が正しくない。

（続く）

メッセージ	意味
LANセットアップエラー（マックアドレス）	マックアドレスの設定が正しくない。
LANセットアップエラー（DHCPエラー）	IPアドレスとネットマスクが取得できない。
GateKeeper登録エラー	ゲートキーパーの設定が正しくない。
LANセットアップエラー（ゲートキーパー）	ゲートキーパーの設定が正しくない。
LANセットアップエラー（SNMPエラー）	SNMPの設定が正しくない。
LANセットアップエラー	LAN設定メニューの設定が正しくない。
メモリースティックエラー	“メモリースティック”のフォーマットが違う。

以下のメッセージは、操作やミーティングの開始、終了を確認するために表示されます。

メッセージ	意味
ミーティングを始めます	相手との接続が完了した。 これでミーティングを始めることができます。
回線の接続を始めます	相手から呼び出しを受け、システムが回線の接続動作を始めた。
ミーティングを終わります	ミーティングの終了操作が完了した。
しばらくお待ちください	データの保存中。
A（BまたはC）が退出しました	多地点間会議をしているとき、相手A（BまたはC）が会議を終了した。
インストールが完了しました	アップグレードキットのインストールが終了した。
静止画が送信されました	静止画が送信された。
静止画送信が解除されました	静止画の送信が解除された。
静止画が保存されました	静止画が“メモリースティック”に保存された。
X（1～6）番に登録されました	カメラのアングルとズームの設定がプリセットのX（1～6）番に登録された。

故障かな？

コンパクトプロセッサーが正しく動作しないときは、故障とお考えになる前に以下の項目を確認してください。

症　状	原　因	対　策
電源が入らない。	POWERスイッチがオンになっていない。	POWERスイッチをオンにしてください。(23ページ)
	リモートコマンダーの電池が消耗している。	新しい乾電池と交換してください。(19ページ)
	会議/書画/テレビ切り換えスイッチが「会議」に設定されていない。	会議/書画/テレビ切り換えスイッチを「会議」に設定してください。
音声が聞こえない・小さい。	音量が小さすぎる、または最小になっている。	リモートコマンダーの音量/ブライトボタンを押して音量を調節してください。(57ページ)
	ミーティング中の相手が音声をカットしている。	相手が音声の送信を再開するまで待ってください。
	「マイク選択」が正しく設定されていない。	音声設定メニューの「マイク選択」を正しく設定してください。(103ページ)
	音声が正しく選択されていない。	音声設定メニューの「入力切替」を正しく設定してください。(103ページ)
映像がぼやける。	フォーカスを手動で調節しているとき、フォーカスが合っていない。	フォーカスを調整してください。(61ページ)
	オートフォーカスにしてあるとき、背景が明るすぎたり、明暗がはっきりしすぎている、または参加者の衣服や背景が横じまなど細かい模様になっている。	マニュアルフォーカスに切り換え、調節してください。(61ページ)

(続く)

症　状	原　因	対　策
映像が映らない。	選んだ装置の電源が入っていない。	電源を入れてください。
	入力が正しく選ばれていない。	入力を正しく切り換えてください。（67ページ）
	入力用の外部機器が正しく接続されていない。	接続を確かめてください。（121ページ）
	回線に正しく接続されていない。	ISDN回線との接続、またはターミナルアダプターを使った回線との接続（別売りのV.35ボードを取り付けている場合）を確かめてください。（18、115ページ）
	ボイスミーティングを行っている。	故障ではありません。
相手とつながらない。	別売りのV.35ボードを取り付けている場合、ターミナルアダプターの電源が入っていない。	電源を入れてください。
	相手の回線番号を登録していない。	登録してください。（84ページ）
“メモリースティック”に静止画やアドレス帳を保存できない。	“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除する。
	“メモリースティック”の容量がいっぱいになっている。	他の“メモリースティック”に保存する。

仕様

コンパクトプロセッサー

本機はITU-T勧告H.320とH.323に準拠しています。

動画

動作帯域	56 Kbps～128 Kbps（標準） 56 Kbps～384 Kbps（PCS-I160取り付け時） 64 Kbps～1024 Kbps（PCS-UC161でアップグレード時、LANによる接続）
コーディング方式	H.261（ITU-T勧告準拠）/H.263（ITU-T勧告準拠）
画素	CIF 352ピクセル×288ライン QCIF 176ピクセル×144ライン
カラー方式	NTSC ただし、PAL方式と相互接続可能

静止画

画素	704ピクセル×480ライン
圧縮方式	H.261（ITU-T勧告準拠）Annex. D（4CIF）

音声

周波数帯域	7 kHz（G.722、ITU-T勧告準拠） 3.4 kHz（G.711/G.728/G.723.1、ITU-T勧告準拠）
伝送レート	48 Kbps～64 Kbps（G.722、ITU-T勧告準拠） 56 Kbps～64 Kbps（G.711、ITU-T勧告準拠） 16 Kbps（G.728、ITU-T勧告準拠） 6.4 Kbps（G.723.1、ITU-T勧告準拠）（PCS-UC161でアップグレード時、LANによる接続）

ネットワーク

多重分離化	映像信号、音声信号、データを多重分離化
フレームフォーマット	H.221（ITU-T勧告準拠）
回線	ISDN（BRI）1回線接続可能（PCS-I160取り付け時、3回線まで） V.35（RS-366）（PCS-I161を取り付けた場合のみ）、56 Kbps、64 Kbps、56 ～ 384 Kbps LAN（PCS-UC161でアップグレード時のみ）、64 Kbps ～ 1024 Kbps

データ伝送レート　LSD 1.2 Kbps、
4.8 Kbps、6.4 Kbps
MLP 6.4 Kbps、
24 Kbps、32 Kbps
HMLP 62.4 Kbps、
64 Kbps

サポートLANプロトコル
HTTP
FTP
Telnet
RTP/RTCP
TCP/UDP

マイクロホン

周波数帯域　7.0 kHz

リモートコントロール

相手カメラコントロール
H.281（ITU-T勧告準拠）

データ伝送　T.120（ITU-T勧告準拠）

カメラ部

映像信号　NTSCカラーEIAJ標準方式

映像素子　1/3カラーCCD（総画素数 約41万画素、有効画素数 約38万画素）

レンズ　f＝5.4 ～ 64.8 mm、F1.8 ～ F2.7、水平画角4.3° ～ 48.8°

最至近撮影距離　10 mm（WIDE端）、800 mm（TELE端）

最低被写照度　7ルクス（F1.8）/50 IREにて

被写照度範囲　7 ～ 100,000ルクス

水平解像度　460 TV本

パン・チルト機能　水平±100°、垂直±25°

その他

消費電流　12V、2.5A

動作温度　5°C～35°C

動作湿度　20%～80%

保存温度　－ 20°C～＋60°C

保存湿度　20%～80%（結露しないこと）

外形寸法　258× 134 × 216 mm（幅/高さ/奥行き）（突起部含まず）

質量　約2.7 kg

付属品　リモートコマンダー（1）
リモートコマンダー用単3形乾電池（2）
IRリピーター（2）
S映像接続コード（1.5 m）（1）
音声接続コード（1 m）（1）
ISDNモジュラーケーブル（5 m）（1）
ACアダプター（1）
電源コード（1）
マジックテープ（2）
CD-ROM（1）
操作ガイド（1）
ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内（1）
保証書（1）
レジストレーションカード（1）

リモートコマンダー（PCS-R160）

信号方式	赤外線SIRCS
制御	DC 3 V 単3形乾電池2本使用
外形寸法	50×23.4×190 mm （幅/高さ/奥行き）
質量	約 150 g（乾電池含む）

ACアダプター（PCS-AC15）

電源	AC 100V、50/60 Hz
消費電流	約 1.0 A～0.6 A
動作温度	5°C～35°C
動作湿度	20%～80%
保存温度	－20°C～＋60°C
保存湿度	20%～80%（結露しないこと）
外形寸法	93×34×165 mm（幅/高さ/奥行き）
質量	約 470 g

マイクロホンPCS-A300（別売り）

周波数帯域	7.0 kHz
外形寸法	68×15×90 mm（幅/高さ/奥行き）
質量	約200 g
電源	プラグインパワータイプ

アップグレードキットPCS-UC160/UC161（別売り）

外形寸法	50×2.8×21.5 mm （幅/高さ/奥行き）
質量	約4 g
付属品	シリアル番号シール（1） 取扱説明書（1）

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「高調波ガイドライン適合品」です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

端子のピン配列

100BASE-TX/10BASE-T端子

モジュラー端子

ピン番号	信号名	意　味
1	TPOP	送信+
2	TPON	送信–
3	TPIP	受信+
4	NC	—
5	NC	—
6	TPIN	受信–
7	NC	—
8	NC	—

VIDEO OUT MONITOR・VIDEO IN AUX 1端子

ミニDIN4ピン端子

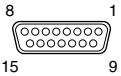
ピン番号	信号名	意　味
1	AGND	アナログ接地
2	AGND	アナログ接地
3	Y	輝度信号
4	C	色信号

ISDN A端子

モジュラー端子

ピン番号	信号名	意　味
1	NC	
2	NC	
3	TA	送信+
4	RA	受信+
5	RB	受信–
6	TB	送信–
7	NC	
8	NC	

CAMERA端子（メス）

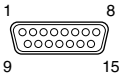


D-sub 15ピン端子

ピン番号	信号名	意　味
1	Y	ブライトネス信号
2	Y.GND	ブライトネス信号用接地
3	C	クロミナンス信号
4	C.GND	クロミナンス信号用接地
5	GND	接地
6	GND	接地
7	TxD	送信データ
8	RxD	受信データ
9	12V	12V
10	12V	12V

11	GND	接地
12	SIRCS	リモートコントロールデータ
13	DTR	データ端末レディー
14	Lock	ロック
15	GND	接地

PROCESSOR端子（オス）



D-sub 15ピン端子

ピン番号	信号名	意　味
1	Y	ブライトネス信号
2	Y.GND	ブライトネス信号用接地
3	C	クロミナンス信号
4	C.GND	クロミナンス信号用接地
5	GND	接地
6	GND	接地
7	RxD	受信データ
8	TxD	送信データ
9	12V	12V
10	12V	12V
11	GND	接地 –
12	SIRCS	リモートコントロールデータ
13	DTR	データ端末レディー
14	GND	接地
15	GND	接地

AUX CONTROL端子

D-sub-9ピン端子

ピン番号	信号名	意　味
1	DCD	キャリア検出
2	RXD	受信データ
3	TXD	送信データ
4	DTR	データ端末レディー
5	GND	接地
6	DSR	データセットレディー
7	RTS	送信要求
8	CTS	送信可
9	RI	呼出

別売りボードの端子のピン配列

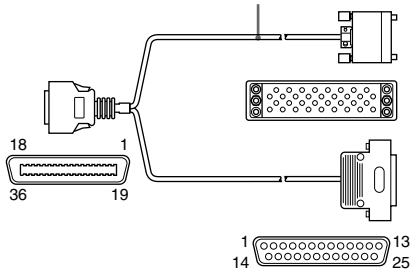
ISDN B/C端子（PCS-I160）

モジュラー端子

ピン番号	信号名	意　味
1	NC	
2	NC	
3	TA	送信＋
4	RA	受信＋
5	RB	受信 –
6	TB	送信 –
7	NC	
8	NC	

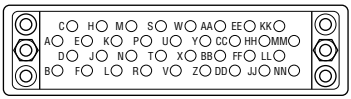
V.35端子（メス）（PCS-I161）

V.35ケーブル PCS-K32



ハーフピッチ36ピン端子

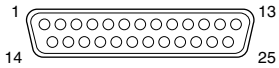
ピン番号	信号名	意　味
1	SGND	信号用接地
2	SGND	信号用接地
3	CABLE1	ケーブル1
4	V35SD+	送信データ+
5	V35SD–	送信データ–
6	V35RD+	受信データ+
7	V35RD–	受信データ–
8	V35ER	データ端末レディ
9	V35RS	送信要求
10	V35ST+	送信タイミング+
11	V35ST–	送信タイミング–
12	V35RT+	受信タイミング+
13	V35RT–	受信タイミング–
14	V35TT+	送信タイミング+
15	V35TT–	送信タイミング–
16	SGND	信号用接地
17	SGND	信号用接地
18	SGND	信号用接地
19	SGND	信号用接地
20	SGND	信号用接地
21	CABLE2	ケーブル2
22	V35RI	呼出表示
23	V35DR	データセットレディ
24	366DLO	データライン使用中
25	V35CS	送信可
26	366ACR	呼放棄
27	366DPR	数字表示
28	366CRQ	呼出要求
29	366PND	次数字要求
30	366NB1	数字信号#1ビット
31	366NB2	数字信号#2ビット
32	366NB4	数字信号#4ビット
33	366NB8	数字信号#8ビット
34	SGND	信号用接地
35	SGND	信号用接地
36	SGND	信号用接地



CCITT V.35コネクター（ケーブル側）

ピン番号	信号名	意　味
A	CGND	シャーシ接地
B	SGND	信号用接地
C	V35RS	送信要求
D	V35CS	送信可
E	V35DR	データセットレディー
H	V35ER	データ端末レディー
J	V35RI	呼出表示
P	V35SD+	送信データ+
R	V35RD+	受信データ+
S	V35SD–	送信データ–
T	V35RD–	受信データ–
U	V35TT+	送信タイミング+

V	V35RT+	受信タイミング＋
W	V35TT–	送信タイミング－
X	V35RT–	受信タイミング－
Y	V35ST+	送信タイミング＋
AA	V35ST–	送信タイミング－



D-sub 25ピンコネクター（ケーブル側）

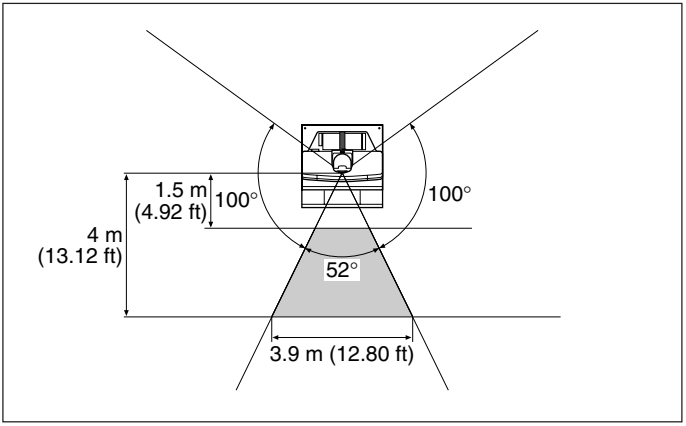
ピン番号	信号名	意　味
1	SGND	信号用接地
2	366DPR	数字表示
3	366ACR	呼放棄
4	366CRQ	呼出要求
5	366PND	次数字要求
7	SGND	信号用接地
14	366NB1	数字信号#0ビット
15	366NB2	数字信号#1ビット
16	366NB4	数字信号#2ビット
17	366NB8	数字信号#3ビット
18	366RC	共通帰線
19	SGND	信号用接地
22	366DLO	データライン使用中

ミーティングスペースのレイアウト

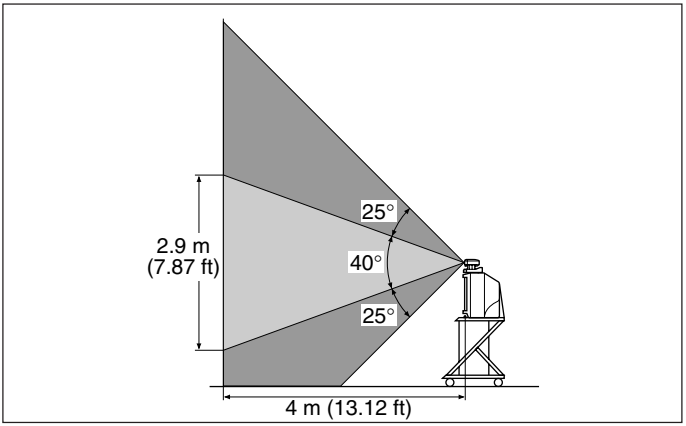
カメラに映し出される範囲

図の ▭ で示した部分が、カメラが最大にズームアウトして正面を捉えているときに映し出される範囲です。カメラのアングルを調節することにより写すことのできる範囲は ▭ で示してあります。数値はおおよその目安です。レイアウトの参考にしてください。

上から見た図（ズームアウト最大時の、左右方向の範囲）



横から見た図（ズームアウト最大時の、上下方向の範囲）

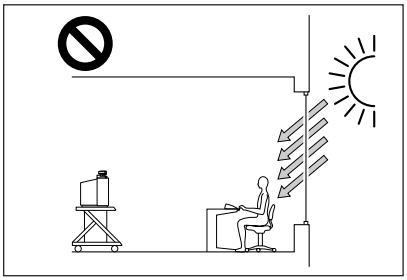


ミーティングスペースをレイアウトするときのご注意

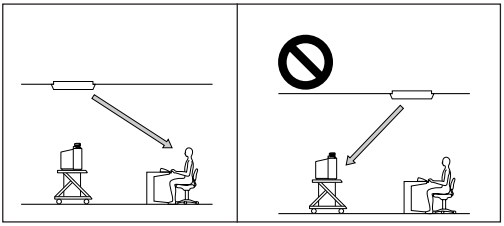
- 参加者の背景には、できるだけ物を置かないようにしてください。とくに、大きな動くものがあると、相手に送られる画像の質が低下することがあります。人が行き来するようなところを背景にしないでください。
- 木目調の壁や横縞などの細かい柄の壁を背景にすることも避けてください。
- できるだけ音が反響しない場所に設置してください。
- エアコンやコピー機など、電源ノイズの発生源となるような機器の近くには設置しないでください。
- 社内放送用のスピーカーがある部屋に設置することも避けてください。

照明について

外から光が入る窓の正面にカメラを設置しないでください。カメラの写りが悪くなります。どうしてもカメラの正面に窓がくる場合は、厚手のカーテンなどで窓を覆ってください。



ミーティング参加者に光が当たり、モニター用テレビの画面に直接光が当たらないように照明器具の位置や明るさを調節してください。
参加者の顔の明るさは300ルクス以上が目安です。



照明にインバーター方式や調光のできる蛍光灯を使用した場合、リモートコマンダーの感度が低下します。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな?」（157ページ）をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店にお問い合わせください。

用語解説

エコーキャンセラー
音声の伝送時に発生するエコーを消去し、違和感なく聞こえるようにする装置。

基本インターフェース（BRI）
ITU-Tで規定された標準的なインターフェース。2B＋Dのインターフェース構造になります。

ゲートキーパー
ネットワーク上でのH.323テレビ会議のアクセスをコントロールする装置。ゾーン管理や許可制限、帯域制限、エイリアスなどの機能を使用することができる。

コーデック
CODer-DECoderの略。音声や映像のアナログ信号をデジタル信号に変換、圧縮するコーダーと、圧縮されたデジタル信号を元のアナログ信号に戻すデコーダーが一体になった装置。

サブアドレス
ISDNにはバス配線で複数の機器を接続することができます。これらの機器の回線番号は同一になるので、同一回線にバス接続された機器にそれぞれ違うサブアドレスを付けて区別します。

フレームレート
1秒間にエンコード/デコードできるフレーム数。

リップシンク
TV会議システムで、発言者の唇の動きと音声とを同期させるために音声を遅延させて同期させること。

Bonding
Bandwidth on Demand Interoperability Groupの略。

CIF（Common Intermediate Format）
TV会議システムにおいて、NTSC方式とPAL方式がお互いに通信できるように定めた共通フォーマット。352ピクセル×288ライン

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）
動的ホスト構成プロトコル。ネットワーク内のIPアドレスを管理します。

DNS（Domain Name System）
ドメインネームシステムを規定します。

G.711
デジタル電話のためのアルゴリズム。
64 Kbpsデジタルオーディオを生成します。

G.722
このアルゴリズムは48 Kbpsあるいは56 Kbpsデジタルオーディオを生成します。

G.723.1
このアルゴリズムは6.4 Kbpsデジタルオーディオを生成します。

G.728
このアルゴリズムは16 Kbpsデジタルオーディオを生成します。

H.221
オーディオビジュアル情報の個々のフレームをデジタルチャネルに多重化するためのフレーミングに関する勧告。

H.261
p×64としても知られており、異なるメーカーのビデオコーデックがお互いに通信するためのビデオコーディングアルゴリズム、ピクチャーフォーマットおよびエラー訂正技法を記述したTV会議の標準。

H.263
H.261を基本として、より低いビットレートの回線で通信するためのビデオコーディングアルゴリズムです。

（続く）

H.320
互いに異なるTV会議システムがお互いに通信するためのTV会議の標準。

H.323
QOS非保証LAN上で通信可能なTV会議の標準。

I-Mux
Inverse Multiplexerの略。384 Kbpsでの伝送をISDNの6Bに分けて伝送することを可能にします。

ISDN
Integrated Services Digital Networkの略。電話のみならずデータ、画像、ファックスなどの異なるサービスの情報をデジタル信号によって統一し、標準化したインターフェースを介して総合的なサービスを提供するネットワーク。

ITU-T
International Telecommunication Union, Telecommunications.の略。

MCU（マルチポイント）
Multipoint Control Unitの略。マルチポイント機能を持った端末と接続すると、多地点間通信が可能になります。

PBX
Private Branch eXchangeの略。電話会社の交換局を小規模にしたもの。

QCIF（Quater CIF）
CIFの1/4の画素数を定めたフォーマット。通信速度が遅い場合に使用されます。176ピクセル×144ライン

SNMP
Simple Network Management Protocolの略。管理ステーションと管理対象システムの間での管理情報の交換プロトコルです。

TA（ターミナルアダプター）
ISDN対応機能を備えていない各種の端末機器をISDN回線に接続するためのプロトコル変換を行うアダプター。外部インターフェースを有し、一般に接続する端末に合わせて、そのポートを選択します。

V.35
広帯域モデムの勧告の一つ。実際には汎用的な端末インターフェースとして扱われています。V.35インターフェースを使用する場合、本機では、最大384 Kbpsの通信をサポートします。

4CIF
CIFの4倍の画素数を定めたフォーマット。704ピクセル×576ラインの解像度の静止画を送/受信する方法は、H. 261 Annex. Dで標準化されています。

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

Printed in Japan